

40周年記念誌

創部 1977年9月1日

日本一の ロマンを 求めて

～100年かかって日本一を 夢の継承～

40周年記念誌

日本一のロマンを求めて

東京理科大学体育局ソフトボール部
東京理科大学ソフトボール部OB会

東京理科大学体育局ソフトボール部
東京理科大学ソフトボール部OB会

発刊にあたって

昭和52年9月に発足した東京理科大学体育局ソフトボール部は、平成29年9月1日をもって創部40周年の節目を迎えました。これを記念して、ここに本誌「東京理科大学体育局ソフトボール部 創部40周年記念誌 “日本一のロマンを求めて”」を発刊いたします。

40年間にわたって多大なるご支援をいただきました諸先生方ならびに関係者の皆様、その歴史に足跡を残してきたOB(OG)、応援団各位のご協力と、現役部員たちの熱意により素晴らしい記念誌となりました。厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

この記念誌が、我々の目標(テーマ)である「日本一」への道標となるとともに、我らソフトボール部の団結の証となることを祈念いたします。

最後になりましたが制作にあたり、全面的にご協力いただいた株式会社ハイングラフ様に深く感謝申し上げます。

創部40周年記念実行委員長 森 高 紘 平
(東京理科大学ソフトボール部OB会常任幹事)

東京理科大学体育局ソフトボール部 創部40周年記念誌

《 目 次 》

□発刊にあたって	1
□目次	2
□祝辞・挨拶	3
祝辞 東京理科大学学長	藤嶋 昭 先生
挨拶 東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問	丸山 克俊 先生
挨拶 東京理科大学体育局ソフトボール部顧問・監督	柳田 信也 先生
挨拶 東京理科大学体育局ソフトボール部OB会会長	千葉 宏
祝辞 東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問	尾立 晋祥 先生
祝辞 東京理科大学学生支援センター長（教授）	藤代 博記 先生
祝辞 公立学校法人山陽小野田市立山口東京理科大学理事長	池北 雅彦 先生
祝辞 東京理科大学教授（学校法人東京理科大学理事）	兵庫 明 先生
祝辞 東京理科大学教授（体育研究室代表）	清岡 智 先生
祝辞 千葉県ソフトボール協会会長（日本ソフトボール協会評議員）	扇原 賢二 様
祝辞 千葉県ソフトボール協会理事長（日本ソフトボール協会理事）	井之上 哲夫 様
祝辞 東京理科大学体育局ソフトボール部学内指導員	和泉 巧 様
祝辞 東京理科大学体育局ソフトボール部名誉会員	網仲 幸男 様
祝辞 株式会社ハイングラフィック	佐藤 弘之 様
祝辞 ふるさと五兵衛	増尾 直文 様 信子 様
祝辞 東京理科大学体育局ソフトボール部OB会二代目OB会長	小澤 悦夫
祝辞 東京理科大学体育局ソフトボール部OB会三代目OB会長	瀬谷 光俊
□「創部40周年記念式典・記念パーティー」スナップ	21
□激動の10年間	26
丸山監督から柳田監督へのバトンタッチ	27
柳田スタイルへの変化	37
取り巻く環境の変化 ルール編	39
取り巻く環境の変化 グラウンド・生活・大学編	42
各代紹介（30代～42代）	50
ユニフォーム・部旗変遷	53
OBが追い続ける日本一	57
□[コラム]現役部員の家族インタビュー①	61
□40年間の戦績（全記録）	62
40年間の記録	64
データ分析 ～インカレで勝つために～	82
インカレの歴史	90
□[コラム]現役部員の家族インタビュー②	95
□Road to Okayama ～2017年岡山インカレへの軌跡～	96
□40年間の歩み（活動年表／OB・応援団名簿）	104
□東京理科大学体育局ソフトボール部部則・OB会会則・組織図	108
□SPECIAL THANKS／スタッフ	115
□編集後記	117

祝辞・挨拶

祝辞

東京理科大学学長 藤嶋 昭 先生



ソフトボール部創部40周年、誠におめでとうございます。しかも、2年連続での学長賞受賞、ほんとうにおめでとうございます。学長賞は大変な激戦です。これも当部の素晴らしい歴史と伝統の下、特に丸山先生・柳田先生の素晴らしいご指導の下で、歴代部員の皆様が活躍をされているからであると思っております。理科大の誇るべきソフトボール部として、これからもますます大活躍していただきたいと思います。

ソフトボール部がこれだけ良い成績を残していることについて、部員諸君が、文武両道を、“極める”という努力をされているからであると思います。宮本武蔵の“五輪書”には、様々な修行において何より大切な継続して努力することを意味する言葉として『鍛錬』があります。『鍛』とは、たゆまず休まず基礎から一千日努力することです。これはソフトボールにも通じることです。『錬』とは、その十倍の、たゆまず一万日継続して練習することです。それはまさにソフトボール部がこれまで実行してきたことであり、それによりこれだけの立派な成績を残しておられるのだと思います。

どんな場面においても、短所・欠点を『鍛錬』で補っていかねばならないと思います。そして、もう一つよく知られている言葉として、江戸幕府の三代将軍徳川家光の兵法指南役だった柳生宗矩の言葉には、『刀剣短くば一歩進めて長くすべし』とあり、戦うとき自分の剣が短い、相手の剣が長いときはどうしたらよいか、一歩進めれば長い剣を持った人に勝てる、積極性こそ最も大事だと説いております。日々努力しながら、しかし、まだ足りないものがあれば積極性をもってそれに立ち向かえば勝てるということです。

丸山先生・柳田先生のご指導の下で、ソフトボール部が40周年を迎えて、これだけ輝かしい成績を上げておられる、このことはこの二つの話と共通するのではないかと考えております。

本学の素晴らしい先生、千葉県協会会長・理事長をはじめ関係各位に多数ご列席いただいています。人と人のご縁を大事にされる丸山流ではありますが、それをしっかり受け継いで、東京理科大学の誇るべきソフトボール部として、さらに立派に充実、発展していきましょう。40周年、誠におめでとうございます。

挨拶 熱誠－素直な心と謙虚な姿勢－

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問
東京理科大学 名誉教授
丸山 克俊



本日、ここに創設40周年記念式典&パーティーが盛大に開催することができました。ご参集いただいたすべての皆様とともに、この大きな喜びを分かち合いたいと存じます。また、この3月末日をもって2期8年の任期満了となる学長・藤嶋昭先生をはじめ、学内外のご要職にある皆様に多数ご臨席賜りました。有り難く、厚く御礼申し上げます。

当部は、1977年9月1日を創部記念日としてスタートいたしました。創設時に掲げた「旗」は、「全国制覇のロマンを求めて」でありました。途中、「日本一のロマンを求めて」に変更いたしました。その意図は、学生生活において、部員一人ひとりが求める“日本一”は様々あるだろうという単純な考え方でありました。青年時代に自らの“日本一”を追求する“心(芯)棒”を自らつくりあげることは最も大切なことです。それは、自らの“熱誠”によって支えられます。「熱意と誠意は人心を動かし協力を生む＝熱誠」は、小生が最も好きな言葉です。ただし、『人心を動かす』ためには、常に“素直な心と謙虚な姿勢”が問われます。これが、運河球場で球友とともにお互いに切磋琢磨して求め続けた精神でありました。一人ひとりの“日本一”が強く結集したところに“インカレ日本一”があります。

小生は、5年10ヶ月前に「胃がん手術」をし、幸運にも命をもらいました。この40周年を機に、OB会の全体の活動は、現顧問・監督、柳田信也先生にお任せし、これからは、長い間年賀状をやりとりさせていただきながら久しくお目にかかっている諸氏と、時々、飲み語り歌いたいと決意しております。その貴重なひとときこそが、自らの人生を今一度振り返り、反省し、新たなロマンに向かう活力を与えていただけるものと期待しております。大いにおつき合ってください。また、同期会などの際には、是非お気軽にお声かけください。

この4月から、おそらく日本で初めてであろう「エンジョイ野球(ティーボール)クラブ」を幼稚園において週1回のペースでスタートさせます。そして、野球界への底辺拡大に貢献するとともにビジネスモデルを作りプロ野球選手のセカンドキャリアにも貢献したいと決意しております。その成功のために、今、“素直と謙虚”を肝に銘じて日々学習中です。

関係各位のますますのご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。

挨拶 40周年に寄せて～100年かかっても日本一を 夢の継承～

東京理科大学体育局ソフトボール部顧問・監督
東京理科大学 専任講師
柳田 信也



東京理科大学ソフトボールの40周年に際し、心からお祝い申し上げます。また、顧問といたしましては、この歴史を現在まで支えてくださったすべての皆様に厚く御礼申し上げます。当部は1977年9月に正式に発足いたしました。私は1978年生まれでございますので、ほぼ同じ年月を過ごして参りました。手前味噌ではございますが、人生においてはたくさんの歓喜、憂慮などがございました。ソフトボール部にも、同様にたくさんの出来事を乗り越えて、現在があるかと存じます。大変感慨深いことですし、一員として関わっていることを幸せに思います。このようなチャンスをいただいた丸山克俊先生には感謝の念に堪えません。

思えば、私と丸山先生の出会いは、まさに合縁奇縁と呼べるものでした。詳細は40周年記念誌をご覧ください。ただこれと存じますが、たった一言の「こんにちは、埼玉大学の柳田と申します」という挨拶で私と先生の関係は始まりました。たった一言と申しましたが、もしかするとこのたった一言が、日本一のロマンの根底にはあったのかもしれない。インカレで優勝することは目標であるけれども目的ではない。この根幹をなすのは、人物を育て、社会で活躍するリーダーを育成するという東京理科大学ソフトボール部の哲学にあります。その視点から、日常的に人間観察を怠らず、自己研鑽を積んでいらっしゃった丸山先生には、“たった一言”の挨拶ではなかったのだと今になっては感じております。実力主義を標榜し、勉学に精進しなければならない本学において、ソフトボールで日本一を目指すことは、当然のことながら容易ではありません。容易ではないことを目指すことにロマンがあります。このロマンは、顧問や監督が変わっても変わらないロマンであり続けるかと存じます。そのバトンを受け取ったものとして、強くそのことを自覚し、日々精進して参りたいと思います。部員諸君には、たった一言の挨拶を大事にできる人物であってほしいと願っています。

40周年という一つの節目を迎えた今年度、全日本大学選手権大会において、激戦を制し、勝利を収めることができました。この舞台に立つことの意味を教えてくれた、本当に楽しい時間でした。今このようにソフトボールができて環境に感謝を忘れずに、誰からも応援をしていただけるように、明るく楽しく爽やかに活動を継続していくことを皆様に誓います。今後とも変わらぬご指導、ご支援を賜りますとともに、東京理科大学ソフトボール部の日本一のロマンを共有していただけたら幸甚に存じます。

挨拶

東京理科大学ソフトボール部OB会会長 千葉 宏

東京理科大学ソフトボール部の創部40周年を心よりお慶び申し上げます。丸山克俊先生、柳田信也先生をはじめご指導いただいた先生方、支えてくださった皆様、ソフトボール部員、ソフトボール部卒業生に深く感謝申し上げます。



東京理科大学ソフトボール部OB総数は40年の歴史を経て現在260名超となりました。1977年9月1日に丸山先生と初代・第2代の先輩方が創設された部がこの集まりにつながり、2017年には、丸山先生から継承された柳田先生と第37代～第42代の後輩たちにより40周年を迎えました。創部いただいたことに感謝し、その後初代から第42代まで一代も途絶えることなくつながり、現在も継続いただいていることに感謝いたします。現在も部が続いているからこそ、創部何周年という表現もできるのだと思います。

前回30周年記念式典・パーティーを行い記念誌を発行した後、この10年間は様々なことがありました。最も大きな出来事として、ソフトボール部を指導される顧問・監督の先生が丸山先生から柳田先生に引き継がれたことがあり、今回の40周年記念企画では丸山先生から柳田先生への「日本一のロマン」のバトンタッチ、夢の継承を大きなテーマとしております。直近10年間を中心に40周年を振り返り、次の大きな節目である創部50周年(創部半世紀)に向け、しっかりとした歩みを続けてまいりたいと思います。

さて、現役の部員諸君の大活躍は、OBに大きな夢と勇気、そして感動を与えてくれております。特に全日本大学選手権大会(インカレ)出場に向けての挑戦や、インカレ出場、インカレでの活躍は、近年、大応援団が結成され、OB相互の親睦にもつながっております。昨年岡山インカレでは、強豪に激戦の末、勝利を収め、「歴史的な勝利」と観戦・応援したOBたちから熱い詳細が伝えられたことは、記憶に新しいところです。

「100年かかっても日本一を」この言葉も丸山先生から柳田先生へと継承されました。今年の正月に箱根駅伝で4連覇した青山学院大学陸上競技部は今年創部100周年とのことです。競技は違っても、良い目標として励みにしていけるのではないかと思います。

あらためて、東京理科大学ソフトボール部の40年間の歩みに関係されたすべての皆様に深く感謝申し上げます。次の10年後の50周年、その先の100周年へとつなげていけるよう、仲間の輪、球友の輪を広げていけるよう、現役部員とOB会が一丸となって誠心誠意、鋭意努力する集団でありたいと願っております。

ご来賓の皆様には、今後も当部へのご指導とご支援を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉顧問 東京理科大学 名誉教授 尾立 晋祥 先生

40周年本当におめでとうございます。私は定年になりまして今年で12年です。こういった老齢の者をこういう所にお招きいただくということは、私としては晴天の霹靂と申しますか、大変驚いておりますと共に、感謝申し上げます。



人間で言いますと40歳は、体力・知力、両方が一番噛み合った良い時代であろうと思います。東京理科大学ソフトボール部におきましても、まさに円熟期に達して、これから一皮二皮と剥けまして丸山先生がおっしゃったような形になっていくのだろーうと思っております。

私はソフトボールという競技をあんまり存じ上げてなかったのですが、定年になる頃に丸山先生から是非名誉顧問になっていただきたいということで、おつき合いさせていただくことになり、大変光栄に存じております。その時に一番強く印象に残ったのは「日本一」です。私は物理学者でございますから別の言い方をしますと、丸山先生は勝利方程式を使っておられると、勝利のための全てのソリューションを見つけたのだな、と私はその時感じまして、勝利方程式、これを別の言葉で表現し、はなむけの言葉にしたいと思います。

勝利方程式というのは、勝利に向かって全ての道筋ができていくということであり、大変重要なことであります。私はこれを「先見性」と呼んでおります。これを養うことが大切です。「先見性」ということは英語で言うところの“Pre・Science”つまり“Prescience”です。本学の前の理事長が“Con・Science”、これは「良心」、21世紀は「良心」に向かう、ということ掲げたことがあります。私は“Pre・Science”が今は重要じゃないかと考えております。

本当に世界のリーダーが“Prescience”を持っていれば戦争なんか起こりえないんです。また、国民が“Prescience”を持っていれば良いリーダーを選び出すのです。だからソフトボール部においては、部員各人が“Prescience”を磨き、実行していけば自ずと日本一になると私は確信しております。

今、囲碁の世界で人工知能、AIと勝負して何手先を読んだか、これが勝負の分かれ目になっているようですが、“Prescience”はまさにそれにあたります。また、渋谷のスクランブル交差点であらゆる方向からみんなが渡ってくる。誰もぶつからない。これを欧米のメディアは大変驚嘆して放映しております。我々は子どもの時から“Prescience”を磨いてきてるんじゃないかと、これを更に磨きをかけよう、というのが私の今日のメインテーマでございます。

そうは言っても、私自身が“Prescience”ということ意識するようになったのは60過ぎてからでございます。2006年の理工学部アルバムに“Prescience”を磨こうと書いた2ページ位の文章があります。今日はそのことを、12年振りに現役の皆さん、そしてOBの皆さんにこれをはなむけとしてお話しさせていただきました。本日はどうもありがとうございました。

祝辞

東京理科大学学生支援センター長（教授） 藤代 博記 先生



40周年誠におめでとうございます。そして、40周年を心よりお祝い申し上げます。

40年前といえば、実は私が東京理科大学に入学したときになります。理工学部物理学科出身で1978年、この部ができた1年後でもあり、大変懐かしい思いです。そのころに創部したソフトボール部がずっと継続して活躍されていて、OB諸氏と現役の皆様が集う素晴らしいコミュニティが形成されていることを羨ましいと思いますし、理科大同窓としても誇らしく思うところであります。

40年前に入学した一学生として思い出話をさせていただきます。当時の物理学科の平均在学年は5.5年でした。1年から2年生に上がるときに半分落ちていました。だいたいの学部学科も似たようなものでした。元々、関門制度でした。ご存知の通り関門科目を一科目でも落ちると留年してしまう。それはまだいいのですが、一科目ではさみしいだろうということで他の科目も合わせて不合格になるという“ありがたい”時代でした。そういった学業も厳しい時代の中で、ソフトボール部を創られ、継続して活躍されていて、今年も学長賞受賞ということで、非常に素晴らしいことだと考えております。深く敬意を表するとともに、創部40周年から50周年に向かって更に発展されることを心からご祈念申し上げ、私の祝辞とさせていただきます。

祝辞

**公立学校法人山陽小野田市立山口東京理科大学理事長
(前 学校法人東京理科大学常務理事)
池北 雅彦 先生**



40周年誠におめでとうございます。本日はお招きいただきまして、誠にありがとうございます。

一年前まで、東京理科大学野田キャンパスにおり、大学の運営の一端を私もお手伝いをさせていただきました。その際には、ここにおられる丸山先生、尾立先生、兵庫先生、清岡先生、藤代先生、新しく顧問になりました柳田先生をはじめ野田キャンパスの先生方には、大変お世話になりました。

特に、丸山先生とご縁をいただいたのはたぶん20年以上前からだと思いますが、学内の懇親会などで二次会を含めよく一緒させていただきました。その頃から、ソフトボール部の活躍ぶりはよく伺っておりました。また、本学の月刊(現在、隔月刊)科学教養誌「理大 科学フォーラム」の編集委員会でも長い間一緒させていただきました。そして、丸山先生には、「理大 科学フォーラム」編集委員長をお願いし、2年余にわたり大きなご貢献をいただきました。忘れられない思い出です。

丸山先生から柳田先生への見事なバトンタッチがなされ、ここに40周年を迎え、これから皆々様が日本一を目指してますますご発展されることをご祈念申し上げ、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝辞

東京理科大学教授（学校法人東京理科大学理事） 兵庫 明 先生



創部40周年誠におめでとうございます。

私が理科大に入学したのがちょうど1980年ということで、ソフトボール部が創立して3年後ということになります。その頃の理工学部グラウンドといえば風が吹くと砂が舞うような状況でして、そのなかで授業の後にみなさんは練習されていたんだろうなと思います。いろんなご苦勞があったものと拝察いたします。創部された頃の皆様には、特に感慨深いものがあるのではないかと拝察いたします。

池北先生から野田担当理事を引き継ぎ、皆さんの日本一にける熱い情熱を、理事の立場から微力ではありますが、協力させていただきたいと思っております。

丸山先生がほんとうに熱い心でこのたくさんの“ご縁”を創り上げられて、そのバトンが柳田先生に渡って、どんどん成長していくのではないかと考えております。

それにしても、本日のこの会場の設営からOB会皆様の姿勢や顔つきを拝見し、素晴らしいソフトボール部の魅力と迫力を実感させられております。皆様に心からエールを贈りたいと思います。

本日はほんとうにおめでとうございます。日本一目指して頑張ってください。

祝辞

東京理科大学教授（体育研究室代表） 清岡 智 先生



この度は40周年誠におめでとうございます。

ちょうど創部の時に私は理科大学生で体育会の本部役員を務めていたころでした。本日、OB席にお座りの方の顔を見ると、当時、体育会から体育局へなったばかりで、一緒に体育局を盛り上げていこうと頑張った同志の顔も見えて大変懐かしい思いです。

体育局の顧問としても、いろんな部活がある中で、実力・学生の質・OB会のまとまり具合、いろんなことを総合して付度抜きで”No.1”だと思っております。これまでの丸山先生のご尽力に深く敬意を表します。そして、バトンを受け継いだ柳田先生のご努力に大きなご期待を申し上げます。

現役諸君も体育局の一員として、OB諸氏に負けないように男っぷり、女っぷりを上げて頑張っていってください。体育研究室の一員として、皆様のその誠実な努力をしっかり応援させていただきたいと思います。

本日は、ほんとうにおめでとうございます。

祝辞

千葉県ソフトボール協会会長（日本ソフトボール協会評議員） 扇原 賢二 様



40周年誠におめでとうございます。

私がソフトボールに携わってから約45年くらい経っております。その間にご縁がありまして、東京理科大学にて大会があった時、球審を務めさせていただいた記憶がございます。その当時はまだ東京理科大学のグラウンドは凸凹が多く、木が多くて、フェンスもない時代でした。そういった時代から丸山先生とおつき合いをさせていただきました。おそらく、丸山先生とおつき合いさせていただかなかったら今日の私はないと思います。

私は丸山先生の「ロマン」という言葉、その言葉を今まで解釈する余裕がなかったんですが、昨年6月に満74歳になり、仕事をやめました。その後、この「ロマン」という言葉が非常に気になって、まさにこれから自分の「ロマン」を求めていこうと思うようになりました。平均寿命からすると、人生の残された時間は10年くらいです。人生の最後のロマンを、本日こうしてみなさんといいい縁で結ばれたことを大事にして追い求めていきたいと思います。

東京理科大学ソフトボール部のますますのご発展を祈念しております。素晴らしい柳田監督の下、日本一を目指して頑張ってください。

祝辞

千葉県ソフトボール協会理事長（日本ソフトボール協会理事） 井之上 哲夫 様



40周年誠におめでとうございます。

私は理科大には思い出がいっぱいあるんです。1977年にこの部が創部。私はその年に教員になっております。私は今、日本ソフトボール協会の記録委員長（理事）をやっていますが、当時からスコアラーをやっていました。初めてスコアラーとして大会に行ったのが理科大で開催された関東大会でした。その最初の試合は、なんと19対1でした。試合時間は4時間になっていました。忘れられない思い出です。

その後、県協会事務局長も務めることになりましたので、自分が担当した初めての仕事が理科大で開催された春のインカレ予選でした。何もわからないところで自分が仕切ることになって、その時にさあ困ったぞと思ったら、もう何もなくていいんです。丸山先生が全部やってくれました。くっついていてだけでいい。そういう思いがずっとあります。

丸山先生との長い歴史の中ではいろいろなことがありました。2時間の県協会理事会のうち1時間は私と丸山先生の議論ということもありました。その結果、今はすごく良い形で協会がうまく回るようになりました。

丸山先生のロマンと私のロマンは違います。でもやっぱり、向かう道は変わらないということで、お互いに刺激しあうことで結果的に良い結果を生んだということです。皆さんも是非議論し合って大いに頑張って、日本一を目指してください。本日はおめでとうございます。

それから皆さん、今年の8月2日～12日は、旅行は是非千葉へお越しください。

（2018年8月2日～12日、第16回世界女子ソフトボール選手権大会が千葉県で開催されます。）

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部学内指導員
東京理科大学神楽坂校舎財務部部長
和泉 巧 様



40周年誠におめでとうございます。

この部と関わったのは、私が昭和61年に東京理科大学に就職し、平成2年に野田校舎学生課に異動になったときでした。そのとき、最初の仕事が夏休みにやっております少年野球大会でした。少年野球大会運営に際し、ソフトボール部の方々には沢山手伝っていただきました。大変お世話になりました。

その時に丸山先生とはじめて出会いまして、それまで経理課におりましたので、大学の先生と接する機会が少なかったわけです。野田校舎学生課に異動になって初めて先生と接して、大学の先生ってこういった方なんだと感じたのを覚えています。そういったご縁があり、丸山先生からソフトボール部の学内指導員をやってもらえないかという話をいただきました。私はソフトボールの経験がありませんのでとお断りしましたが、丸山先生から「とにかく年に1回のコンパと全国大会に出たときの応援に来てくれればいいんだ」と熱くお誘いいただきましたので、お引き受けしました。できる限りこの約束は守ろうということで、現在も続けております。私はこれからもインカレ出場した際には応援に駆けつけたいと思っておりますので、ぜひ皆さん毎年インカレに出てください。期待しております。

祝辞

東京理科大学体育局ソフトボール部名誉会員 くすりの福太郎（薬剤師） 網仲 幸男 様



40周年誠におめでとうございます。

丸山先生はほんとうに良心の塊だと思います。試合の後の懇親会でのことです。当時学生の自殺が話題となっていたこともあり、部員・OBに対して、丸山先生が、「俺にいつでもいいから電話しろ、何か困ったことがあったら電話しろ」と真剣に語っておられました。その隣に馬場錬成先生がおられて頷いておられる。私は涙が出ました。

大学院に合格した際には丸山先生に報告に行きました。そうすると「ユニフォームを作りましょう。大学院生になったら選手登録して試合に出られる」。え？まさかと思いましたが、ユニフォームを作りました。東日本インカレでの東京学芸大学戦に代打で出場させていただきました。打球はライトに抜けそうな勢いでしたが、二塁手のファインプレーに阻まれ、アウトになりました。その時、東京学芸大学の選手を含む会場の皆が拍手してくれ、非常に感動いたしました。このようなかけがえのない経験も、やはり丸山先生と出会ったからだと思います。皆さんも、丸山先生がおられなければ今ここに集まっていないのであります。一期一会、いい言葉ですね。

学生諸君に言わせてもらいたいことがあります。困ったことがあったら、特に就活で役に立つようなOBがいたら電話しましょう。連絡とってみましょう。私は構わないと思います。この場で出会った以上、もう仲間です。ソフトボール部を通じて出会った人達が先輩であろうが後輩であろうが、もう仲間と思って、自分のこれからの人生の大きな味方とすべきです。ますますのご発展をご祈念いたします。

祝辞

株式会社ハイングラフィック 専務取締役 佐藤 弘之 様



この度は誠にありがとうございます。

私は昭和51年工業化学科に入りました。初代OBの方と同じ工業化学科出身でございます。大学2年目の時に丸山先生が赴任されまして、丸山先生の授業を受けた第1期生であります。それからずっと縁が続いておりまして、いろんな進路相談等しました。卒業する時に先生に教員になりたいというふうにお話したところ、「是非それを貫いていけ」とおっしゃっていただきました。が、その年に今の家内と知り合いました。家内は昭和51年の物理学科入学で同じ理科大卒業なんです。家内の家業が新潟市の印刷業でした。

それで今、印刷業を営んでるわけでありまして。あの時、丸山先生は「自分の道を行くんだ」と勧めてくださったんですけど、今となっては丸山先生の言うことを聞かなくて良かったなと(笑)。

その後、仕事を通して丸山先生、清岡先生、柳田先生には、大変お世話になっております。そして、こうしてソフトボール部に関わる仕事をさせていただいて、皆様とご縁を持つことができたということにほんとうに感謝しております。皆様とのこのご縁を大切にさせていただき、いつまでも理科大ソフトボール部の応援団を続けさせていただきたいと存じます。本日は、ほんとうにおめでとうございます。

祝辞

ふるさと五兵衛

増尾 直文 様 信子 様



40周年おめでとうございます。

ふるさと五兵衛はソフトボール部の皆さんのおかげで、昨年35周年を迎えることができました。私は29歳で独立開業以来、皆さんとお会いできることを励みに店を続けてこられました。今後とも陰ながら応援しておりますので宜しくお願いいたします。ご卒業されてからも皆さんそれぞれの『日本一のロマンを求めて』のご活躍を願っております。

東京理科大学ソフトボール部 万歳！！

祝辞 人生の教科書「ソフトボール部」

二代目OB会長 小澤 悦夫（第3代）

東京理科大学体育局ソフトボール部創部40周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げますとともに、当クラブに関わっていただきありがとうございます。

昭和52年9月1日に東京理科大学にソフトボール部が誕生し、私はその翌年に東京理科大学に入学しました。ソフトボール部が数あるクラブの中で一番輝いていましたのでソフトボール部に入部することを決めました。その時から現在に至るまで、ソフトボールを通して学ぶことばかりであり、私の「人生の教科書」であります。

学生時代を思い返すと、「全国制覇のロマンを求めて」という大きな夢物語に向かって、金沢で開催される全日本大学選手権で1勝することを目標に練習に励んでいました。全日本大学選手権1回戦の試合会場は前日に降った雨のためグラウンドのいたる所に水溜りができている状態でした。地元のボランティアの方々や各大学の1、2年生の懸命なグラウンド整備のおかげでグラウンド状態は良好となり試合を行うことができ、公式戦初勝利を上げることができました。そして、ベスト8へ進出しました。勝利の瞬間には何とも言えない感動と感謝の気持ちがこみ上げて来たことを今でも忘れません。試合ができたのも、監督、先輩方々の指導のおかげ、大会関係者の努力のおかげ等々すべての方々に感謝ばかりでした。

クラブ活動をとおして努力と感謝の大切さを学び、現在においても東京理科大学体育局ソフトボール部から学ぶことばかりであり、常に「人生の勉強」をさせてもらっています。

現役の皆様もクラブ活動をとおして人生の勉強をし、人として「日本一のロマンを求めて」を合言葉に努力しましょう。ソフトボール部のさらなるご活躍を心から祈念しております。



創部期のソフトボール部

祝辞「男を磨け！」 -1980年4月 野田グラウンドで-

三代目OB会長 瀬谷 光俊（第5代）

浪人中、怠惰な生活をしながら予備校通いをし、運よく東京理科大学理工学部建築学科にたどり着いた私が、「何かしなければ」とたまたま入ったソフトボール部で何日目に聞いた丸山克俊先生の冒頭の言葉。「聞いた」と失礼な言い方をしたがその時は「聞いた」だけなのだ。ただ、その言葉が頭から離れなかったことは覚えている。ある種の衝撃だったのだ。



何日かの時間が経った後、考えても、これまでにこんなに激しい言葉で、目で、体全体で話す大人はいなかった。親、親戚、中高の恩師、知人。動揺した。この言葉を体現する丸山先生とソフトボール競技そのものの魅力で5年間の学生生活を野田でおくった。もちろん建築を学んで、今は建設業に身を置いて33年になる。

これまで「男を磨け！」は時々現れて「男を磨けているか！」と自身に問いかけてきた。事が順調に進んでいるとき、行き詰まったとき、失敗したとき。新しい事を進めるとき、これまでのやり方を変えるとき、止めるとき。丸山先生のご尊顔とともに頭に浮かんでくる。

「はい、磨いています」と答えられることは、多くはなかった。ほとんどは「磨いているつもりです」、「わかりません」なのだ。それでも、その問いかけが大事な心の儀式となってこれまで歩んで来た気がする。これからも「男を磨け！」は「人間を磨け！」となって私の節目に出てくるはずだ。1980年4月、野田グラウンドの円陣での言葉は「聞いた」ではなく「伺った」でもなく、私にとって「金言をいただいた」であったと深く感じている。感謝。

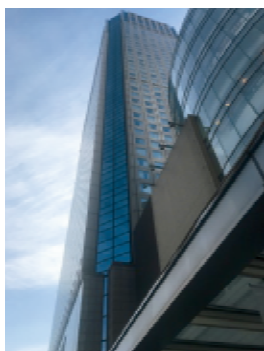
東京理科大学ソフトボール部創部40周年、おめでとうございます。そして、これまでほんとうに多数の方々のご理解とご支援を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

丸山克俊先生の激しいまでに熱いご指導とそこに集まった300名近い学生、ご支援賜った多くの方々の思いが40年の歴史となりました。この部に関われていること、関わり続けられていることの幸せを感じております。

そして、これからは柳田信也先生とその志を一つにする学生諸君が、東京理科大学ソフトボール部の次の歴史を築いてくれると期待しております。我々は「日本一のロマンを求めて」人間を磨き続ける集団であり続けたいと願って止みません。

東京理科大学体育局ソフトボール部 創部40周年記念式典・記念パーティー

2018年3月3日(土)
品川プリンスホテル
メインタワー ルビー34



会場となった品川プリンスホテル(メインタワー)



会場ステージに掲げられた看板と部旗



近年の活動状況を伝える展示品(受賞品、インカレ新聞、新旧ユニフォーム)



司会進行は宮下 翔太さん(34代)と
大和 綾巳さん(39代)



開会の辞 40周年記念実行委員長
森高 紘平さん(28代)



歴史と伝統 小寺 康彦さん(22代)



挨拶 OB会長 千葉 宏さん(8代)



会場の様子



乾杯 OB会副会長 野呂 匡さん(4代)



出席者の皆さん お世話になっている方々への感謝の気持ちをこめて



現役の余興ムービー『丸山先生と柳田先生のバトンタッチ』



現役挨拶 主将 小山 純平さん(40代)



丸山 克俊 先生ご挨拶



丸山 克俊 先生ご挨拶の後、藤嶋 昭 学長へエールを送られた



校歌斉唱 朝平 峻行さん(40代)



声高らかに校歌斉唱



現役部員が試合で用いているエールを会場全体で実施



三本締め 柳田 信也 先生



万歳三唱 兵庫 明 先生



閉会の辞
OB会副会長 高尾 浩司さん(9代)

東京理科大学体育局ソフトボール部 創部40周年記念式典・記念パーティー

出席者ご芳名

(ご芳名・所属団体等に不正確な点がございましたら部はご容赦ください)



A

東京理科大学学長 嶋崎 昭夫先生
東京理科大学学生支援
センター長(教員) 藤代 博記先生
東京理科大学教授(理事) 長瀬 明先生
山田東京理科大学理事 池北 雅彦先生
【ソフトボール部】尾立 晋洋先生
東京理科大学 社会連携
推進部長(元教員) 清岡 智先生
【ソフトボール部】丸山 史俊先生
東京理科大学 社会連携

B

【東京理科大学】堀原 智二様
【東京理科大学】井之上智夫様
【ソフトボール部】朝仲 幸男様
【ソフトボール部】相泉 巧様
【ソフトボール部】佐藤 弘之様
【ソフトボール部】柳田 信也先生
東京理科大学 社会連携

C

岩崎 晃様
大竹 明様
貞殿 宏様
山本 和男様
笠井不出男様
清水 孝様
小澤 悦夫様
清水 均様
本多 政様

D

飯山 健司様
野呂 匡様
原 雅保様
佐藤 史明様
滝川 治様
千葉 宏様
堀口 豊様
湊 弘治様
高尾 浩司様

E

古川 智志様
上原 和男様
中島 博様
山本 土朗様
三木 亜矢様
高橋 訓和様
大江 恵一様
清榮城新樹様
浦部 幹夫様

F

竹内 一博様
小田義利様
小林 智哲様
田原 康平様
小寺 智之様
中島 利充様
西村世太郎様
小寺 康彦様
武田 浩之様

G

蒲池 恵美様
波崎 良平様
森高 結平様
早川 修平様
山科みづは様
我妻 晴美様
下川 勇介様
下沖 航様
森 義博様

H

浅野 山嗣様
川島 光裕様
宮下 翔太様
林 政雄様
草谷 悠介様
藤井 祐介様
藤井 浩雄様
勝山 謙次様
小島 正樹様

I

関根 洋佑様
渡辺 舞様
石崎 一輝様
宮下 佳也様
青柳 拓弥様
大江 雄登様
児玉 佳輝様
大和 敏巳様
朝平 敏行様
小山 純平様

J

尾形 茂亮様
安藤 颯良様
堀江 陽生様
城川 佑基様
菅原 謙介様
鈴木 佑介様
田澤 佑介様
西村 圭治様
島沢 優希様
宮地 美沙様

激動の10年間

**2007年に迎えた30周年以降からの10年間で、
東京理科大学体育局ソフトボール部は
日本一へ向けて、さらなる進化を遂げた。**

丸山監督から柳田監督へのバトンタッチ ～年表で見る二人の歴史～

「熱意と誠意は人心を動かし協力を生む」丸山克俊先生が築き上げてきた東京理科大学体育局ソフトボール部は、柳田信也先生に引き継がれました。お互いの熱意と誠意に触れ、共通の目的のために協力をしていったお二人の姿の一端が少しでもお伝えできれば幸いです。

【柳田 信也 先生略歴】

2001年:埼玉大学卒業
2003年:埼玉大学修士課程修了
2007年:東京都立大学大学院博士課程修了
2008年:国際学院埼玉短期大学 専任講師
東京理科大学 非常勤講師
2015年:東京理科大学 講師



1999 風呂場での出会い

関カレが開催された茨城県にある国民宿舎つくばねの大浴場で二人は偶然一緒になった。グラウンドで見かけることはあっても会話したことのなかった丸山先生に学生柳田が挨拶をすると、「あなたはおそらく体育の専攻だね?いい目をしている!教員になるといい!!」とアドバイスを返ってきた。このときは大きな声のこの男に世話になることになるとは学生柳田はもちろん予想だにしていなかった。

2001 日本体育学会での会話

埼玉大学を卒業し大学院に進んだ学生柳田は、北海道大学で開催された日本体育学会に参加。シンポジウムでバンバン発言をしている人物が2年前に風呂場で出会ったあの男だとわかるのにそう時間はかからなかった。挨拶に向かった学生柳田に対し、「ソフトボールを専攻する大学院生を応援する!」と文武両道の学生をたたえた丸山先生はその時の会話を覚えており、同年のチャレンジカップで埼玉大学のベンチまで学生柳田を激励にやってきた。非常に好感をもった学生柳田は丸山先生と連絡をとるようになり、ここから二人の関係が本格的にスタートした。

2006 運命の再会



当時、東京都立大学大学院 博士課程を修業中だった学生柳田は、埼玉大学的女子ソフトボール部監督を務めていた。ソフト部の低迷ぶりを気に病んでいた彼は、理科大のインカレ出場のニュースを聞きつけ「勉学の大変な理科大においてどうやったらそのようなチーム運営ができるのか?」と丸山先生にメールを送った。

丸山先生はこの質問に対し大変喜び、会って話をしようとの会合(with第8代 滝川治さん)を持ち掛け、池袋駅前の服部珈琲舎での再会が実現した。

当時OB会副会長であった滝川氏が同席したのは決して偶然ではない。運命の歯車が動き出した。



2008 理科大就任

理科大の非常勤講師が急遽退職することになり、ソフトボールを専攻実技にできる人物を探していた丸山先生。

それまでの交流を通してその好青年ぶりに惚れ込んでいた柳田先生に連絡を取ったが、彼は国際学院埼玉短期大学に着任したばかりだった。それでも「専任講師ということは、非常勤には出られるのかな?」と非常勤講師としての就任を要請し、「着任早々、非常勤で掛け持ちをすることはできません。」と断る柳田先生を「どうしてもお願いしたい。場合によっては私が理事長に挨拶に行く」と熱く説得した。関係各位にも丸山先生の熱意が通じ、柳田先生の理科大非常勤講師就任が決まった。出会いから約10年。体育専攻の大学においてもめったに現れない、ソフトボール専攻で博士号を有する指導者を獲得した意味は、理科大ソフトボール部にとってとてつもなく大きかった。こうして「日本一のロマンを求めて」丸山先生と柳田先生の二人三脚が始まった。



2009 練習初参加



非常勤講師として就任した柳田先生を学内指導員として練習に参加させることにした丸山先生。

「柳田先生は研究員で結果を出さなければいけない立場でお忙しいが、来られるときには来て下さる」と学生に話し、これから少しずつチームに参画していく意向を告げる。

当時練習にいたOBいわく、人数が足りず紅白戦のライトをやることになった柳田先生は丸山先生から「普段鍛えてないと思うから無理しないように」と念押しされたにも関わらず、三塁打級のライト線の打球を必死に追いかけ、肉離れで途中退場…。

また、練習中一番ピリッとしている丸山先生の円陣にて花粉症全開でくしゃみとセキが止まらず、なんとなく失礼な感じになってしまったり、「君たちはせやがしまいんだよ!! (視野がせまいんだよ!!)」という丸山先生のカミカミトークに吹き出してしまったりと「この人はほんとに大丈夫なのだろうか？」と現役部員に感じさせてしまうスタートだったそうだ。

2010 富山インカレ出場



2011 リーグ戦初優勝



創部34年目のこの年、春季リーグ戦で全勝し、関東大学Ⅰ部リーグ戦で春秋通じて初優勝を成し遂げる。快挙の裏には、柳田先生の活躍があった。研究で忙しい中、頻繁に練習へ参加し、合宿や遠征先では学生とのコミュニケーションをとることを惜しまなかった。学生と丸山先生とは親子以上の年齢差があるが、柳田先生は良き兄貴分であった。歳が近い分、部の在り方やチームの考え方、技術で悩んでいることなどの相談がしやすかったこともあり、今まで以上に学生はソフトボールを深く考えるようになった。そこにはライト線で肉離れした彼の姿はなく、誰もが信頼するチーフコーチの姿があった。

2011 柳田新監督誕生



同年の9月、東京・王子の居酒屋で二人は飲んでいった。丸山先生から監督を打診された柳田先生は「先生の代わりはできません」と回答。それを聞き丸山先生は「完璧な回答だ。ぜひ監督になってほしい」とさらに説得を続け、「監督といっても私が31番で残るので心配いらない!」との言葉を受けて、柳田先生が承諾した。丸山監督の後継者となる柳田新監督が誕生した瞬間だった。

2012 ~バトンタッチ~



柳田新監督就任激励会/丸山先生慰労会

2012年1月14日

※その時の様子は次ページ以降参照

2015

～バトンタッチ～

丸山克俊先生 感謝慰労の会
(最終講義/感謝慰労パーティー/引退試合)

2015年3月21～22日

※その時の様子は次ページ以降参照



～バトンタッチ～

柳田先生 顧問就任

2016/2017

2016年：鹿児島インカレ出場

2017年：岡山インカレ出場



2012年1月14日 三井ガーデンホテル柏
柳田新監督就任激励会/丸山先生慰労会

2011年9月1日をもって丸山克俊先生が東京理科大学体育局ソフトボール部の監督(30番)を退任され、新たに柳田信也先生が監督に就任されました。

柳田信也先生は埼玉大学ソフトボール部ご出身で33歳(2012年当時)のナイスガイです(現在は東京理科大学理工学部教養で専任講師の任に就いておられます)。」

柳田信也新監督を応援・激励し、併せて、丸山克俊先生の監督としての長年の労に感謝の意を表し、激励会/慰労会が開催されました。



新旧監督と天野充敏さん(学外指導員)と丸山俊太郎さん



丸山前監督



柳田新監督



OB会長(2012年当時)
瀬谷光俊さん(5代)



OB会副会長 野呂 匡さん(4代)



OB会幹事長(2012年当時)
高尾浩司さん(9代)



森高紘平さん(28代)



柳田先生のプロフィール紹介



プレゼンを聞く先生方



記念ムービーを見る現役・OB



エールを送る宮下翔太主将(34代)



2015年3月21日 東京理科大学野田キャンパス 講義棟504教室

丸山克俊先生 最終講義

丸山克俊先生が2015年3月31日をもって東京理科大学をご退職されることになり、丸山先生のこれまでのご功績とご指導に感謝の気持ちを込めて、私たちににとって第二の故郷とも言える東京理科大学野田キャンパスにて、「丸山克俊先生 感謝慰労の会」が開催され、丸山先生の最終講義「グラウンドで学ぶ人生の知恵」、感謝慰労パーティー、引退試合が実施されました。感謝の気持ちとしてレリーフ(裏には球友たちの名前入り)を贈呈させていただきました。



登壇する丸山先生



講義する丸山先生と聴講するOB



講義する丸山先生と聴講するOB



広井武昭先生（名誉顧問）



堀戸重臣先生（名誉顧問）



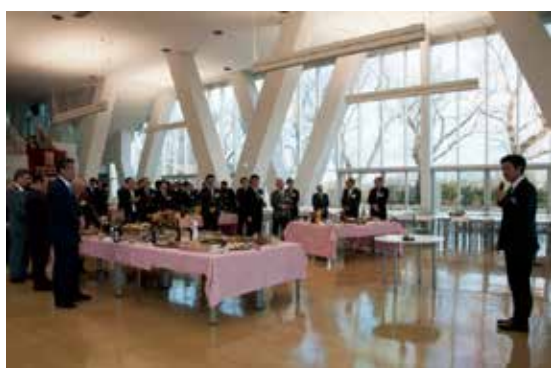
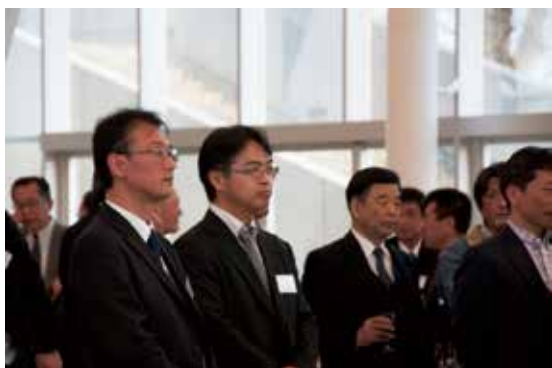
感謝レリーフ

最終講義はYouTubeで受講可能です。右のQRコードからアクセスしてください。



2015年3月21日 東京理科大学野田キャンパス カナル会館
丸山克俊先生 感謝慰労パーティー





感謝慰労パーティーの様子はYouTubeでご覧いただけます。
右のQRコードからアクセスしてください。



2015年3月22日 東京理科大学野田キャンパス 第一ソフトボール場

丸山克俊先生 引退試合

最終講義/感謝慰労パーティーの翌日に丸山先生の引退試合が行われました。数多くのOBが集まり、現役時代の歴代のユニフォームや幹部代で作成したTシャツなどがグラウンドを彩りました。

引退試合のルールは以下の通りに執り行われました。

- ①投手・丸山先生は、現役部員をバックにして、OB軍と対戦する。
- ②約60名参加の全OBと対戦するため、2試合を行う。
- ③投手・丸山先生の投球は、すべて2ストライクからとするが、3アウトではなく5アウトゲームとする。
- ④OB軍の投手は、現在も現役として投げている場合は、1ボール1ストライクからとし、そうでない場合には、丸山先生と同様2ストライクからとする。ただし、アウトカウントは3アウトとする。

第1試合は現役チームの打線が爆発し、16対1(3回コールド)で現役チームの勝利、第2試合は接戦になりましたが、現役チームが最大3点差を逆転し、11対9で勝利。丸山先生が2試合連続で勝利投手になられました。この日、丸山先生は5アウトを10イニング投げ切れ、50アウトを取り、四死球ゼロの素晴らしいピッチングでした。

試合後には、これまでの感謝を込めてマネージャー陣から花束が贈呈され、最後は全員で丸山先生を胴上げして締めくくられました。



丸山先生と朝の挨拶をする司会の中山翔さん（33代）



全員でアップ



現役部員



OB軍



OB軍ベンチ



試合で投げる丸山先生



試合の様子



表彰式



MVP賞の関根洋佑選手（37代）



マネージャー陣と記念撮影



みんなで胴上げ
引退される丸山先生

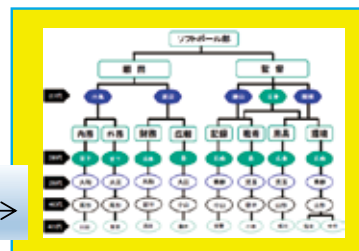
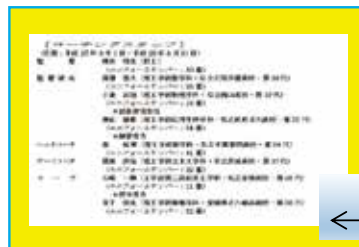


日本一のロマンを求めて 柳田スタイルへの変化

第一弾 組織改革

2016年春から理科大ソフトボール部の柳田体制が少しずつ変化を始める。まず大きく変わったのが組織図だ。右図の左上が従来の組織図だったが、引き継ぎのミスなどで上手くいってない状況が続いていた。部を支える裏方の仕事が上手くいかなければグラウンド内でも結果は出ない。

今までの各代は仲が良くって横の繋がりは強かった。しかし縦のつながりはそこまではなかった。そこで下級生にも補佐の役職を明確に与え、仕事をともにすることで縦の先輩後輩の連携を強化。この組織改革でチームがより一つになることができたと考えられる。



→ランニングメニューの多様化



←体幹トレーニング



→バドミントンの羽を用いて羽打ち



第二弾 メニューの進化

近年、野球型のスポーツにおいて、長距離走よりも150～200mぐらいの短距離から中距離のダッシュトレーニングの方が、筋持久力を鍛える面で向いているという説が出てきている。その他にも体幹トレーニング(筋トレの効果の増加や体の軸の安定性を養う)やライントレーニング(一本のラインを用いて傷害予防や効率的な体の使い方を養うもの)、ミート力の増加に向けた羽打ち。スイングトレーサー

という機器を用いてスマホアプリにてスイングチェック。最近では、選手の状態を知るために、スマホアプリで日誌をつけて目に見えて選手の状態が分かるようになりつつある。そういつた近年の技術を利用する事や、効率のよい練習方法が増えてきたことがより良い育成に繋がり、これらを続けた結果、体育学部を有するような強豪大学を倒せる力がついてきたのだろう。



↑ 2016年の高知遠征時の集合写真(スーツ)



↑ 2017年のインカレ時の移動(インカレシャツ)

第三弾 服装改革

今まで、大会や遠征、合宿のときの移動の服装は特にルールはなく、ジャージやスウェット等、各自で様々な格好をしていた。

2016年を迎えた時の部内会議で、3月の高知遠征からスーツ着用を義務付けることとした。その理由は、オリンピック選手や日本代表レベルの選手達は航空機・鉄道などの公共の交通機関の移動の時には、必ずスーツやその団体指定のブレザーを着用し、大会前からこのチームで戦いに行くぞ！という意思の疎通をして

いるのを感じ、他のスポーツがそうなのに、なぜ自分たちはそうではないのか。と考え、移動時はスーツの着用を義務付けることとした。

この時を境に、大会や合宿はもちろんのこと、遠征による練習試合もスーツを着用して移動している。この改革が行われた直後の春リーグは2位、そしてインカレ出場、秋リーグ優勝と快進撃が止まらなかった。そしてそれは今も続いている。少しの変化かも知れないが、この改革がチームをよりまとめ、大きな力を生み出している。

進化を遂げつつも、変わらない部分もある



↑ 試合開始前の『東京理科大学名物B. Bファイト』



↑ 試合中は全員が立って、みんなで戦う姿勢

これ以外にも、練習前の投手サークルを使用しての円陣。試合後の相手チームとのエール交換など、まだまだたくさんある。熱い伝統はそのまま継承し続けている。

(第39代 大江 雄登)

ソフトボールルール ここが変わりました！！

取り巻く環境の変化 ルール編

野球やソフトボールは世界に普及させるのが難しいとされています。理由は、考えてみれば当たり前のことで、例えば、サッカーと比べるとのわかりやすいかと思います。サッカーは広大な土地とボールがあれば行うことができます。しかし、野球・ソフトボールはどうでしょう？バットやボール、グローブまでを必要とし、ただ広いだけの土地でできるスポーツとは言えません。また、時間制限が具体的に決定されているわけでもなく、非常にに行にくいスポーツです。

そこで注目したのが、ルールの変更です。いかにして時間を短縮できるか、ここ 10 年で様々な新しいルールができました。まずは、それを紹介していきます。

(1) テンポラリーランナー (TEMPORARY RUNNER)

その名の通り、「一時的な走者」なのですが、これは捕手が塁上の走者となって二死となったとき、あるいは二死後、捕手が出塁し、走者となったとき、捕手の代わりに走者となる選手のことで、塁上の走者以外で、打順が 1 番最後に回ってくる選手が代わりになることができます（捕手はベンチに戻ったとされません）。元々、捕手のプロテクター等をつけるための時間短縮ルールでしたが、これは攻撃側のチームが選択できるので、戦略の幅が大きく広がりました（2015 年）。

(2) 故意四球 (INTENTIONAL BASE ON BALLS)

これは、守備側のチームが、投球せずに故意に打者を一塁に歩かせるために、投手、捕手、あるいは監督が、球審にその旨を通告することです。敬遠がボールを投げることなく行うことができるようになりました。（どんなカウントでも通告できるので、球数は四球を与えるのに必要な投球数がカウントされます。（2013 年）

(3) 20 秒ルール

日本女子ソフトボールリーグ 1 部では、各会場に専用の 20 秒計が設置されており、投手が球を受けるか球審が“ブレイ”を宣告して 20 秒以内に次の投球をしなければなりません。世界選手権大会等と同じ形で試合のスピードアップを目指しています。いずれ大学生にも適用される時がくるかもしれませんね…。

(4) その他の時間短縮ルール

「打者は、投球間にサインの確認や素振りをするとき、打者席内に片足を置いておかなければならない。」「打者は、試合中いかなるときも、故意に打者席のラインを消してはならない」という 2 つのルールがあります。この 2 つのルールは国際ルールでは定着しており、今後の国際ルール改定で変更がなければ、「完全実施」を目指す方針のようです。私達学生も、審判の方から注意を受けることがあります。「完全実施」になる前に、体に染みつかせておかなければなりません。

他にも時間短縮とは別に生まれた新ルールがあります。以下に紹介していきます。

(1) 投球時のツーステップ

いままで投手は、軸足を引きずったまま投球する（ワンステップ）ルールでした。しかし、投手板から蹴りだして、一連の動作であれば、跳んだり（ジャンピング投法）、ステップしたり（ツーステップ投法）して投球して良い、つまり、リーピングという動作が合法的な投球動作として認められることとなりました。この改定のおかげで投手は、より助走が付き、速い投球が可能になり、距離感も近くなり体感速度が上がりました。しかし、新しい投法ではバランスをとるのが難しく、十分な筋力が必要なため、ウインドミルの奥深さが増したと言えるでしょう！（2012年）

(2) 飛びすぎバットの使用禁止（革ソフトのみ）

現代技術は素晴らしいもので、年々新しいバットが開発され、より良いものが店頭に並びます。そういった時代がずっと続くわけもなく、ついに、特に高反発だった革ソフトに対し、バットに規制がかかることになりました。では、どんなバットが使われるようになったのでしょうか？

革ソフトで使用できるのは写真の通り、「100（JSA100）」の印字が入ったバットのみとなりました。使ってみると規制前のバットより飛びにくく、ホームランの数も減ったように思われました。（2016年）



↑絶大の人気を誇った「AX4」（新規制では×モデル）
ゴムソフトでは未だに使われています。



「100」の印字がされた規制バットです。→

しかし、使用に慣れてくるとホームランバッターはやはり打ちます！つまりバットのせいではないということですね…。後輩たちはまだまだ練習が足りないということです！バットが変わったからボールが飛ばない？そんな言い訳は通じませんよ（笑）。さあ、この新バットで手の皮がむけるまで、どんどん打ち込んでいきましょう…！

(3) 使用球がイエローボールへ

OB 皆さんの多くは使用する革ボールとして、白ボールを使用していたと思います。しかし、2002 年から国際大会では、黄色に赤ステッチ(革の部分が黄色で縫い目の部分が赤色)のイエローボールを使用するようになりました！2009 年から日本男子ソフトボール東日本・西日本リーグでイエローボールが使用され、2010 年から男女の日本リーグだけでなく、革ボールを使用する全ての全日本大会でイエローボールが使用されています！



過去に白ボールからイエローボール変わったことによって、ボールの見えやすさに影響を与え、パフォーマンスに影響が出るのではないか、という実験が行われました。結果はどちらのボールでも打撃成績が変わることはなく…。ただ、イエローボールのほうがプレイしやすいと当時のプレイヤーには好まれており、精神面に影響を与えている可能性があると考えられています。OB の皆さんもイエローボールでのソフトボールを楽しんでください！

ちなみに今までの白ボールはティーバッティング練習で使用しています。道具を無駄にしないところは理科大学ソフトボール部の良いところですね！

↓白ボールでティーをする部員

↓イエローボールでロングティーをする部員(岡山インカレ)



このように多くのルールの変化があり、観戦すると新しい発見もあると思います。ぜひグラウンドに来ていただき、現役へのご声援よろしくお願いたします！！

現役生活の変化

取り巻く環境の変化 グラウンド・生活・大学編

30 周年記念から 10 年…私たち現役世代は小学生・中学生時代でしょうか？私たちも歳をとったものです…。いえ、まだそんなことを言う歳ではありませんね…。

さて今回、私たち現役世代がそんな“若さ”を生かして、運河駅周辺を徹底調査いたしました！ここ 10 年で新しくできたものや変化・便利になったところなど盛りだくさんです。もちろん我々、ソフトボール部だって変化していきます。昔の風景など思い出しながら、現在までの理科大の生活の変化をお楽しみください。

①グラウンド編

私たちの日頃から使わせていただいている野田キャンパスの「**第一ソフトボール場（通称：A グラ）**」にも変化があります。グラウンドの様々なところが、かなり綺麗に、そして便利になりました。過去の先輩方の功績あつてのものですね…。「今、ソフトボール部はこんなところで活動しています。」をお伝えできればと思います。それではご覧ください。

(1) 1 塁側フェンスネット

OB の方々はご存知の通り、第一ソフトボール場の一塁側の壁の向こう側は某宗教法人の敷地となっています。いままでは、いつものグラウンドでフリーバッティングなどを行うとほとんどのファールボールがその敷地内に入ってしまう、ボールを取りに行くのは大変だったかと思います。しかし、2015 年、一塁側の壁に沿って壁の約 5 倍の高さがあるフェンスネットが完成いたしました！



これまで高さ 2～3 メートルの壁しかありませんでした…。このフェンスが出来てからは、練習だけではなく、練習試合を行う際も大変助かっております。今でも高いファウルフライなどは、その高いフェンスさえも超えて行ってしまうのですが…。たまに通りかかった方がボールをこちら側に返してくださることもあります。非常に助かっております。ありがとうございます！

こうして、日々グラウンドが便利になっていくのも、日頃から素晴らしい環境で練習が行えるのも先生方、学校の支援があつてのものだとつくづく思います。本当に感謝しなければなりません。

さあ、現役部員たち！この素晴らしい環境でどんどんバッティング練習していきましょう！

インカレで日本一になることが最大の恩返しです！

(2) おまけ

・別のグラウンドも…。

私たちが普段使っているグラウンドは第一ソフトボール場ですが、チャレンジカップなどの大会があるときは、第二・第三ソフトボール場も使用します。(普段は男子・女子ラクロス部や軟式野球サークルが使用しています。)

この二つのグラウンドが平成 28 年度の冬に工事されました。グラウンドの土が掘り起こされて、今までよりも平らになりました！これで大会や練習試合がより充実したものになりました！ありがとうございます！！

さあ、これで綺麗なグラウンドが増えて部員がたくさんいても大丈夫です！！

来年こそは…大量部員入部、狙います。お任せください。(新歓係より)

・水道が…。

夏、私達の天敵となるのは気温、太陽、汗…。東北、北海道出身部員は想像するだけで吐き気がします…。さて、そんな苦しみから救ってくれるのが、我らのマネージャーが粉を溶かして作るドリンクです。たっぷりの氷にスポーツドリンク…。これが風呂上がりに飲むキンキンの冷えたビール並みにおいしいのです。そんなドリンクの源となる水道水の出る蛇口が今までは、第一ソフトボール場のセンターフェンス裏にあったのですが…。この左下の写真を見て、OGの方々はもうお分かりかと思います。なんと、水道が取り壊されてしまったのです。現在、マネージャーはテニスコートの水道まで取りに向かいます。(もちろん男子部員は手伝いに行きます。)少し、不便になってしまった一面ですね。しかし、我が部には頼れる優しい男子部員がたくさんいます。誰もが真っ先にお手伝いしますので、これからも私達の生命線であるドリンクを作ってください。マネージャーがいなければ本当に練習できない暑さです…。これからもよろしくお願いします！(ちなみに現在は、スクイズボトルを使って水分補給しています。練習後はマネージャーが洗ってくれます。今までのペットボトルでは少々、衛生上問題ありでしたからね…。)

2L ペットボトル代わりのスクイズボトル

↓マネージャーが毎日綺麗にしてくれています！



②新・食事処 編

一人暮らしの学生にとって、食事を考えるのはとても大変です…。親からの貴重な仕送りやコツコツためたバイト代をいかに節約するかが、学生にとっては死活問題であることを、一人暮らしを経験された方はご存知でしょう。**特に、私達運動部は食べます。とにかくよく食べるのです。**そんな私達を救済してくれるのが運河駅周辺の食事処です。今回は、ここ 10 年で新しくできたお店を中心に特集してみました。昔ながらのお店に間違いはありませんが、新しいお店でも新たな発見ができて良いですよ！それではご覧ください。

(1) 鶏そば まるだい

流山街道沿い、デカ盛りで有名な「けやき食堂」に並んで 2016 年にできた新しいラーメン屋です。メインメニューである「**鶏そば**」(左下)はなんと、**学生証を見せると 500 円**で食べることができます。



この「**鶏そば**」、麺は中麺でもっちりしていて、スープは鶏白湯で非常にコクがあります。それでいてあっさりしているので飲み干してしまう美味しいスープでした。さらに、250 円で本日のセット丼をつけることもできます。1,000 円超えずに満足できるのは嬉しいですね！また、このお店では**つけ麺**(左下)も人気メニューです。



麺は太麺で、とろみのついた鶏白湯に黒ゴマを入れたスープがよく絡みます。さらに、黒ゴマの香りが鼻を抜けて一口すすれば幸せな気持ちになれます。ラーメンは「**うまくて早くて安い**」が良いですね！学生の大きな味が運河駅周辺にできて私達も嬉しい限りです。これからたくさんお世話になっていきましょう。

(2) Tasty(テイスティ)

こちらのお店はつい最近、2017 年 11 月にオープンした少々珍しい本格カレー屋です。インド人の方が経営していますが、日本語がとても流暢で、接客もとても丁寧です。

店内は、様々なこだわりが見える、おしゃれなカフェのように落ち着いた雰囲気となっています。ランチとディナーの二つの時間で開いており、運河駅西口から歩いてすぐのお店ということで、大学のお昼休みに訪れる大学生もちらほら…。



このお店が大学生に人気の理由とは…なんとカレーにはナンかサフランライス、どちらをつけるか選ぶことができ、おかわり自由となっています！

ナンのサイズは約 40 センチほどあり、出来立てなのでとてもおすすめです。5 枚も食べる部員も…。

↓夜のマトンマサラカレー（スープ付き）



ランチタイムでは **690 円のセット** からあり、この安さも人気の秘訣となっています。肝心のカレーは、伝統的なスパイスが使われており、とても豊かな風味が特徴的です。「**マトンマサラカレー（ナン）**」と「**マトンカレー（サフランライス）**」をどちらもお腹いっぱいいただきました！

スープはいつものサービスになります。（暑い日はアイスをつけてくれます。） ありがとうございます！主食の米とパンでどんどん増量していきますましょー！！



お昼のAセット（690 円）・マトンカレー



↑落ち着いた雰囲気の内

(3) 麒麟児（きりんじ）

運河駅西口を出てまっすぐ歩いていくと「竹泉」左隣に見える小さなラーメン屋です。こちらは 2012 年にオープンしたお店ですが、平日の夜は必ず行列ができるほどの人気店です。そして、人気ナンバーワンの「**油そば**」は 500 円から食べることができ、学生の財布には優しいお手頃価格となっております。写真は 1 つグレードアップした「**特性油そば**」(700 円) で、卵とタレがよく絡み、



箸が止まりませんでした！にんにくやラー油、お酢などの無料調味料もあり、飽きずに様々な味を楽しむことができました。ランチの時間に行くと、半ライスを無料でつけることができ、残ったタレと具材で余すことなく、お腹一杯いただきました！運河で美味しいラーメンを食べるならぜひここへ！！



(4) 横浜家系ラーメン「壺角家」



こちらも運河駅西口を出てまっすぐ進み、「竹泉」右側にあるラーメン屋です。もともとここは「東京チカラめし」で、その前は「パン屋」が営業…と何度も変わっています。「壺角屋」はチェーン店であり、珍しくはありませんが、その安さとうまさを求めた理科大生で溢れています。このお店の定番の「**家系醤油ラーメン**」(左中)は690円で食べることができ、さらに、学生証の提示で、大盛 or トッピング(卵やほうれん草など) or ドリンカー一杯が選べます。 加えて、麺類を注文すればライスが無料で食べ放題になるという、まさに運動部のためにあるお店と言えるでしょう！肝心のお味はというと、麺は短めですすりきれて、濃厚スープがよく絡みます。麺の固さ、スープの濃さ、油の量は三段階で選ぶことができ、自分好みのラーメンが食べられるので、濃味が苦手な方も美味しくいただけます。無料のライスとこの家系スープはよく合い、多くのネギや刻み生姜、ラー油などの無料トッピングと組み合わせれば、もはや1つの商品とも言える家系ライスが完成します。無料に甘えて、たくさん食べてホームランバッターを目指しましょう！

ただし、炭水化物と油のオンパレードなので食べすぎには気を付けましょう…。

③学業編その1 (運河駅大改装)

野田キャンパスの理科大生なら必ずお世話になっていると言える運河駅が2013年、ついに**大改装され、新駅舎になりました！**大規模な改装工事で、地上大宮方面ホーム横にあった改札口（西側）と旧駅舎が、線路・ホーム上の2階へと移動し、**東口と西口、二つの出入り口と自由通路ができました。**

~After~

↓新駅舎、上から西口、東口、改札口

~Before~

↓旧駅舎（出入り口）と旧改札口





今までだと、理科大に行くためには、たった1つの改札口を出て逆の東側へ行ってから、ふれあい橋を渡るというルートだったと思います（上図、**赤－黄線**）。しかし、この改装のおかげで**東口を出てまっすぐ歩けば、ふれあい橋にたどり着くという大幅ショートカットが実現しました（上図、青－黄線）**。また、東西、両方向から出られるようになっただけでなく、両方の出入口すぐにファミリーマートが設置され、非常に便利になっています。東口側に住む学生も増えたのではないのでしょうか？ この大改装のおかげで理科大生の電車が1本遅れるくらい余裕ができました（個人差あり）。**時間に余裕ができたからといって、だらしない生活を送るのではなく、その分1本でも多くバットを振る、1文字でもレポートを書く、そんな生活を送りたいです。**便利になることは素晴らしいことですが、それに甘えることのないように！ さあ、もうひと踏ん張り頑張りましょう！！

④学業編その2（新キャンパス設立）

2013年4月に**葛飾キャンパス（基礎工学部、工学部などが所属）が新たに設置されました。**当部では現在2人の学生が葛飾キャンパスに通っています。最寄り駅・金町駅から歩いて10分ほどの距離で、その葛飾キャンパスまでの商店街は弁当屋やラーメン屋、珍しい海鮮丼屋まで大学生に嬉しいお店がたくさんあり、野田キャンパスの学生が葛飾キャンパスに訪れると、皆うらやましく思うような、非常に素晴らしい立地です。広い立地を生かした**研究棟（左下写真）**や**講義棟（右下写真）**、そして、商店街の人々も学生に優しいと評判が高く、環境にはとても恵まれています。



そんな葛飾キャンパスのシンボルと言えるのが、図書館（左下写真・右下は内観）です。図書館は葛飾区民にも開放されており、地域連携の拠点となっています。600人収容のホールを備えており、当部はこのホールで2016年度に学長賞を受賞いたしました。また、図書館一階には葛飾区の科学教育センター「科学わくわく館」があり、子供たちの理科への関心を深めるなど、科学実験が行われたりします。このように、葛飾キャンパスは地域にも活用され、地元にも溶け込んでいます。



「葛飾」と聞けば東京が連想され、あまり運動するスペースがないように思う方もいらっしゃると思いますが、葛飾キャンパスには体育館（左下写真）やトレーニングルーム（右下写真）、テニスコートなど運動するには十分すぎるスペースがあります。当部の2人の部員は実験などで忙しくて、野田キャンパスに来られない日などは、葛飾キャンパスのトレーニングルームで体を鍛え上げています。葛飾キャンパス学生もソフトボール部でやっていける環境は十分にあると思いますので、来年からも葛飾キャンパスの新入生勧誘に力を入れます！！



各代紹介

創部 30 年から 40 年の 10 年間に彩った部員の皆さんを代ごとに紹介します。

① これだけは他の代には負けない！

② 同期での思い出 or エピソード

を教えてくださいました。

楽しかったこと、辛かったこと。

ともに乗り越えた仲間との思い出を巡らせてみてください。

そして、この先も東京理科大学ソフトボール部の歴史が続きますように...



ボーリング好きで第30代

① とにかく仲が良い

② 終電で柏に集合、夜通し投げ続け始発で帰宅！千葉県選手権後に行ったマクドナルドで、梅木部長のマックシェイクを副主将(インフル罹患)が勝手に飲み、翌日から梅木部長が 40℃ 近い発熱で帰省。2 週間以上も寝込む羽目となった。

個性のある第31代

① 運河グラウンドランの距離は他の代に負けてない。

② 幹部代の時に、やらすことが多々ありましたが、たいてい運河グラウンドランで解決していた！



グラウンドに全員がそろった時間が短い第32代

① 基礎工率の高さ&エールドクター藤倉の美声

② 三回決戦投票をしてもキャプテンが決まらなかった幹部選挙・丸山先生との電話ごっこで小林がキれる・梅沢と藤田が就活終了後に修士で現役復帰



仲の良い第33代

- ① ミーティング後の丸山先生語録のメモの量
- ② 同期みんなで車借りて大阪旅行 USJ、ひつまぶし、BBQ、海水浴(笑)と盛りだくさんでみんなのいろんな一面が見えました!

加藤金男
(理工物理)

川島充裕
(工学II部経営工)

宮下翔太
(理工土木)

佐谷南海子
(理工応生)

荒巻怜
(理工建築)

伊東咲穂
(理工応生)

河口大輔
(理工土木)

本池高太
(理工土木)

浅野由嗣
(理工情報)

毎田定弘
(理工物理)

土田健人
(理工応生)

友光裕子
(理工応生)

小澤龍正
(理工数学)

田辺晃大
(理学II部化学)

中山翔
(理工経営工)

第34代は 走りの宮下・打の川島・投の加藤

- ① 主将川島→主将宮下の同期二年連続キャプテン!
- ② 幹部として最後の遠征(丸山先生の故郷長野県豊丘村)にて、24時間ソフトボール大会がまさかの5時間半で雨天中止になり、空いた時間で温泉を楽しみました

第35代は6人6色

- ① マイペースさ
- ② 幹部のときは春リーグI部全敗からのII部降格など、とても厳しい時代でした。同期全員でインカレに行く最後のチャンス。結果は負けてしまい、悔しさで涙が溢れましたが、負けが続くバラバラだった、35代の気持ちがあひとつになったこの試合は忘れられません。

中出寛人
(理工物理)

柿沼翔太
(理工数学)

木村高也
(理工工業化)

深澤奎太
(理工数学)

伊藤宏紀
(理工建築)

後藤康宏
(理工建築)

藤井岳
(理工機械)

ト部孝文
(基礎工電子)

寺田一弥
(基礎工電子)

草谷悠介
(理工建築)

土屋翔太
(基礎工材料)

近藤恭子
(基礎工生物)

藤井祐介
(理工土木)

スーパー個性派集団第36代

- ① 浪人と留年の合計数
- ② 2013年秋季リーグで力を出し切り準優勝したとき

小島正旭
(理工物理)

勝山雄喜
(理工応生)

島崎貴志
(工学II部経営工)

渡辺舞
(薬生命創薬)

関根洋佑
(理工土木)

ON・OFF はっきりしてる第37代

- ① 茶々を入れること
- ② II部降格や監督交代など山あり谷あり、いろいろ経験した代です。学生だけで、ミーティングをひらき話し合いました。チームの意識統一に尽力しました。

石崎一博
(工学Ⅱ部経営工)

宮下佳也
(理工建築)

入退部を繰り返し波瀾万々な第38代



瓜兼雄太
(理工数学)

森裕章
(理工数学)

- ① 幹部 T シャツのオリジナリティ。全員の意見を1つずつ取り入れようとした結果、背中には桜が舞い、背番号が漢字という奇想天外な幹部Tシャツが出来上がった。
- ② 正月の熊野バッテリーキャンプに38代全員で参加した。石崎と宮下はバッテリーだったので良かったが、瓜兼と森は小学生に混ざってウインドミルの講習や守備練習等をしていた。

対称的な位置にすることでバランスがいい第39代

- ① 個が強すぎて仲が悪いように見える。だけどみんな負けず嫌いという共通点がある。
- ② 特になし。おもしろいところがエピソード。しかし、勝負事になると急にまとまりだす。2連敗で始まった4年の春リーグ。上位に4年を固めるという打順変更を申し出て、みごと3連勝した！



大江雄登
大和綾巳 (理工Ⅱ部数学)
(理工衛生)

児玉佳輝
(理工物理)

青柳拓弥
(理工Ⅱ部物理)



小山純平
(理学Ⅱ部数学)

山形承聖
(理工経営工)

朝平峻行
(理工数学)

尾形光亮
(工学Ⅱ部経営工)

第40代は光属性

- ① お酒が好きな代！
- ② 徹夜で飲んだ翌朝、ペロペロの朝平は後輩が用意した水を飲まずに頭へかけてこう言った。

「朝シャワーたまらねー」



菅原侑
(理工数学)

塩谷陸
(理工建築)

城川樹生
(理工数学)

鈴木謙介
(理工機械)

安齋頌良
(理学Ⅱ部物理)

本当に、仲がいい！第41代

- ① 基本的に土日の練習が終わった晩御飯は、みんなで食べている！要するに仲がいい。
- ② 誕生日は主役にあった文字Tシャツを買って家に集まり祝っている！12月にはみんなで富士急に行くのが恒例！



宮地美沙
(薬生命創薬)

西村主悟
(理工建築)

田澤佑介
(理工土木)

真沢優吾
(理工建築)

お互いに干渉しない第42代

- ① 我の強さ、個性の豊かさ、キャラ被りがない
- ② この4人になってからまだまだ日が浅いので印象的なエピソードは特にありません。これからこんな関係が続くかもしれないし、もしかしたらめっちゃくちゃ仲良くなるかも...これからの42代に期待してください！

東京理科大学体育局ソフトボール部

ユニフォーム変遷

改訂版

年

1977
|
1979

初代ユニフォーム(選定:初代)

記念すべき理科大学ソフトボール部最初のユニフォームはシンプルにすべて白色を基調としている。

理科大で初めてのソフトボール部ということで、真っ白な気持ち、清潔感を表現し採用した。理大のマークは漢字で、硬派に重厚に、かつ鮮烈に。そしてキラリと光るストッキングの2本ラインは……由来不明である。

創部当時は試合用ユニフォームと練習用ユニフォームの区別がなかった。今では考えられないことだが、練習と試合のユニフォームは同じだったのだ。練習後、コインランドリーに行きユニフォームを洗濯して次の日の試合に臨む、あたりまえの光景だった。しかし、所詮白いユニフォームは洗っても、洗剤のCMのように元の輝く白色にもどるはずもなく、汚れたように見えるユニフォームで試合に臨んだ。

甲府で行われた1978年の栄えある我が部最初のインカレ開会式において、他校の選手に言われた。「きれいなユニフォーム着て来いよ」。恥ずかしくもあり理科大らしい思い出でもある。



帽子：白
ユニフォーム上下：白
胸マーク：理大
アンダーシャツ：白
ストッキング：白（紺の2本ライン）

1979
|
1980

幻の2代目ユニフォーム(選定:2代)

初代のユニフォームから、白色を基調とすることに変更はないが、あまりにも汚れが目立つということで、せめて帽子とアンダーシャツだけでも紺色にという思いで微妙な変更をした。今初めて気づいた後輩諸君もいることだろう。

実はユニフォームも同じ白色の物を作り直したが、注文時のミス？によりユニフォームの生地が綿となってしまう、汗をかくとベトベトになり非常に評判が悪かった。

帽子：紺
ユニフォーム上下：白
胸マーク：理大
アンダーシャツ：紺
ストッキング：白（紺の2本ライン）

1980
|
1985

3代目ユニフォーム(選定:3代)

2代目のユニフォームがあまりにも評判が悪かったため作り直そうということになった。どうせ作り直すならば大胆にイメージチェンジをしようということになり3代目のユニフォームが誕生した。2代目のユニフォームが初代と同じユニフォームの生地で評判もそこそこだったなら3代目のユニフォームが目の目を見ることはなかったであろう。

ユニフォーム選びは、カタログを見ながら決めた。当時大洋ホエールズ(今の横浜ベイスターズ)が上下違う色のユニフォームを採用していたこともあり、時代の波に乗った感がある。このころから、大学のソフトボールチームも上下違う色のユニフォームを採用し始めたが、一歩先んじた理科大学のユニフォームはかなり目立っていた。



帽子：紺
ユニフォーム上：紺、下：白
胸マーク：RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

1985
|
1989

4代目ユニフォーム(選定:8代)

紺の縦縞に、左胸に大きく「R」の花文字、そして両袖に紺を入れたこのユニフォーム誕生のきっかけは、1985年4年連続1点差でインカレ予選に敗退後、気分を一新して5年ぶりのインカレ出場を目指そうという丸山先生のご指示からだった。

8代のエース佐藤、主将宇田が中心となり新ユニフォームのデザイン検討が始まった。

2つの最終候補が出揃ったところで部内で選考会(ファッションショー)を行い、その結果、このユニフォームの採用を決定した。(モデルを務めた9代山下と高尾のスタイル差がそのまま結果へ反映された形となったとの説あり。)最初は仕上がったときは胸のRの文字が細く、丸山先生から「胸文字はユニフォームの顔、もっと太く」とのご指摘があり、Rの文字を再度太く作り直し完成に至った。

1985年秋の関東大学選手権から着用し、翌1986年5年ぶりのインカレ出場をこのユニフォームで果たした。



帽子：紺
ユニフォーム上：白地紺縞縹紺、
下：白地紺縹
胸マーク：R
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

1989
|
1992

5代目ユニフォーム(選定:12代)

今までのユニフォームは厚手の生地であり、梅雨前のインカレ予選、真夏のインカレ本選を毎年戦う理科大学ソフトボール部には、メッシュ生地のほうが適していると判断し、ユニフォームを変えることとなった。デザインは当時幹部の中で美的センスのある江島にお願いして作った。理科大学ソフトボール部の歴代ユニフォームの中で唯一赤をアクセントとして取り入れているのが斬新である。

ユニフォームを変えた効果は絶大で、2年連続インカレ出場＆本選初戦突破を果たした。



帽子：紺
ユニフォーム上下：灰地紺縞
胸マーク：TOKYO RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

1992
|
1996

6代目ユニフォーム(選定:15代)

平成3年、9月以降の対外試合で1勝もできぬままシーズンが終わろうとしていた。そんな中で主将となったのは15代小笠原であった。彼はチームの沈んだ雰囲気を変えるため、当時の幹部全員にある話を持ちかけた。それは、幹部全員がお揃いのプレザーを購入して、節目に着用しようというものだった。話は他学年に秘密裏に進められ、納会時に初めてそれは披露された。納会時に驚いた部員達を更に驚かせたのが、彼から出たユニフォーム変更の話だった。当時の強豪、東海大学にあやかりたいと、今の星野日本のユニフォームに似た白生地に縦縞のデザインが提案され、平成4年4月からユニフォームが変更された。他のインカレ出場校に比べて見劣りが否定できなかった我がチームが、予選では劇的なサヨナラ勝ちによりインカレ出場を決め、インカレ本選でも1勝した結果は、彼のインカレに賭ける熱い想いの結晶でもあった。



帽子：紺
ユニフォーム上下：白地紺縞
胸マーク：TOKYO RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

1996
|
1999

7代目ユニフォーム(選定:19代)

19代で考案した最高傑作、米メジャーのマリナーズに似たタイプ。シンプルでかつ理科大らしい爽やかなイメージを追求。また、キャップのロゴを複数文字とし、ズボンはロングタイプと、今までにない斬新なアイデアも取り入れられた。ただ、如何せんズボンがきつく、汚れが落ちにくいという欠点もあった。しかしズボンに付いた黒い汚れを見るたびに、桜島の溶岩グラウンドでの激闘が思い出される。



帽子：紺
ユニフォーム上下：白地
胸マーク：TOKYO RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

1999
|
2016

8代目ユニフォーム(選定:22代)

当時の理科大のユニフォームは3、4年周期で変わるのが常だった。そのことに疑問を感じ、ゴッドのお告げを受けた男たちがいた。22代幹部である。強豪校(日体、早稲田、国士館など)のユニフォームはいつのときも変わらず、そこには伝統と強さが宿っているのではないかと。理科大もそうあるべきではないのかと…

しばらくはデザインの変更をしないことを前提に、OBの方へのデザインに対する意見募集、当時の大リーグで主流だった三重千鳥刺繍の採用、丸山先生のストライプ案の却下等、紆余曲折を経て完成したのが2016年まで続いたユニフォームである。またデザイン変更はユニフォームだけにとどまらず、帽子の字体やスパイクの色にまで及んだ。上から下まで随所に主将の小さきをはじめとする当時の部員の強い思いが込められている。



帽子：紺
ユニフォーム上：紺地、下：白地
胸マーク：TOKYO RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

NEW

2017
—
現在

9代目ユニフォーム(選定:40代)

創部から40年の節目を迎えるということで新ユニフォームを制作することになった。

今回のコンセプトは、丸山体制から柳田体制へのバトンタッチ。今までの伝統はそのままに、かつ、新しい技術を加えることを意識。制作していく中で“昇華プリント”の存在に辿り着いた。昇華プリントとはユニフォームに直接、文字や数字を印刷する技術のことで、今までの刺繍に比べて重量が軽く、伸縮性に富んでいるため、激しい動きにも対応しやすい。印刷であるため、制作者が思い描く複雑なデザインでもプリントすることが出来るのも特徴だ。

前ユニフォームと違いをつけるために、今回のデザインはよく見ると薄く縦縞が入っている。文字の内部は赤色で、背番号にも赤色を入れた。

メインカラーの紺色を受け継ぎ、新しい技術の昇華プリントを取り入れた新デザインで日本一を勝ち取り、理科大と言えばこのユニフォーム！といわれるような黄金世代を作っていきたい。



帽子：紺
ユニフォーム上：紺地
下：白地
胸マーク：RIKADAI
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

●番外編●

OB会ユニフォーム(選定:3代)

OBのユニフォームを作ろうということになり、第3代部長の本多にユニフォームのデザインを一任したところ、本多が愛知県出身で生粋の中日ドラゴンズファンだったため、当時の中日のユニフォームに似たものとなってしまった。現役から見ると、このOBユニフォームは一種のステータスであったが、時の流れは容赦がなく、今なおOBユニフォームを見事に着こなせるOBは数少ない。理科大ユニフォームの歴史の中で唯一ボタンのないブルオーバータイプ。



帽子：紺
ユニフォーム上：紺地肩白
下：白地
胸マーク：RIKADAI CLUB
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

理科大CLUBユニフォーム

理科大クラブというクラブチームをご存知だろうか？関東地区の理科大ソフトボール部OBを中心に昔執った杵柄でストレスを発散しようというチームである。当初はOB会のユニフォームで活動していたが、学内指導員の門田さんの力投もあり、結成3年目にして全日本クラブチーム選手権大会に出場を決めたことを機にユニフォームを制作した。チーム名は「Rikadai OB」の頭文字を取って「ROBスターズ」にとの案もあったが「エビかよ！」の一言で却下となり、無難に「R CLUB」となった経緯がある。

ユニフォームはJAPANのビジター用をモチーフにしたタイプで好評を博しているが、残念ながら現在はよんどころない事情により活動休止中である。



帽子：紺
ユニフォーム上下：灰地縦縞
胸マーク：R CLUB
アンダーシャツ：紺
ストッキング：紺

部旗変遷

年

創部
|
2016

初代・2代目部旗デザイン

体育局準加盟(同好会)から正式に“部”として昇格した1978年11月。他大学ソフトボール部は部旗を有していたが、理科大ソフトボール部は持っていなかった。

丸山先生の提案もあり、初代部旗には創設期メンバー(初代・2代)の名前が記されている。

初代部旗のインカレデビューは1981年8月21日、第16回全日本大学選手権大会(山口県宇部市)。開催地出身の田中氏(5代)が旗手を務めた。

創成期は今のようない立派なグラウンドも専用部室も何もなく、与えられた広場のようなところで雑草をむしりながら、グラウンド整備をしていた時代から受け継がれてきたデザイン。「東武野田線に部旗忘れちゃった事件」など、当時の現役の成長を見守ってきた。

2代目部旗は1992年(平成4年)に、初代部旗の老朽化を理由に卒業生からの寄付にて更新。デザインはそのまま引き継がれた。



NEW

3代目部旗デザイン

今まで各団体ごとに作成していた部旗を2017年に全キャンパスのI部体育局で統一することになった。

これまで体育局とはいうものの、各部はそれぞれで運営を行い、各々のために、それぞれのやり方で成果を上げてきた。

各団体に「東京理科大学の看板を背負っている」という自覚と責任感を持たせるために、さらにはバラバラだった各団体が仲間意識を持ち、体育局を中心に東京理科大学全体を盛り上げることを狙って、デザインが統一された。

東京理科大学の公式マークとフォントを使用したデザインとなった。



2017
|
現在

OB が追い続ける“日本一”

卒業後、クラブチームに所属して、日本一の夢を追い続ける OB 達が語り合いました。



2017 年 12 月 29 日 居酒屋ふるさと五兵衛さんにて

座談会参加メンバー

(左奥)34 代: 宮下翔太: 2010 富山インカレ出場。最初の勤務地で日本リーグチームに在籍。

第 35 回全日本クラブ選手権優勝。現在は浅野と同チームに所属。

(左前)33 代: 浅野由嗣: 2010 富山インカレ出場。千葉県のクラブチーム所属。

(右奥)28 代: 吉永崇人: 2006 豊橋インカレ出場。地元就職し、新潟県のクラブチーム所属。

2017 夏引退。

(右前)28 代: 森高紘平: 2006 豊橋インカレ、2008 東松島インカレ出場。勤務先の山口県で

クラブチーム所属。第 32 回全日本クラブ選手権三位。2016 夏引退。

はじめに

森高:30 周年からの 10 年間で、理科大ソフトボール部 OB が全日本クラブ選手権にて世代を超えて集うことができました。これは全国大会出場に加えて、嬉しく楽しい喜びでした。今は別チームで日本一を目指している者同士、情報交換したいと思い、集まってもらいました。

ソフトボールを続ける理由

森高:まずは理科大ソフト部 OB 初の日本リーグ、宮下。チームに入ったきっかけは？

宮下:就職先の勤務地に日本リーグチームがあったこと、ソフトボールがもっとうまくなりたい思いから、せっかくならばトップチームに入ろう思ったわけです。

吉永:飛び込む勇気すごい。他のメンバーは日本代表とかいる中で、よく受け入れてもらえたね。

宮下:ソフトボールをうまくなりたい気持ちには負けていませんでした。それが伝わったと思います。



宮下氏

浅野:日本一を獲らなきゃいけないというプレッシャーは感じていた？

宮下:もちろんメンバー全員が感じていました。もちろん県内・地区大会では負けられませんし。チーム内には日本一を獲った喜びも大きかったですが、安堵も大きかったと思います。

吉永:森高も確かツテのない状況から飛び込んだんだよね。

森高:宮下と理由は同じ。チーム探しのために国体練習に参加して、そこに参加しているクラブチームメンバーに入部をお願いした。入ったチームは、元は町内大会に出るレベルの団地チームだったけど、高いレベルでのソフトボールを目指すチームに意識が変わり、クラブ選手権出場にまでなったチーム。エリート感がなく、自分に合っていたね。

浅野:クラブチームの醍醐味ってそういった歴史がそれぞれあるところにもありますよね。

吉永:浅野は松戸市のクラブだよな。俺らが現役時代も何度も練習試合してもらったチーム。関東に就職するにあたって誘われていたの？

浅野:在学中から卒業したら来ないかと声はか

けていただいていた。卒業してもソフトボールしたいと思ったのは、大学最後の年にインカレに出られなかった悔しさが強かったです。クラブチームでもう一度全国大会という祭りに出たいと思いました。

森高: その感覚わかる。あのお祭り感って他にはないよな。

宮下: 吉永さんは地元新潟でどうやってチーム選びされたんですか。

吉永: 高校OBが中心になって作ったチームに入った。地元就職が決まる前から声かけてもらっていた。

森高: 大学の関東地区・東京地区にも同世代の高校OBいたよな。

吉永: そう。高校時代は一緒にインターハイにでて、大学ではインカレかけて対戦した先輩後輩と卒業後は同じチームで全日本クラブ選手権目指している。

浅野: 強豪校あるあるですね。

日本一目指してどんな練習している？

吉永: 日本リーグのチームはやっぱり練習量が多いイメージあるけど、どう？

宮下: 基本的に練習は平日週2回のナイターです。土日は練習試合・公式戦です。

ナイター練習ではノック・フリー・ティーバッティングでボール触ることがメインの練習でした。

吉永: もっと練習しているイメージだったが、日本一を獲るチームでもそのくらいの練習量なのが意外。クラブ内競争も厳しそうなので、平日の個人練習をどれだけやれるかが重要そう。



宮下: 個人練習内容は人それぞれですが、ボールを使った練習はしにくいですよな。

そのため、全体練習では少しでも上手になれるように”捉え方の工夫”をしています。

例えばノックは下手なメンバーでも、予測できない打球を受けることで、反応力が高くなるといった、ポジティブな捉え方をしていました。

浅野: 確かに、限られた時間での練習でいかに吸収するかを考えたら、少しでもポジティブに受け止めていった方がいいね。

森高: 個人練習として俺は走りまくった。毎日10キロ。チームメンバーとは離れた地域に住んでおり、キャッチボールもできなかったので、ひたすら走った。もちろんシャドーピッチングもした。

吉永: 森高が走っていたなんて信じられない。

森高: 自分自身も信じられない。ただ、投手として学生時代から課題のコントロールを高めるにはどうしたらいいか考えた結果。チームメイトにインカレ優勝経験者がいて、投手はどんな練習をしていたかを聞いた。「基礎体力があって当たり前。その上に技術がのる」とごく当たり前のことを言われ、そこから見直した。ずっと練習できる持久力がつき、ボールを投げ続けられた。

吉永: 学生の中から走っていたら、もっと良い投手になっていて、インカレ予選で投げさせてもらえたかもね。

森高: そういった悔しさが俺を育てたよね。

チーム運営の課題

森高: 大学と違って、クラブでソフトボールをやる上で難しい部分ってどんなところがある？ 共通するところは多いと思うけど。

浅野: やはり練習場所・時間・試合に出るメンバー選定じゃないですか。

吉永: 練習場所は本当に課題。決まった場所では取れないし、各方面に協力してもらって、空いているグラウンドを確保している。グラウンドも無料では借りられない。

宮下: 練習場所が確約できている状況はかなりアドバンテージですよな。練習のみに時間を割けるし。

吉永: そもそも県内各地から集まるから、移動時間もばかにならない。2時間くらいかけて練習会場に通っていた。

森高: 俺も1.5時間かけて通っていた。往復の交通費4千円/回。練習中に受けるノックが一球あたりいくらで、その分うまくなっているのか自問自答した。すべて集中して練習しないと時間もお金ももったいない。

宮下: メンバー選定とは何ですか？

そういうチームへの参加状況がまばらな中で、公式戦出場メンバー選定は難しいと思います。勝ちたい想いと一生懸命頑張っている想いのどちらも大事にしたい。メンバー選定は明確・公平であることが大事ですね。



浅野氏



浅野氏

森高: しっかりしないとチームがガタガタになっちゃうね。勝つことを優先するチームだったので、実績最優先だった。チャンス貰った代打や継投で、コツコツと結果を出していくしかない。

吉永:メンバー全員が集まれるタイミングがなかなか取れないって難しさもあるよな。みんな仕事や家庭の合間を縫って練習や試合に参加している。全国大会でも全員がこられない。

浅野: 9人以上そろっての練習ってなかなかない
ですね。

吉永:揃わないので、練習内容が限られる。練習試合の日程も組みにくい。

森高:でも、不思議と全国大会予選となると、当日揃ったメンバーは同じ眼つきになっている。

宮下:練習にこられなくても根底にある全国大会に出て勝ちたい！という思いは一緒なのでしょうね。

吉永:それでも負けるときは、連携ミスだったりする。全国大会優勝するには練習・試合での取り組み意識を高め、吸収力を格段に上げないといけないと思う。

宮下: 現役にはグラウンドがある、選手がしっかりと揃うという貴重なソフトボール環境・時間を大切にしてほしいです。

森高:道具類はどう？チーム共通品？

吉永:基本的には共有だけど、バットは個人で合う・合わないがあるから個人購入している人も。

宮下:新規格バットへの対応はですか。

吉永:チーム共有分は新規格対応バットへ年 2 本ずつくらいのペースで更新している。

浅野:共有とはいえ大きな出費ですね。

吉永:しかも、すぐ折れちゃう。また、使い比べていないと合うか合わないかわからない。

森高: バットは消耗品だよな。弾くバットはなるべく試合でしか使わないようにしていた。

吉永:いろんなバットを買って試していくしかない
よね。これは必要な出費だと思う。

森高: 同じ悩みを抱えているであろう現役へさらなる支援の申し出と受け取っていいのでしょうか。

吉永:ソフトボールの道具購入にお金かかるのは選手の立場として理解できるって話です。

浅野:確かにそうですね。現役へのバットやボールといった道具購入支援は厚くしてあげたいです。

全日本クラブ選手権での再会

森高:理科大ソフトボール部 OB 同士が全日本クラブ選手権で対戦相手として会うのが実は楽しみだった。

吉永:2012年京都府舞鶴市行われた全日本クラブ選手権での開会式ではお互い違うユニフォーム・違うメンバーに囲まれていて、ちょっと違和感だった。

平成24年度 第33回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会
開 会 平成24年7月14日(土)～16日(日)
会 場 京浜東北球場 主催 東京都体育協会

大会要綱はこちら

1 千葉緑園東リソルトボールクラブ 岡山 4 12
2 山梨クラブ 山梨 6 13
3 R.L. 宮ノ下 静岡 11 1
4 十一歳クラブ 石川 6 1
5 安東都 大阪 3 9
6 Y&A 福岡 1 1
7 飯子インディアンズ 茨城 1 1
8 京都島根クラブ 京都 8 1
9 福岡白石SC 熊本 1 1
10 豊後 山口 3 1
11 京都クラブ 京都 4 1
12 みやぎソフトボールクラブ 宮城 3 3
13 ムロオウランシタクラブ 奈良 2 2
14 神楽坂スターズ 千葉 2 9
15 船田クラブ 熊本 0 9
16 ケーストスターズ 愛媛 7 1
17 下関国際ソフトボールクラブ 山口 9 3
18 京浜北 奈良 10 7
19 鹿児島クラブ 神奈川 5 6
20 デイズアカデミ 有明 12 1
21 YAMAGATA C.L.B 山形 4 2
22 武蔵ツインベアーズ 滋賀 7 0
23 A.L.S.T.A.R.S 三重 6 6
24 多摩近フロッグス 福岡 4 1
25 新潟ソフトボールクラブ 福岡 7 0
26 高知下谷クラブ 高知 4 5
27 京都ファーストメティカル 神威 3 6
28 リンズバフフォー 広島 1 4
29 山形C・北進 北海道 0 7
30 岐阜×ロサンゼルス 岐阜 11 1
31 七瀬ソフトボールクラブ 群馬 1 3
32 八潮東武 大阪 4 2

大会結果はこちら

第 33 回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会トーナメント表
新潟県代表新潟ソフトボールクラブ:吉永氏所属
山口県代表豊浦ゼータ:森高氏所属

浅野:全国の舞台で OB が所属するチーム同士の試合してみたいですね。

森高:浅野・中山(33 代)も出場していた高知県高知市での全日本クラブ選手権(平成 26 年)、実は宮下が所属するチームと一回戦で当たった。でも宮下はいなかったもんな。だから、正確にはまだクラブ選手権での OB 対戦は実現していない。

宮下:仕事の都合で出場できなかったんです。事前に連絡までいただいていたので、対戦したかったです。

浅野:試合後の我々のチーム飲み会に参加してくれましたね。



第 35 回全日本クラブ男子ソフトボール選手権大会 開会式前
左:33 代浅野氏、中央:33 代中山氏、右:28 代森高氏

森高:学生時代に交流させていただいたチームでもあるのでお礼もこめて、乱入しました。ほとんどのチームが同じ市内に宿泊するから、夜の宴会も近いところで盛り上がっている。二次会の時間になると、強豪大学出身者でクラブチーム出場しているメンバーは同窓会になっていて、世代を超えた交流があるようで羨ましかった。

吉永:それには全国大会に出続けるチーム作りが必要だな。

森高:2016 年富山県富山市で行われた第 37 回全日本クラブ選手権には、第 25 代 OB の堀田さんが石川県から応援に来てくださった。その試合は日本リーグチームとの試合で、負けてしまったけど、力をもらいました。

吉永:全国大会(全日本クラブ・教員・実業団・総合・国体)が同窓会になるように卒業後も日本一を目指す OB が増えてほしいね。

クラブチームでの喜びの一コマ



↑ 宮下氏



↑ 浅野氏、中山氏(33 代)、藤井氏(35 代)



↑ 吉永氏



↑ 森高氏

終わりに

現役各位

ぜひ貴重な“今”を大切に、競技力向上に打ち込んでください。

OB各位

現役の日本一に向けて、ご声援・物品購入 & 遠征費支援は必ず力になります。一層のご声援・ご支援よろしくお願いたします。

コラム：現役部員の家族インタビュー①

～日頃より当部を支えて下さっている保護者の皆様に感謝を込めて～
大会がある度にグラウンドへ応援に駆けつけてくださる保護者の皆様の中から、現役2家族にインタビューさせていただきました。

第40代 小山家

① 理科大ソフトボール部の印象

他の大学に比べるとチャラチャラした学生がいない。聞いてみると、監督に指導されているとのこと。守れる素直な子が多いのだな。という感想と、監督と選手の良い信頼関係があるのだと感心しました。

また、40年の歴史を築いてきた中で、先輩をみて、後輩が続くという良い伝統が代々受け継がれているとのこと。この学校のソフトボール部で良かったと思いました。

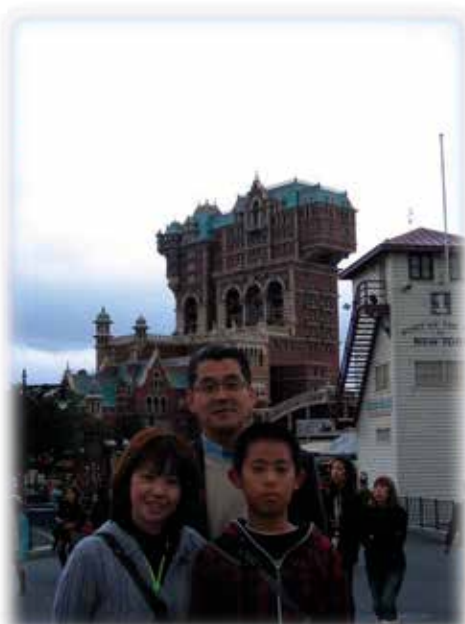
② 高校の部活と比べての違い

高校の時は、サッカー部と野球部に占領された校庭で、ソフトボール部は満足な練習もできず、離れた川原まで毎日通っていましたが、理科大には素晴らしい専用グラウンドとトレーニングルームが完備されており、恵まれた環境で部活を行えていると思います。限られた時間で無駄のない練習を行う。理科大生らしい練習内容だと思います。

③ 理科大ソフトボール部に入ってから成長

一言で言うなら大人になりました。入学してから一人暮らしも始め、自炊・洗濯などよくやっていると思います。また、プライベートの時間を割いて、練習や会議など自分で考えて行動することが出来るようになったと思います。

良い監督、良い先輩、後輩に恵まれ、試合の後の『応援ありがとうございました。』のお礼は心に響きます。息子が感謝の言葉を表現できる人になったことを嬉しく思います。ここで得たものは、社会に出てからもいい経験となり、より努力を惜しまない人間になることと期待しています。



40年間の戦績 (全記録)

創部以来、我々はインカレ優勝を目指して戦い続けてきた。
その記録を集計した40年間の戦績は、
単なるデータの羅列ではない。
数字の裏には全選手の熱い“TUSプライド”が凝縮されている。
この一投一打の積み重ねは、
やがて訪れる歓喜の瞬間へとつながるビクトリーロードである。

<記録集計について>

■集計元データ

- 1977～1987年度 … 10周年記念誌
- 1988～1998年度 … 20周年記念誌、各年度の成績報告書
- 1999～2007年度 … 各年度の年報
- 2008年度以降 … 記録集計データ

- ・全掲載データの再集計を行い、各記念誌、成績報告書、年報での計算ミスや誤植を可能な限り補正しました。
なお、1978年～1980年の一部の試合については、データ不明のため個人記録に含まれておりません。
- ・個人成績で、選手名の先頭にある「#」は現役部員（2017年度選手登録）、「*」は途中退部者を示します。

■試合編

- ・試合成立条件
公式・準公式試合 … 雨天ノーゲーム除きすべて成立
練習試合 … 4回裏終了
- ・チーム名称が変更されている場合、対戦チーム名称は対戦当時の名称を記載しています。
- ・試合名と試合区分の略称は以下の通りです。

試合名	試合名略称	区分	区分略称	試合名	試合名略称	区分	区分略称
全日本大学選手権	インカレ	公式戦	公	チャレンジカップ	チャレンジ	準公式戦	準
東日本大学選手権	東カレ			パシフィックオープン	パシフィOP		
関東大学選手権	関カレ			太田オープン	太田OP		
関東学生春季リーグ（Ⅰ部）	関東春Ⅰ			社会人春季リーグ（Ⅰ部）	社会人春Ⅰ		
関東学生春季リーグ（Ⅱ部）	関東春Ⅱ			社会人春季リーグ（Ⅱ部）	社会人春Ⅱ		
関東学生春季リーグ入れ替え戦	関東春入替			社会人秋季リーグ（Ⅰ部）	社会人秋Ⅰ		
関東学生秋季リーグ（Ⅰ部）	関東秋Ⅰ			社会人秋季リーグ（Ⅱ部）	社会人秋Ⅱ		
関東学生秋季リーグ（Ⅱ部）	関東秋Ⅱ			東西大学ソフトボール・フェスティバル	東西大学		
関東学生秋季リーグ入れ替え戦	関東秋入替			埼玉リーグ	埼玉L		
関東学生秋季リーグ3位決定戦	関東秋3決			五大学対抗戦	五大学対抗		
関東学生選手権	関東学生			五校リーグ	五校L		
関東学生選手権Ⅰ部残留決定戦	関東学生残			四校対抗戦	四校対抗戦		
千葉県大学選手権	千葉県大学			三校定期戦（春季）	三校定期春		
全日本総合関東予選	全日本関東			三校定期戦（秋季）	三校定期秋		
全日本総合千葉県予選	全日本千葉			理早定期戦（春季）	理早定期春		
国体千葉県予選	国体千葉予			理早定期戦（秋季）	理早定期秋		
千葉県民総合体育大会	千葉県総体			筑波大学定期戦	筑波大定期		
関東・北信越大学選手権	関東北信越			Bob Rapp Tournament	Bob Rapp T		
全日本大学選手権予選	全日本予選			野田市民大会	野田市民		
				練習試合	練習試合	練習試合	練

- ・試合結果一覧は30周年記念誌発行後（2008年度以降）の記録を掲載しています。
創部からの全試合の記録は下記のサイトをご覧ください。（右記のQRコードからもアクセスできます。）
<https://www.tussoftballclub.com/stats/>



■投手編

- ・規定投球回 … 157
全投手（集計対象外のプレイヤーを除く）の平均投球回を規定投球回とします。
計算式 … $11012 \text{ (総投球回数)} \div 70 \text{ (投手数)} \approx 157$
- ・完投（完封）の定義
試合成立条件を満たした試合で、イニング数に関係なく1試合を1人で投げきった場合を完投とします。
（最も極端なケースでは、先攻で大会規定による3回コールド負けの場合、投球回数は2回でも完投扱いとなります。）

■打撃・守備編

- ・規定打席 … 256
試合数を「年間平均試合数×幹部学年までの年数」とし、これに下記係数を乗じた値を規定打席とします。
 $\text{年間平均試合数} = 1800 \text{ (全試合数)} \div 40 \text{ (年)} = 45$
 $\text{係数} = 2.7 \times 7/9 \times 0.9 = 1.89$
（係数算出方法）
プロ野球2軍の規定打席算出係数（2.7）をソフトボールの7イニングに換算し、
更に、90分ルール等の時間制限により試合が打ち切られることを考慮し、0.9を乗じます。
計算式 … $45 \text{ (年間平均試合数)} \times 3 \text{ (幹部学年までの年数)} \times 1.89 \text{ (係数)} \approx 256$
- ・個人打撃・守備成績には、成立条件を満たさない練習試合の記録が一部含まれています。

試合編 ～ Scores ～

チーム試合成績（年度別）

年度	幹部	全対外試合					公式戦					準公式戦					練習試合				
		勝率	試合数	勝	敗	分	勝率	試合数	勝	敗	分	勝率	試合数	勝	敗	分	勝率	試合数	勝	敗	分
1977 昭和52	初	.000	1	0	1	0	.000	1	0	1	0	.000	0	0	0	0	.000	0	0	0	0
1978 昭和53	初	.389	19	7	11	1	.000	2	0	2	0	.000	2	0	2	0	.500	15	7	7	1
1979 昭和54	2	.500	18	9	9	0	.333	3	1	2	0	.500	2	1	1	0	.538	13	7	6	0
1980 昭和55	3	.636	36	21	12	3	.500	8	4	4	0	.667	13	8	4	1	.692	15	9	4	2
1981 昭和56	4	.548	32	17	14	1	.500	6	3	3	0	.563	16	9	7	0	.556	10	5	4	1
1982 昭和57	5	.320	26	8	17	1	.333	6	2	4	0	.267	15	4	11	0	.500	5	2	2	1
1983 昭和58	6	.625	33	20	12	1	.333	3	1	2	0	.765	18	13	4	1	.500	12	6	6	0
1984 昭和59	7	.424	35	14	19	2	.250	4	1	3	0	.588	18	10	7	1	.250	13	3	9	1
1985 昭和60	8	.625	32	20	12	0	.500	6	3	3	0	.615	13	8	5	0	.692	13	9	4	0
1986 昭和61	9	.633	61	38	22	1	.600	10	6	4	0	.529	17	9	8	0	.697	34	23	10	1
1987 昭和62	10	.615	53	32	20	1	.692	13	9	4	0	.353	17	6	11	0	.773	23	17	5	1
1988 昭和63	11	.511	47	23	22	2	.500	8	4	4	0	.368	20	7	12	1	.667	19	12	6	1
1989 平成元	12	.635	52	33	19	0	.667	15	10	5	0	.588	17	10	7	0	.650	20	13	7	0
1990 平成2	13	.500	43	21	21	1	.545	11	6	5	0	.471	17	8	9	0	.500	15	7	7	1
1991 平成3	14	.438	34	14	18	2	.429	7	3	4	0	.267	15	4	11	0	.700	12	7	3	2
1992 平成4	15	.512	41	21	20	0	.444	9	4	5	0	.550	20	11	9	0	.500	12	6	6	0
1993 平成5	16	.297	38	11	26	1	.200	5	1	4	0	.133	15	2	13	0	.471	18	8	9	1
1994 平成6	17	.457	46	21	25	0	.500	10	5	5	0	.444	18	8	10	0	.444	18	8	10	0
1995 平成7	18	.588	34	20	14	0	.571	7	4	3	0	.467	15	7	8	0	.750	12	9	3	0
1996 平成8	19	.587	46	27	19	0	.625	16	10	6	0	.529	17	9	8	0	.615	13	8	5	0
1997 平成9	20	.500	57	28	28	1	.588	17	10	7	0	.481	28	13	14	1	.417	12	5	7	0
1998 平成10	21	.500	40	20	20	0	.400	10	4	6	0	.476	21	10	11	0	.667	9	6	3	0
1999 平成11	22	.393	60	22	34	4	.167	6	1	5	0	.313	17	5	11	1	.471	37	16	18	3
2000 平成12	23	.477	46	21	23	2	.444	9	4	5	0	.444	18	8	10	0	.529	19	9	8	2
2001 平成13	24	.615	41	24	15	2	.688	16	11	5	0	.444	9	4	5	0	.643	16	9	5	2
2002 平成14	25	.456	58	26	31	1	.333	15	5	10	0	.526	19	10	9	0	.478	24	11	12	1
2003 平成15	26	.467	46	21	24	1	.333	15	5	10	0	.455	11	5	6	0	.579	20	11	8	1
2004 平成16	27	.513	39	20	19	0	.462	13	6	7	0	.400	5	2	3	0	.571	21	12	9	0
2005 平成17	28	.679	55	36	17	2	.462	13	6	7	0	1.000	7	6	0	1	.706	35	24	10	1
2006 平成18	29	.674	43	29	14	0	.636	22	14	8	0	.500	4	2	2	0	.765	17	13	4	0
2007 平成19	30	.561	41	23	18	0	.542	24	13	11	0	.750	4	3	1	0	.538	13	7	6	0
2008 平成20	31	.644	47	29	16	2	.609	25	14	9	2	.500	8	4	4	0	.786	14	11	3	0
2009 平成21	32	.568	46	25	19	2	.550	22	11	9	2	.143	7	1	6	0	.765	17	13	4	0
2010 平成22	33	.528	38	19	17	2	.474	19	9	10	0	.571	8	4	3	1	.600	11	6	4	1
2011 平成23	34	.500	50	24	24	2	.529	19	9	8	2	.250	4	1	3	0	.519	27	14	13	0
2012 平成24	35	.438	49	21	27	1	.263	19	5	14	0	.375	8	3	5	0	.619	22	13	8	1
2013 平成25	36	.600	67	39	26	2	.632	21	12	7	2	.429	7	3	4	0	.615	39	24	15	0
2014 平成26	37	.623	62	38	23	1	.412	18	7	10	1	.500	8	4	4	0	.750	36	27	9	0
2015 平成27	38	.596	50	28	19	3	.381	22	8	13	1	.333	4	1	2	1	.826	24	19	4	1
2016 平成28	39	.729	71	51	19	1	.682	23	15	7	1	.583	12	7	5	0	.806	36	29	7	0
2017 平成29	40	.652	67	43	23	1	.625	24	15	9	0	.500	4	2	2	0	.684	39	26	12	1
合計		.550	1800	964	789	47	.511	522	261	250	11	.474	498	232	257	9	.625	780	471	282	27

試合結果一覧 ～2008(平成20)年度以降～

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
【2008(平成20)年度】				
08/03/02	練習試合	練	柏キングサンダー	○ 11- 0
08/03/02	練習試合	練	柏キングサンダー	○ 3- 2
08/03/04	練習試合	練	千葉大学	○ 18- 1
08/03/04	練習試合	練	千葉大学	○ 31- 1
08/03/06	練習試合	練	高知パシフィックウェーブ	● 0- 7
08/03/07	練習試合	練	高知学芸高校	○ 5- 3
08/03/08	パシフィOP	準	中京学院大学	● 4- 5
08/03/08	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 1- 4
08/03/09	パシフィOP	準	関西大学	○ 11- 7
08/03/09	パシフィOP	準	神戸学院大学	● 3- 7
08/03/25	チャレンジ	準	文教大学	○ 14- 6
08/03/25	チャレンジ	準	関東学園大学	● 0- 9
08/03/26	チャレンジ	準	東京大学	○ 8- 1
08/03/26	チャレンジ	準	東京学芸大学	○ 14- 1
08/03/29	千葉県大学	公	千葉大学	○ 5- 2
08/03/29	千葉県大学	公	国際武道大学	● 6-11
08/04/27	練習試合	練	文教大学	○ 15- 8
08/04/27	練習試合	練	文教大学	○ 14-12
08/05/04	全日本千葉	公	レッドスパローズ	● 4- 9
08/05/05	関東春 I	公	関東学園大学	● 3- 6
08/05/05	関東春 I	公	文教大学	○ 9- 1
08/05/06	関東春 I	公	国際武道大学	● 8- 9
08/05/06	関東春 I	公	城西大学	△ 8- 8
08/05/10	関東春 I	公	東海大学	△ 1- 1
08/05/10	関東春 I	公	高崎経済大学	○ 13- 5
08/05/24	関東学生	公	文教大学	○ 11- 1
08/05/24	関東学生	公	山梨学院大学	○ 8- 1
08/08/08	東カレ	公	専修大学	○ 5- 1
08/08/08	東カレ	公	日本大学生産工学部	○ 22- 0
08/08/09	東カレ	公	桜美林大学	○ 10- 2
08/08/10	東カレ	公	早稲田大学	● 3-10
08/08/30	インカレ	公	関西大学	○ 8- 1
08/08/30	インカレ	公	学習院大学	○ 13- 4
08/08/31	インカレ	公	熊本学園大学	● 1- 7
08/09/21	練習試合	練	柏キングサンダー	● 0- 1
08/09/21	練習試合	練	学習院大学	○ 5- 0
08/09/27	練習試合	練	千葉大学	○ 19- 3
08/09/27	練習試合	練	千葉大学	○ 11- 8
08/10/05	練習試合	練	文教大学	○ 9- 1
08/10/05	練習試合	練	文教大学	● 5-16
08/10/11	関東秋 I	公	東海大学	○ 8- 4
08/10/11	関東秋 I	公	城西大学	● 6- 7
08/10/12	関東秋 I	公	高崎経済大学	○ 7- 4
08/10/12	関東秋 I	公	国際武道大学	● 0- 5
08/10/13	関東秋 I	公	関東学園大学	○ 9- 2
08/10/13	関東秋 I	公	文教大学	○ 8- 7
08/11/01	関カレ	公	慶應義塾大学	● 2- 4

【2009(平成21)年度】				
09/03/01	練習試合	練	柏キングサンダー	○ 6- 2
09/03/01	練習試合	練	柏キングサンダー	○ 9- 6
09/03/08	パシフィOP	準	高知選抜	● 5-12
09/03/08	パシフィOP	準	関西大学	● 5-17
09/03/09	パシフィOP	準	神戸学院大学	● 4- 9
09/03/09	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 1-13
09/03/15	練習試合	練	松戸K's	● 0- 6
09/03/15	練習試合	練	松戸K's	○ 4- 1
09/03/18	練習試合	練	文教大学	○ 9- 5
09/03/18	練習試合	練	文教大学	○ 12- 4
09/03/23	チャレンジ	準	千葉大学	○ 24- 4
09/03/23	チャレンジ	準	文教大学	● 3-18
09/03/24	チャレンジ	準	高崎経済大学	● 4-13
09/04/05	千葉県大学	公	千葉大学	○ 9- 2
09/04/05	千葉県大学	公	国際武道大学	○ 9- 4
09/05/03	全日本千葉	公	日鐵住金溶接工業	○ 8- 4
09/05/03	全日本千葉	公	国際武道大学	● 4-12
09/05/04	関東春 I	公	高崎経済大学	○ 11-10
09/05/04	関東春 I	公	城西大学	△ 6- 6
09/05/05	関東春 I	公	東海大学	● 5-14
09/05/05	関東春 I	公	文教大学	○ 21-18

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
09/05/09	関東春 I	公	関東学園大学	● 1- 9
09/05/09	関東春 I	公	国際武道大学	● 1- 4
09/05/29	関東学生	公	山梨学院大学	○ 11- 0
09/05/29	関東学生	公	高崎経済大学	● 5-11
09/07/12	練習試合	練	松戸K's	○ 8- 3
09/07/12	練習試合	練	松戸K's	○ 21- 8
09/08/08	東カレ	公	成蹊大学	○ 20- 1
09/08/09	東カレ	公	桜美林大学	● 2- 7
09/08/29	練習試合	練	四街道スターズ	○ 10- 3
09/08/30	練習試合	練	新潟選抜	● 5- 9
09/08/30	練習試合	練	四街道スターズ	● 5- 8
09/09/27	練習試合	練	文教大学	○ 7- 3
09/09/27	練習試合	練	埼玉大学	○ 7- 3
09/10/04	練習試合	練	川口クラブ	● 2- 4
09/10/04	練習試合	練	明治大学	○ 17- 0
09/10/10	関東秋 I	公	関東学園大学	△ 4- 4
09/10/10	関東秋 I	公	高崎経済大学	● 6- 7
09/10/11	関東秋 I	公	文教大学	● 2- 5
09/10/11	関東秋 I	公	国際武道大学	○ 5- 4
09/10/12	関東秋 I	公	城西大学	○ 6- 3
09/10/12	関東秋 I	公	東海大学	○ 7- 5
09/11/01	練習試合	練	筑波大学	○ 11- 1
09/11/01	練習試合	練	筑波大学	○ 23- 3
09/11/06	関カレ	公	高崎経済大学	○ 8- 7
09/11/06	関カレ	公	日本体育大学	● 0- 8

【2010(平成22)年度】				
10/03/12	練習試合	練	神戸学院大学	● 6- 9
10/03/13	パシフィOP	準	関西大学	● 4-16
10/03/13	パシフィOP	準	高知選抜	● 0-10
10/03/14	パシフィOP	準	宮崎黒潮クラブ	○ 19- 8
10/03/14	パシフィOP	準	神戸学院大学	△ 8- 8
10/03/22	練習試合	練	取手インディアンズ	● 7- 8
10/03/22	練習試合	練	松戸K's	△ 5- 5
10/03/29	チャレンジ	準	関東学園大学	○ 7- 6
10/03/30	チャレンジ	準	千葉大学	○ 11- 1
10/03/31	チャレンジ	準	東京大学	○ 11- 1
10/03/31	チャレンジ	準	国士舘大学	● 4- 7
10/04/04	千葉県大学	公	国際武道大学	● 9-18
10/05/01	全日本千葉	公	四街道スターズ	● 1- 7
10/05/03	関東春 I	公	城西大学	○ 6- 2
10/05/03	関東春 I	公	関東学園大学	● 1- 3
10/05/04	関東春 I	公	東海大学	○ 9- 2
10/05/04	関東春 I	公	文教大学	○ 7- 2
10/05/05	関東春 I	公	高崎経済大学	● 1- 7
10/05/23	練習試合	練	文教大学	○ 12- 2
10/05/29	関東学生	公	茨城大学	○ 7- 0
10/05/29	関東学生	公	筑波大学	○ 16- 0
10/05/30	関東学生	公	高崎経済大学	○ 11- 6
10/05/30	関東学生	公	国際武道大学	● 5- 6
10/07/03	練習試合	練	中央大学	○ 12- 5
10/07/03	練習試合	練	中央大学	○ 18- 6
10/07/04	練習試合	練	明治大学	○ 18- 0
10/09/03	練習試合	練	国士舘大学	● 6- 7
10/09/03	練習試合	練	国士舘大学	● 2- 4
10/09/10	インカレ	公	京都産業大学	● 2- 9
10/10/03	練習試合	練	千葉大学	○ 9- 3
10/10/03	練習試合	練	松戸K's	○ 9- 1
10/10/09	関東秋 I	公	高崎経済大学	● 7-13
10/10/09	関東秋 I	公	東海大学	● 6- 7
10/10/11	関東秋 I	公	城西大学	○ 5- 3
10/10/11	関東秋 I	公	関東学園大学	● 2-12
10/10/16	関東秋 I	公	国際武道大学	○ 6- 4
10/10/31	関カレ	公	立教大学	○ 16- 3
10/10/31	関カレ	公	関東学園大学	● 2- 8

【2011(平成23)年度】				
11/02/27	練習試合	練	南越谷スターズ	○ 6- 1
11/02/27	練習試合	練	四街道スターズ	● 6- 8
11/03/12	パシフィOP	準	立命館大学	○ 10- 8
11/03/12	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 5- 9

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
11/03/13	パシフィOP	準	関西大学	● 6-9
11/03/13	パシフィOP	準	高知選抜	● 1-14
11/04/03	練習試合	練	南越谷スターズ	● 5-14
11/04/03	練習試合	練	南越谷スターズ	○ 12-5
11/04/09	練習試合	練	慶應義塾大学	● 1-3
11/04/09	練習試合	練	文教大学	● 7-11
11/04/17	練習試合	練	秩父農工科学高校	○ 6-5
11/04/17	練習試合	練	四街道スターズ	○ 11-3
11/04/24	練習試合	練	中央大学	● 10-11
11/04/24	練習試合	練	中央大学	○ 15-14
11/04/30	全日本千葉	公	四街道スターズ	● 4-5
11/05/03	関東春 I	公	関東学園大学	○ 7-4
11/05/03	関東春 I	公	城西大学	○ 10-9
11/05/04	関東春 I	公	高崎経済大学	○ 12-3
11/05/04	関東春 I	公	国際武道大学	○ 4-2
11/05/05	関東春 I	公	東海大学	○ 8-1
11/05/15	練習試合	練	川口クラブ	○ 12-5
11/05/15	練習試合	練	WAKENAKA	● 1-6
11/05/28	関東学生	公	千葉大学	● 2-7
11/07/03	練習試合	練	山梨オリーブ	○ 9-2
11/07/03	練習試合	練	四街道スターズ	○ 12-5
11/07/30	練習試合	練	日本体育大学	● 3-6
11/07/30	練習試合	練	日本体育大学	○ 4-3
11/07/31	練習試合	練	東京都選抜	● 9-12
11/07/31	練習試合	練	日本体育大学	● 1-5
11/08/12	東カレ	公	東京学芸大学	○ 18-1
11/08/12	東カレ	公	福島大学	○ 7-0
11/08/13	東カレ	公	慶應義塾大学	○ 5-3
11/08/13	東カレ	公	国士舘大学	● 4-9
11/08/28	練習試合	練	48オールスターズ	○ 12-0
11/09/16	練習試合	練	中央大学	○ 11-2
11/09/16	練習試合	練	中央大学	● 7-12
11/09/19	練習試合	練	学習院大学	○ 9-8
11/09/19	練習試合	練	城西大学	○ 5-1
11/09/25	練習試合	練	松戸K's	● 7-8
11/09/25	練習試合	練	松戸K's	● 1-5
11/10/01	練習試合	練	高崎経済大学	● 5-6
11/10/01	練習試合	練	インドネシア代表	○ 2-1
11/10/08	関東秋 I	公	東海大学	● 1-4
11/10/08	関東秋 I	公	城西大学	○ 6-5
11/10/09	関東秋 I	公	関東学園大学	△ 5-5
11/10/09	関東秋 I	公	国際武道大学	● 3-8
11/10/10	関東秋 I	公	高崎経済大学	● 6-7
11/10/29	関カレ	公	早稲田大学	● 1-8
11/11/20	千葉県大学	公	中央学院大学	△ 6-6
11/11/20	千葉県大学	公	千葉大学	● 4-9

【2012(平成24)年度】

12/02/26	練習試合	練	川口クラブ	● 2-9
12/02/26	練習試合	練	睦クラブ	○ 11-7
12/03/10	パシフィOP	準	京都産業大学	● 4-10
12/03/10	パシフィOP	準	関西大学	● 0-8
12/03/11	パシフィOP	準	関東学園大学	○ 12-3
12/03/11	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 3-5
12/03/12	練習試合	練	環太平洋大学	● 8-13
12/03/25	練習試合	練	北海道大学	● 6-14
12/03/26	チャレンジ	準	学習院大学	○ 7-5
12/03/26	チャレンジ	準	千葉大学	○ 9-6
12/03/27	チャレンジ	準	関東学園大学	● 6-15
12/03/27	チャレンジ	準	千葉大学	● 4-6
12/04/01	千葉県大学	公	国際武道大学	● 0-6
12/04/22	練習試合	練	日本大学生物資源科学部	○ 21-0
12/05/04	全日本千葉	公	丸善石油化学	● 1-23
12/05/05	関東春 I	公	東海大学	● 3-9
12/05/05	関東春 I	公	国際武道大学	● 1-21
12/05/06	関東春 I	公	城西大学	● 5-12
12/05/12	関東春 I	公	高崎経済大学	● 10-11
12/05/12	関東春 I	公	関東学園大学	● 8-13
12/05/13	関東春入替	公	千葉大学	● 8-9
12/05/20	練習試合	練	高崎経済大学	○ 7-4
12/05/20	練習試合	練	SC三郷スターズ	○ 8-2
12/05/25	関東学生	公	東海大学	● 2-9
12/07/15	練習試合	練	高風クラブ	△ 2-2

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
12/07/15	練習試合	練	中央大学	● 9-11
12/08/09	練習試合	練	SC三郷スターズ	○ 7-6
12/08/09	練習試合	練	SC三郷スターズ	○ 7-2
12/08/12	東カレ	公	日本体育大学	● 5-13
12/09/16	練習試合	練	SC三郷スターズ	● 2-11
12/09/16	練習試合	練	城西大学	● 0-6
12/09/30	練習試合	練	東北大学	○ 10-0
12/09/30	練習試合	練	東北大学	○ 14-2
12/10/06	関東秋 II	公	茨城大学	● 2-4
12/10/06	関東秋 II	公	都留文科大学	● 5-6
12/10/07	関東秋 II	公	中央学院大学	○ 8-5
12/10/07	関東秋 II	公	山梨学院大学	● 9-10
12/10/08	関東秋 II	公	文教大学	○ 19-1
12/10/21	練習試合	練	新日鐵住金鹿島	● 2-5
12/10/21	練習試合	練	新日鐵住金鹿島	○ 10-3
12/10/27	練習試合	練	取手インディアンズ	● 2-3
12/10/28	練習試合	練	文教大学	○ 11-1
12/10/28	練習試合	練	文教大学	○ 17-7
12/11/04	練習試合	練	中央大学	○ 17-5
12/11/04	練習試合	練	中央大学	○ 12-10
12/11/10	関カレ	公	専修大学	○ 13-1
12/11/11	関カレ	公	山梨学院大学	○ 4-1
12/11/11	関カレ	公	関東学園大学	○ 6-5
12/11/12	関カレ	公	早稲田大学	● 0-5

【2013(平成25)年度】

13/02/24	練習試合	練	川口クラブ	○ 20-8
13/02/24	練習試合	練	新田クラブ	○ 6-1
13/03/02	練習試合	練	中央大学	● 12-16
13/03/03	練習試合	練	文教大学	○ 10-3
13/03/03	練習試合	練	文教大学	○ 20-3
13/03/09	練習試合	練	千葉大学	○ 2-0
13/03/09	練習試合	練	東京学芸大学	○ 11-1
13/03/15	練習試合	練	日本体育大学	● 8-20
13/03/15	練習試合	練	日本体育大学	● 4-15
13/03/16	パシフィOP	準	京都産業大学	● 4-12
13/03/16	パシフィOP	準	立命館大学	● 0-15
13/03/17	パシフィOP	準	神戸学院大学	● 6-7
13/03/17	パシフィOP	準	高知パシフィックウェーブ	● 0-7
13/03/17	練習試合	練	高知パシフィックウェーブ	● 3-23
13/03/26	練習試合	練	北海道大学	○ 8-0
13/03/27	チャレンジ	準	北海道大学	○ 13-0
13/03/28	チャレンジ	準	学習院大学	○ 3-0
13/03/28	チャレンジ	準	関東学園大学	○ 6-1
13/03/28	練習試合	練	北海道大学	○ 6-1
13/03/30	千葉県大学	公	中央学院大学	○ 10-0
13/03/30	千葉県大学	公	国際武道大学	● 0-8
13/04/27	全日本千葉	公	日鐵住金溶接工業	○ 7-0
13/04/27	全日本千葉	公	四街道スターズ	● 1-4
13/05/04	関東春 II	公	中央学院大学	● 1-4
13/05/04	関東春 II	公	山梨学院大学	○ 8-3
13/05/05	関東春 II	公	都留文科大学	○ 3-2
13/05/05	関東春 II	公	茨城大学	△ 4-4
13/05/06	関東春 II	公	文教大学	○ 14-2
13/05/11	関東春入替	公	高崎経済大学	○ 7-0
13/05/18	練習試合	練	関東学園大学	● 4-10
13/05/18	練習試合	練	関東学園大学	○ 4-2
13/05/25	関東学生	公	千葉大学	○ 9-2
13/05/25	関東学生	公	国際武道大学	● 6-8
13/07/06	練習試合	練	関東学園大学	○ 10-4
13/07/06	練習試合	練	富山選抜	● 5-9
13/07/07	練習試合	練	愛知大学	○ 13-7
13/07/14	練習試合	練	高風クラブ	○ 9-0
13/07/14	練習試合	練	所沢ビックワン	○ 4-3
13/08/10	東カレ	公	立教大学	○ 10-0
13/08/11	東カレ	公	早稲田大学	● 3-7
13/08/22	練習試合	練	中央大学	● 3-7
13/08/22	練習試合	練	中央大学	● 3-8
13/08/24	練習試合	練	日本体育大学	● 0-13
13/08/24	練習試合	練	東京都成年	● 1-8
13/09/01	練習試合	練	城西大学	● 6-7
13/09/01	練習試合	練	城西大学	● 1-7
13/09/03	練習試合	練	専修大学	○ 14-0

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
13/09/03	練習試合	練	専修大学	○ 13- 0
13/09/07	練習試合	練	東京学芸大学	○ 7- 0
13/09/07	練習試合	練	東京学芸大学	○ 7- 4
13/09/14	練習試合	練	東京大学	○ 9- 2
13/09/14	練習試合	練	学習院大学	○ 1- 0
13/09/21	練習試合	練	千葉大学	● 0- 7
13/09/21	練習試合	練	千葉大学	● 3- 9
13/09/22	練習試合	練	文教大学	● 0- 4
13/09/22	練習試合	練	文教大学	○ 10- 5
13/09/28	練習試合	練	高崎経済大学	○ 4- 1
13/09/28	練習試合	練	茨城大学	○ 9- 0
13/10/05	関東秋 I	公	国際武道大学	○ 6- 5
13/10/05	関東秋 I	公	関東学園大学	○ 7- 2
13/10/06	関東秋 I	公	城西大学	△ 1- 1
13/10/06	関東秋 I	公	千葉大学	○ 4- 1
13/10/14	関東秋 I	公	東海大学	● 4- 5
13/10/27	関カレ	公	慶應義塾大学	○ 8- 0
13/10/28	関カレ	公	城西大学	● 2- 8
13/11/02	練習試合	練	埼玉大学	○ 2- 0
13/11/02	練習試合	練	埼玉大学	○ 14- 7

【2014(平成26)年度】

14/02/23	練習試合	練	WAKENAKA	○ 14- 9
14/02/23	練習試合	練	松戸K's	● 4- 9
14/03/15	パシフィOP	準	関西大学	● 1-10
14/03/15	パシフィOP	準	高知パシフィックウェーブ	● 2-18
14/03/16	パシフィOP	準	関西大学	○ 5- 4
14/03/16	パシフィOP	準	日本体育大学	● 4- 9
14/03/22	練習試合	練	豊丘48	○ 15- 6
14/03/22	練習試合	練	豊丘48	○ 6- 0
14/03/25	チャレンジ	準	日本大学	○ 4- 1
14/03/25	チャレンジ	準	千葉大学	○ 4- 1
14/03/26	チャレンジ	準	学習院大学	○ 7- 3
14/03/26	チャレンジ	準	国土館大学	● 3- 5
14/03/29	千葉県大学	公	千葉大学	● 1-10
14/04/20	練習試合	練	茨城大学	○ 7- 0
14/04/20	練習試合	練	茨城大学	○ 12- 2
14/04/26	全日本千葉	公	四街道スターズ	● 2-10
14/05/03	関東春 I	公	国際武道大学	● 2- 8
14/05/03	関東春 I	公	東海大学	● 9-18
14/05/04	関東春 I	公	関東学園大学	○ 8- 3
14/05/04	関東春 I	公	都留文科大学	○ 4- 3
14/05/05	関東春 I	公	城西大学	● 2- 4
14/05/18	練習試合	練	三郷スターズ	○ 12- 1
14/05/18	練習試合	練	取手インディアンズ	● 1- 5
14/05/25	練習試合	練	日本体育大学	● 1- 7
14/05/25	練習試合	練	日本体育大学	● 0- 4
14/06/15	練習試合	練	文教大学	○ 10- 3
14/06/15	練習試合	練	学習院大学	○ 8- 1
14/06/20	練習試合	練	国土館大学	● 2- 4
14/06/20	練習試合	練	国土館大学	○ 7- 2
14/06/21	関東学生	公	筑波大学	○ 11- 1
14/06/21	関東学生	公	城西大学	● 1- 3
14/07/13	練習試合	練	中央大学	● 0-15
14/07/13	練習試合	練	中央大学	○ 7- 6
14/08/08	東カレ	公	国土館大学	● 0- 3
14/09/06	練習試合	練	専修大学	○ 5- 2
14/09/06	練習試合	練	専修大学	○ 22- 2
14/09/08	練習試合	練	明治大学	○ 5- 2
14/09/08	練習試合	練	明治大学	○ 12- 6
14/09/10	練習試合	練	東京都市大学	○ 7- 0
14/09/10	練習試合	練	東京都市大学	○ 13-12
14/09/12	練習試合	練	立教大学	○ 4- 0
14/09/12	練習試合	練	立教大学	○ 15- 5
14/09/20	練習試合	練	国土館大学	● 0- 7
14/09/20	練習試合	練	国土館大学	● 4-11
14/09/27	練習試合	練	茨城大学	○ 11- 0
14/09/27	練習試合	練	高崎経済大学	○ 4- 0
14/09/28	練習試合	練	文教大学	○ 6- 0
14/09/28	練習試合	練	文教大学	○ 16- 1
14/10/04	関東秋 I	公	城西大学	● 4- 7
14/10/04	関東秋 I	公	国際武道大学	○ 7- 5
14/10/05	関東秋 I	公	関東学園大学	○ 9- 7

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
14/10/12	関東秋 I	公	千葉大学	● 1- 7
14/10/12	関東秋 I	公	東海大学	△ 0- 0
14/10/25	練習試合	練	東京学芸大学	● 3- 4
14/10/25	練習試合	練	東京学芸大学	○ 4- 1
14/10/26	練習試合	練	松戸K's	○ 3- 2
14/10/26	練習試合	練	川口クラブ	○ 5- 4
14/11/02	練習試合	練	城西大学	○ 2- 0
14/11/02	練習試合	練	城西大学	○ 8- 4
14/11/15	関カレ	公	慶應義塾大学	○ 5- 1
14/11/16	関カレ	公	文教大学	○ 2- 1
14/11/16	関カレ	公	国土館大学	● 0- 8

【2015(平成27)年度】

15/02/21	練習試合	練	日本大学	△ 4- 4
15/02/21	練習試合	練	日本大学	○ 4- 1
15/03/05	練習試合	練	明治大学	○ 13-11
15/03/05	練習試合	練	明治大学	○ 10- 0
15/03/14	練習試合	練	埼玉大学	○ 7- 0
15/03/14	練習試合	練	埼玉大学	○ 18-10
15/03/24	チャレンジ	準	インドネシア代表	△ 3- 3
15/03/24	チャレンジ	準	東京学芸大学	● 3- 4
15/03/25	チャレンジ	準	千葉大学	○ 12-10
15/03/25	チャレンジ	準	国土館大学	● 4- 7
15/03/28	千葉県大学	公	千葉大学	● 10-14
15/03/28	千葉県大学	公	国際武道大学	○ 5- 3
15/04/06	練習試合	練	中央大学	○ 6- 3
15/04/19	練習試合	練	松戸K's	○ 5- 4
15/04/19	練習試合	練	松戸K's	● 7- 9
15/04/26	全日本千葉	公	四街道クラブ	● 1- 7
15/05/02	関東春 I	公	東海大学	● 5- 9
15/05/02	関東春 I	公	高崎経済大学	○ 12-11
15/05/03	関東春 I	公	国際武道大学	● 1-11
15/05/03	関東春 I	公	城西大学	● 2- 3
15/05/04	関東春 I	公	千葉大学	△ 4- 4
15/05/09	練習試合	練	城西大学	○ 4- 3
15/05/09	練習試合	練	城西大学	○ 8- 1
15/05/17	練習試合	練	学習院大学	○ 11- 4
15/05/17	練習試合	練	学習院大学	○ 18- 3
15/05/23	関東学生	公	関東学園大学	● 1- 4
15/07/18	練習試合	練	東洋大学	○ 14- 2
15/08/08	東カレ	公	日本大学	○ 5- 4
15/08/09	東カレ	公	盛岡大学	○ 18- 0
15/08/09	東カレ	公	日本体育大学	● 1- 9
15/08/24	練習試合	練	日本大学	○ 4- 1
15/08/24	練習試合	練	日本大学	● 8- 9
15/09/21	練習試合	練	中央大学	○ 4- 0
15/09/21	練習試合	練	中央大学	○ 7- 3
15/09/22	練習試合	練	千葉大学	○ 2- 0
15/09/22	練習試合	練	千葉大学	○ 3- 2
15/09/27	練習試合	練	関東学園大学	● 0- 4
15/09/27	練習試合	練	関東学園大学	● 4- 5
15/10/04	練習試合	練	文教大学	○ 13- 0
15/10/04	練習試合	練	文教大学	○ 9- 1
15/10/10	関東秋 I	公	城西大学	● 3- 6
15/10/10	関東秋 I	公	国際武道大学	● 2- 9
15/10/11	関東秋 I	公	東海大学	● 0-10
15/10/11	関東秋 I	公	高崎経済大学	○ 9- 5
15/10/12	関東秋 I	公	千葉大学	○ 6- 1
15/11/14	関カレ	公	高崎経済大学	○ 10- 2
15/11/15	関カレ	公	国土館大学	● 0- 6
15/11/22	千葉県大学	公	千葉大学	● 1- 4
15/11/22	千葉県大学	公	国際武道大学	● 5- 9
15/11/23	千葉県大学	公	中央学院大学	○ 26- 0

【2016(平成28)年度】

16/02/20	練習試合	練	専修大学	○ 11- 1
16/02/20	練習試合	練	専修大学	○ 9- 1
16/02/23	練習試合	練	日本大学	○ 3- 0
16/02/23	練習試合	練	日本大学	○ 9- 2
16/02/27	練習試合	練	学習院大学	○ 8- 3
16/02/27	練習試合	練	学習院大学	○ 10- 0
16/02/28	練習試合	練	松戸K's	○ 13- 3
16/02/28	練習試合	練	松戸K's	○ 8- 4

日付	試合名	区分	対戦相手	スコア	日付	試合名	区分	対戦相手	スコア
16/02/29	練習試合	練	文教大学	○ 7- 0	17/03/08	練習試合	練	早稲田大学	● 0-10
16/02/29	練習試合	練	文教大学	○ 14- 1	17/03/08	練習試合	練	早稲田大学	○ 5- 0
16/03/08	練習試合	練	東海大学	○ 3- 1	17/03/11	練習試合	練	環太平洋大学	● 10-12
16/03/08	練習試合	練	千葉大学	○ 3- 1	17/03/12	練習試合	練	高知パシフィックウェーブ	● 0- 5
16/03/11	練習試合	練	高知大学	○ 11- 2	17/03/13	練習試合	練	環太平洋大学	● 2- 7
16/03/11	練習試合	練	高知大学	○ 8- 3	17/03/13	練習試合	練	環太平洋大学	● 0- 8
16/03/12	パシフィOP	準	高知パシフィックウェーブ	● 5-18	17/03/16	練習試合	練	明治大学	○ 6- 0
16/03/12	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 1- 8	17/03/16	練習試合	練	明治大学	○ 9- 2
16/03/13	パシフィOP	準	高知工科大学	○ 10- 4	17/03/19	練習試合	練	立教大学	○ 8- 0
16/03/13	パシフィOP	準	環太平洋大学	● 2- 4	17/03/19	練習試合	練	立教大学	○ 15- 2
16/03/20	太田OP	準	YAMATO	○ 10- 2	17/03/22	チャレンジ	準	慶應義塾大学	○ 12- 0
16/03/20	太田OP	準	関東学園大学	● 1- 3	17/03/22	チャレンジ	準	日本体育大学	● 1- 6
16/03/21	練習試合	練	明治大学	○ 7- 3	17/03/22	チャレンジ	準	東京学芸大学	○ 11- 2
16/03/21	練習試合	練	明治大学	○ 3- 0	17/03/23	チャレンジ	準	日本体育大学	● 5- 9
16/03/23	練習試合	練	慶應義塾大学	○ 12- 0	17/04/22	全日本千葉	公	松戸K's	○ 11- 3
16/03/23	練習試合	練	慶應義塾大学	○ 12- 0	17/04/23	全日本千葉	公	四街道クラブ	● 1- 2
16/03/27	太田OP	準	WAKENAKA	○ 15- 1	17/04/30	千葉県大学	公	千葉大学	○ 7- 0
16/03/27	太田OP	準	オール信州	○ 13- 4	17/04/30	千葉県大学	公	国際武道大学	● 0- 1
16/03/29	チャレンジ	準	学習院大学	● 3- 5	17/05/03	関東春 I	公	高崎経済大学	● 1- 2
16/03/29	チャレンジ	準	文教大学	○ 18- 0	17/05/03	関東春 I	公	国際武道大学	● 1- 2
16/03/30	チャレンジ	準	東京大学	○ 12- 1	17/05/04	関東春 I	公	関東学園大学	○ 11- 2
16/03/30	チャレンジ	準	専修大学	○ 8- 2	17/05/04	関東春 I	公	東海大学	○ 5- 4
16/04/03	千葉県大学	公	千葉大学	○ 6- 2	17/05/05	関東春 I	公	城西大学	○ 5- 3
16/04/03	千葉県大学	公	国際武道大学	○ 9- 1	17/05/14	練習試合	練	東京国際大学	○ 16- 3
16/04/23	練習試合	練	東京国際大学	○ 9- 0	17/05/14	練習試合	練	東京国際大学	○ 13- 1
16/04/23	練習試合	練	東京国際大学	○ 11- 4	17/05/20	関東学生	公	日本大学生物資源科学部	○ 10- 0
16/05/03	関東春 I	公	東海大学	○ 5- 0	17/05/20	関東学生	公	都留文科大学	○ 12- 2
16/05/03	関東春 I	公	関東学園大学	△ 0- 0	17/05/21	関東学生	公	国際武道大学	○ 8- 0
16/05/04	関東春 I	公	城西大学	● 3- 5	17/05/21	関東学生	公	城西大学	● 1- 6
16/05/04	関東春 I	公	国際武道大学	○ 7- 0	17/07/02	練習試合	練	相模クラブ	○ 7- 2
16/05/05	関東春 I	公	高崎経済大学	○ 12- 6	17/07/02	練習試合	練	相模クラブ	○ 7- 5
16/05/14	全日本千葉	公	松戸K's	○ 6- 1	17/07/16	練習試合	練	都留文科大学	○ 14- 0
16/05/15	全日本千葉	公	四街道クラブ	● 0- 7	17/07/16	練習試合	練	立教大学	○ 8- 4
16/05/21	関東学生	公	東京国際大学	○ 11- 1	17/08/09	練習試合	練	高崎経済大学	○ 7- 1
16/05/21	関東学生	公	高崎経済大学	● 3- 6	17/08/09	練習試合	練	日本大学	○ 10- 1
16/05/22	関東学生	公	千葉大学	○ 9- 6	17/08/11	練習試合	練	早稲田大学	● 2- 5
16/05/22	関東学生	公	日本大学生物資源科学部	○ 11- 9	17/08/11	練習試合	練	中京大学	● 3-10
16/07/02	練習試合	練	日本体育大学	● 1- 9	17/08/19	練習試合	練	学習院大学	△ 3- 3
16/07/03	練習試合	練	日本体育大学	● 2- 6	17/08/19	練習試合	練	学習院大学	○ 10- 1
16/07/03	練習試合	練	東京国体	● 4- 5	17/08/26	練習試合	練	ホンダエンジニアリング	● 0- 6
16/08/06	東カレ	公	日本大学	● 6- 7	17/08/26	練習試合	練	ホンダエンジニアリング	● 0- 7
16/08/21	練習試合	練	東海大学	○ 3- 1	17/08/28	練習試合	練	国際武道大学	● 3- 8
16/08/21	練習試合	練	東海大学	○ 3- 1	17/09/02	インカレ	公	福岡大学	○ 4- 3
16/08/26	インカレ	公	日本福祉大学	● 1- 4	17/09/03	インカレ	公	城西大学	● 0- 3
16/09/11	練習試合	練	文教大学	○ 14- 2	17/09/30	練習試合	練	国士舘大学	● 0- 3
16/09/11	練習試合	練	文教大学	○ 7- 5	17/09/30	練習試合	練	国士舘大学	● 9-11
16/09/12	練習試合	練	明治大学	○ 8- 3	17/10/01	練習試合	練	慶應義塾大学	○ 10- 4
16/09/12	練習試合	練	明治大学	● 10-11	17/10/01	練習試合	練	千葉大学	○ 9- 2
16/09/18	練習試合	練	東京大学	● 1- 2	17/10/08	関東秋 I	公	関東学園大学	○ 9- 2
16/10/08	関東秋 I	公	関東学園大学	○ 4- 1	17/10/08	関東秋 I	公	城西大学	○ 8- 4
16/10/08	関東秋 I	公	国際武道大学	○ 9- 3	17/10/09	関東秋 I	公	高崎経済大学	○ 5- 4
16/10/09	関東秋 I	公	東海大学	● 3- 5	17/10/14	関東秋 I	公	東海大学	○ 7- 0
16/10/09	関東秋 I	公	千葉大学	○ 5- 3	17/10/14	関東秋 I	公	国際武道大学	● 0-13
16/10/10	関東秋 I	公	城西大学	○ 7- 4	17/10/30	関カレ	公	関東学園大学	○ 9- 8
16/10/23	練習試合	練	立教大学	○ 8- 7	17/10/30	関カレ	公	東京大学	● 6- 7
16/10/23	練習試合	練	立教大学	○ 17- 1	17/11/11	練習試合	練	東京学芸大学	○ 12- 3
16/10/29	関カレ	公	日本体育大学	● 4-11	17/11/11	練習試合	練	立教大学	○ 8- 0
16/11/06	練習試合	練	慶應義塾大学	○ 9- 8	17/11/26	千葉県大学	公	千葉大学	○ 8- 4
16/11/06	練習試合	練	慶應義塾大学	○ 12- 6	17/11/26	千葉県大学	公	国際武道大学	● 1- 6
16/11/26	練習試合	練	国士舘大学	● 3- 6					
16/11/26	練習試合	練	国士舘大学	● 0- 5					
16/11/27	千葉県大学	公	千葉大学	○ 9- 2					
16/11/27	千葉県大学	公	国際武道大学	○ 15-14					

【2017(平成29)年度】

17/02/20	練習試合	練	東京大学	○ 12- 2
17/02/20	練習試合	練	東京大学	○ 13- 0
17/02/22	練習試合	練	日本大学	○ 21- 3
17/02/22	練習試合	練	日本大学	○ 11- 1
17/02/25	練習試合	練	岐阜聖徳学園大学	○ 14- 5
17/02/25	練習試合	練	岐阜聖徳学園大学	○ 6- 5
17/03/05	練習試合	練	東京学芸大学	○ 11- 0
17/03/05	練習試合	練	東海大学	○ 11- 6

投手編 ～ Pitching Stats ～

チーム投手成績（年度別）

年度	幹部	防御率	試合	勝利	敗北	完投	完封	勝率	打者	投球回	安打	本塁打	四死球	三振	暴投	失点	自責点	投球
1977（昭和52）	初	9.33	1	0	1	1	0	.000	37	6	9	0	9	2	4	11	8	141
1978（昭和53）	初	6.85	19	7	11	12	0	.389	477	93	103	12	94	12	18	142	91	1700
1979（昭和54）	2	4.11	17	8	9	14	0	.471	527	110 2/3	113	5	80	28	17	92	65	1785
1980（昭和55）	3	3.19	36	21	12	28	2	.636	937	206	206	14	108	54	31	154	94	3044
1981（昭和56）	4	3.92	31	17	13	28	1	.567	964	205 1/3	198	10	150	42	37	148	115	3231
1982（昭和57）	5	4.61	26	8	17	25	3	.320	815	168 2/3	177	11	130	38	53	146	111	2606
1983（昭和58）	6	2.40	33	20	12	32	5	.625	917	213	162	15	102	118	26	107	73	3215
1984（昭和59）	7	5.05	35	14	19	30	3	.424	1133	226	233	11	222	50	39	208	163	3962
1985（昭和60）	8	3.10	32	20	12	27	3	.625	956	212 1/3	224	12	95	79	13	124	94	3259
1986（昭和61）	9	3.28	60	37	22	39	5	.627	1797	401	421	27	175	141	33	243	188	6100
1987（昭和62）	10	2.82	53	32	20	46	4	.615	1590	364 1/3	325	15	166	166	20	199	147	5555
1988（昭和63）	11	2.94	47	23	22	40	4	.511	1414	304 1/3	315	15	141	90	27	212	128	4614
1989（平成元）	12	3.60	52	33	19	44	4	.635	1573	346 1/3	358	28	140	74	54	246	178	4856
1990（平成2）	13	4.95	43	21	21	40	1	.500	1351	284	363	28	146	52	50	246	201	4289
1991（平成3）	14	4.11	33	13	18	30	3	.419	1061	223	238	13	149	50	37	168	131	3594
1992（平成4）	15	4.79	40	20	20	29	1	.500	1295	263	285	18	202	46	46	242	180	4381
1993（平成5）	16	5.92	38	11	26	26	1	.297	1208	236 1/3	289	16	208	35	38	253	200	4043
1994（平成6）	17	2.44	45	20	25	36	7	.444	1335	295 1/3	285	25	123	168	15	210	103	4568
1995（平成7）	18	3.11	34	20	14	29	5	.588	986	225	206	19	87	168	25	145	100	3407
1996（平成8）	19	2.94	46	27	19	43	8	.587	1325	302	173	28	113	303	14	182	127	4589
1997（平成9）	20	4.28	57	28	28	50	7	.500	1682	350 1/3	391	39	208	327	13	312	214	6109
1998（平成10）	21	4.30	40	20	20	29	1	.500	1215	247 2/3	322	32	102	81	11	258	152	3855
1999（平成11）	22	4.16	60	22	34	56	1	.393	1741	361 2/3	439	35	142	149	21	329	215	5729
2000（平成12）	23	3.73	46	21	23	41	4	.477	1400	306	338	37	141	200	18	243	163	4913
2001（平成13）	24	4.39	41	24	15	35	2	.615	1204	253 2/3	310	28	157	150	15	203	159	4149
2002（平成14）	25	5.55	58	26	31	44	1	.456	1784	345 1/3	451	42	324	124	35	402	274	6304
2003（平成15）	26	4.84	46	21	24	33	2	.467	1449	276	353	37	189	143	47	302	191	4898
2004（平成16）	27	3.45	39	20	19	22	1	.513	1204	233	244	12	221	231	28	228	115	4513
2005（平成17）	28	3.15	55	36	17	38	5	.679	1499	327	314	18	182	264	28	225	147	5359
2006（平成18）	29	2.96	43	29	14	25	2	.674	1176	260 1/3	245	23	122	260	9	174	110	4263
2007（平成19）	30	4.27	41	23	18	34	4	.561	1192	252 2/3	296	47	129	212	7	209	154	4643
2008（平成20）	31	4.63	47	29	16	35	3	.644	1257	270 2/3	323	54	125	185	12	215	179	4550
2009（平成21）	32	6.33	46	25	19	31	0	.568	1360	271	395	43	142	167	8	300	245	4858
2010（平成22）	33	5.75	38	19	17	20	2	.528	1048	212	317	37	85	121	7	219	174	3683
2011（平成23）	34	5.48	50	24	24	37	2	.500	1462	300 1/3	391	43	151	194	24	298	235	5209
2012（平成24）	35	5.58	49	21	27	43	2	.438	1481	277 1/3	368	42	203	190	41	345	221	5065
2013（平成25）	36	4.22	67	39	26	53	12	.600	1787	374 2/3	375	38	243	423	55	323	226	6634
2014（平成26）	37	4.95	62	38	23	50	9	.623	1710	374 2/3	342	48	258	401	19	287	265	6404
2015（平成27）	38	5.01	50	28	19	36	6	.596	1388	288	333	30	200	187	38	235	206	5046
2016（平成28）	39	3.56	71	51	19	41	5	.729	1868	421	403	39	214	324	41	257	214	6862
2017（平成29）	40	3.24	67	43	23	33	2	.652	1668	378 1/3	335	45	169	386	27	246	175	6137
合計		4.13	1794	959	788	1385	133	.549	52273	11067 1/3	11968	1091	6347	6435	1101	9088	6531	182122

※ 不戦勝5試合と不戦敗1試合は試合数に含まれていません。

個人投手成績（通算）

代	選手名	防御率	試合	勝利	敗北	完投	完封	勝率	打者	投球回	安打	本塁打	四死球	三振	暴投	失点	自責点	投球
初	山本	4.96	19	6	9	14	0	.400	481	101 2/3	115	11	51	13	11	90	72	1594
2	笠井	14.70	3	1	1	1	0	.500	90	13 1/3	16	2	35	4	9	31	28	363
3	小澤	6.22	12	5	4	8	0	.556	320	59 2/3	60	5	83	20	16	66	53	1211
3	加藤	3.80	24	10	12	21	1	.455	667	142	147	6	88	32	20	108	77	2251
3	清水(均)	2.49	40	22	14	34	1	.611	1119	255 2/3	250	14	104	60	21	121	91	3476
4	上野	–	1	0	0	0	0	–	2	0	0	0	2	0	1	1	1	8
5	石岡	3.17	5	3	0	2	1	1.000	74	17 2/3	13	1	7	6	1	9	8	238
5	瀬谷	6.67	12	5	5	8	1	.500	338	64	52	4	96	16	42	77	61	1250
6	小野	3.35	65	29	33	62	8	.468	1909	415 1/3	376	26	277	158	85	285	199	6514
6	兵頭	7.50	4	1	2	2	0	.333	105	18 2/3	33	2	10	5	1	28	20	347
7	今村	4.20	7	5	0	5	0	1.000	185	40	39	4	27	5	2	28	24	637
7	國崎	3.72	10	3	1	2	0	.750	118	26 1/3	27	2	15	3	5	14	14	430
8	佐藤	4.07	45	18	18	31	4	.500	1244	259 2/3	268	15	197	81	30	191	151	4277
8	千葉	0.00	1	0	0	0	0	–	1	1/3	0	0	0	0	0	0	0	3
9	市丸	0.00	1	0	0	0	0	–	3	1	0	0	1	1	0	0	0	11
9	金藤	2.83	88	54	27	67	10	.667	2306	539	514	28	177	267	19	272	218	7949
9	高尾	3.31	23	8	8	9	0	.500	496	108	111	7	61	19	10	73	51	1606
9	山下	3.35	22	7	6	10	0	.538	437	96	84	2	63	31	13	62	46	1540
10	上原	3.32	36	15	17	30	4	.469	1065	223 1/3	245	12	111	63	17	169	106	3568
10	加柴	3.18	10	5	5	9	0	.500	310	66	72	2	38	18	6	51	30	1014
10	直木	5.83	3	0	1	0	0	.000	30	6	6	0	4	3	0	6	5	90
11	久保田	3.38	17	5	4	8	0	.556	317	68 1/3	53	6	38	19	12	43	33	762
11	佐々木	3.35	64	39	24	53	4	.619	1790	397 1/3	438	34	134	81	43	271	190	5767
12	黒田	0.00	1	0	0	0	0	–	1	1/3	0	0	0	0	0	0	0	5
12	寺田	11.00	1	0	1	1	0	.000	44	7	13	3	9	1	3	12	11	137
12	平本	3.50	24	13	8	21	1	.619	693	152	193	7	47	28	11	97	76	2146
12	眞榮城	9.86	6	1	0	1	0	1.000	79	16 1/3	11	2	28	3	13	29	23	288
13	高橋(康)	4.85	39	14	22	30	3	.389	1158	244	291	22	163	35	37	212	169	3915
14	伊藤	4.47	26	11	10	18	1	.524	748	145 2/3	141	10	113	49	33	116	93	2401
14	土屋	10.65	9	1	3	3	0	.250	130	23	30	3	33	3	17	42	35	456
15	小笠原	4.93	30	13	15	23	0	.464	877	176	194	8	149	24	30	170	124	3021
15	齊田	11.31	3	0	1	0	0	.000	29	4 1/3	6	0	9	1	6	8	7	117
16	市川	6.44	17	2	7	7	0	.222	358	66 1/3	102	6	56	14	9	80	61	1169
16	十倉	5.79	10	2	6	3	1	.250	204	42 1/3	42	3	37	8	5	41	35	703
17	石渡	3.45	10	2	4	3	0	.333	222	42 2/3	51	2	41	8	4	49	21	736
17	對馬	5.90	27	3	15	12	0	.167	589	110 1/3	158	14	84	23	16	142	93	1955
18	森岡	9.63	6	0	1	0	0	.000	52	8	13	2	10	1	4	18	11	170
19	芝	8.08	11	4	7	5	0	.364	300	52	82	3	62	9	13	84	60	1075
19	村上	2.30	142	87	49	132	27	.640	3859	911	639	71	316	898	40	452	299	13782
20	小寺(之)	4.66	21	4	10	10	0	.286	467	82 2/3	113	11	69	28	4	112	55	1607
20	中島	5.48	50	17	22	29	1	.436	1171	239	341	39	74	95	8	262	187	3690
21	細田	8.59	2	0	1	1	0	.000	40	7 1/3	10	2	8	1	2	15	9	140
22	熊井	4.85	7	0	0	0	0	–	21	4 1/3	5	1	1	1	0	3	3	74

代	選手名	防御率	試合	勝利	敗北	完投	完封	勝率	打者	投球回	安打	本塁打	四死球	三振	暴投	失点	自責点	投球
23	白石	3.81	127	49	64	107	4	.434	3574	759 2/3	881	83	330	408	39	644	413	12164
23	西山	42.00	2	0	0	0	0 -		13	1 1/3	4	0	7	0	2	9	8	57
24	石浦	7.33	18	3	6	7	0	.333	336	57 1/3	85	6	75	9	14	95	60	1115
24	上野	0.00	2	0	0	0	0 -		7	2	1	0	0	2	0	0	0	32
24	斎藤	5.34	28	12	10	15	0	.545	677	133 2/3	187	16	122	66	17	139	102	2436
25	小塩	28.00	1	0	0	0	0 -		11	1	0	0	8	2	3	5	4	42
26	橋本	4.32	132	57	53	84	6	.518	3223	644 1/3	765	74	443	402	54	607	398	11116
26	山木	4.20	4	1	0	0	0	1.000	60	11 2/3	20	1	3	4	0	14	7	185
27	角	210.00	1	0	1	0	0	.000	13	1/3	4	0	7	0	1	12	10	54
28	森高	3.36	71	19	21	30	2	.475	1365	271	255	11	278	218	42	256	130	5185
28	山科(瞬)	4.23	31	13	8	14	2	.619	581	125 2/3	147	11	47	90	3	103	76	2006
28	吉永	11.31	5	0	1	0	0	.000	90	13	28	2	28	4	13	28	21	335
30	井上	3.41	81	44	17	45	3	.721	1654	365	370	42	160	291	13	253	178	5892
30	福田	3.50	1	0	0	0	0 -		11	2	3	0	1	0	0	1	1	30
31	高木	4.62	122	63	45	79	8	.583	2941	620 1/3	759	102	288	488	19	522	409	11224
31	山田	5.13	12	5	0	4	0	1.000	209	42 1/3	55	3	29	37	5	41	31	788
32	渥美	0.00	1	0	0	0	0 -		7	1	1	0	3	2	0	2	0	32
32	安部	7.58	19	1	3	2	0	.250	234	44 1/3	79	11	27	18	1	54	48	757
33	浅野	5.61	83	41	31	41	3	.569	1894	391 2/3	540	65	179	234	21	395	314	6641
34	加藤	6.32	53	11	19	25	0	.367	1119	211 2/3	309	37	128	121	14	255	191	3870
35	藤井(祐)	4.27	76	36	30	60	7	.545	1905	379	412	49	279	351	68	386	231	6896
36	藤井(岳)	10.37	17	2	7	6	0	.222	329	55 1/3	103	12	46	15	14	106	82	985
38	# 石崎	3.50	149	98	52	109	24	.653	3785	871	712	84	485	1021	64	492	436	14370
39	# 大江	4.61	123	58	28	58	4	.674	2480	534 1/3	585	62	302	321	53	418	352	9026
39	* 金井	9.78	10	3	1	1	0	.750	168	29 1/3	48	1	29	12	2	49	41	619
40	# 小山	3.66	41	13	8	10	1	.619	576	124 1/3	118	12	62	109	10	93	65	1986
41	# 安齋	4.71	23	6	3	5	0	.667	333	65 1/3	81	11	45	52	7	63	44	1130
-	丸山	3.65	7	4	2	6	1	.667	161	38 1/3	40	2	4	7	1	26	20	407
-	門田	4.20	3	1	1	2	0	.500	68	15	19	2	4	16	2	11	9	249
-	不明者	0.00	11	4	4	0	0	.500	0	2	3	0	0	0	0	69	0	0

打撃・守備編 ～ Batting & Fielding Stats ～

チーム打撃・守備成績（年度別）

年度	幹部	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	守備率	刺殺	捕殺	失策
1977（昭和52）	初	.222	1	33	27	3	6	1	0	1	10	3	0	0	6	4	.370	.364				
1978（昭和53）	初	.256	19	489	352	104	90	7	3	1	106	91	25	27	109	23	.301	.408				
1979（昭和54）	2	.265	17	553	426	130	113	9	6	11	167	103	32	21	106	53	.392	.396				
1980（昭和55）	3	.251	36	964	781	195	196	13	5	7	240	134	60	43	139	64	.307	.348				
1981（昭和56）	4	.239	31	933	758	123	181	9	10	11	243	94	69	57	118	90	.321	.320				
1982（昭和57）	5	.243	26	739	596	93	145	9	8	9	197	65	39	54	89	50	.331	.317				
1983（昭和58）	6	.315	33	1045	835	221	263	21	9	15	347	168	75	70	139	69	.416	.385				
1984（昭和59）	7	.275	35	1080	898	154	247	20	10	11	320	118	25	64	118	66	.356	.338				
1985（昭和60）	8	.289	32	1022	792	194	229	9	10	17	309	146	75	87	143	61	.390	.364				
1986（昭和61）	9	.342	60	1964	1548	418	530	42	25	18	676	288	234	137	279	126	.437	.412				
1987（昭和62）	10	.299	53	1698	1308	291	391	22	18	16	497	213	114	100	230	117	.380	.379				
1988（昭和63）	11	.321	47	1460	1202	269	386	18	14	12	468	190	115	82	175	105	.389	.385				
1989（平成元）	12	.275	52	1577	1262	282	347	26	11	19	452	210	138	70	245	125	.358	.375				
1990（平成2）	13	.270	43	1285	1061	223	286	20	18	15	387	154	133	47	177	126	.365	.360				
1991（平成3）	14	.241	33	883	700	132	169	15	7	7	219	78	113	61	120	93	.313	.328				
1992（平成4）	15	.280	40	1265	1002	260	281	17	15	12	364	180	163	68	194	87	.363	.376				
1993（平成5）	16	.250	38	1135	947	174	237	12	19	9	314	109	122	39	149	89	.332	.340				
1994（平成6）	17	.277	45	1303	1157	184	321	17	23	16	432	141	102	25	121	143	.373	.339				
1995（平成7）	18	.291	34	1064	898	192	261	33	27	19	405	137	51	39	119	127	.451	.360				
1996（平成8）	19	.266	46	1315	1074	231	286	37	19	17	412	155	107	54	184	162	.384	.358				
1997（平成9）	20	.290	57	1572	1297	307	376	24	25	15	495	215	125	53	222	163	.382	.380				
1998（平成10）	21	.284	40	1222	983	266	279	26	28	26	439	199	146	54	185	129	.447	.380	.902	739	370	121
1999（平成11）	22	.269	60	1655	1353	288	364	38	31	29	551	217	142	72	230	166	.407	.359	.925	1084	497	128
2000（平成12）	23	.244	46	1350	1131	223	276	20	25	20	406	154	109	73	146	129	.359	.313	.949	879	438	71
2001（平成13）	24	.289	41	1236	999	284	289	12	21	38	457	217	86	50	187	98	.457	.385	.954	761	377	55
2002（平成14）	25	.303	58	1662	1395	360	423	40	41	40	665	293	125	69	198	187	.477	.374	.942	1038	535	96
2003（平成15）	26	.276	46	1326	1127	257	311	35	36	38	532	183	106	51	148	157	.472	.346	.928	891	356	97
2004（平成16）	27	.325	39	1223	953	288	310	26	20	26	454	197	89	83	189	123	.476	.407	.932	770	372	83
2005（平成17）	28	.324	55	1610	1276	403	413	41	41	44	668	283	124	83	251	176	.524	.412	.937	978	416	94
2006（平成18）	29	.318	43	1268	1004	301	319	40	21	53	560	246	92	79	185	139	.558	.397	.936	771	305	73
2007（平成19）	30	.292	41	1234	990	251	289	36	24	40	493	196	124	55	189	153	.498	.387	.939	746	281	67
2008（平成20）	31	.340	47	1404	1098	379	373	51	28	53	639	305	75	46	260	144	.582	.451	.964	804	352	43
2009（平成21）	32	.351	46	1391	1146	353	402	64	43	57	723	275	85	43	202	140	.631	.434	.962	806	373	46
2010（平成22）	33	.346	38	1068	845	287	292	35	23	38	487	217	134	28	195	118	.576	.456	.954	613	247	41
2011（平成23）	34	.313	50	1419	1209	324	379	61	39	65	713	267	90	31	179	158	.590	.393	.964	901	361	47
2012（平成24）	35	.329	49	1410	1173	339	386	48	32	48	642	236	92	45	192	177	.547	.410	.947	832	325	65
2013（平成25）	36	.316	67	1859	1557	413	492	46	47	37	743	320	139	48	254	252	.477	.401	.956	1124	344	67
2014（平成26）	37	.308	62	1737	1527	353	471	53	54	27	713	241	153	48	162	257	.467	.364	.979	1124	372	32
2015（平成27）	38	.318	50	1445	1220	332	388	41	30	34	591	276	117	30	195	212	.484	.403	.958	864	374	54
2016（平成28）	39	.351	71	2136	1817	516	638	86	57	46	976	431	132	41	278	217	.537	.429	.956	1263	490	80
2017（平成29）	40	.312	67	1921	1551	464	484	79	41	64	837	372	112	42	328	249	.540	.423	.936	1096	385	102
合計		.299	1794	52955	43275	10861	12919	1259	964	1081	19349	8117	4189	2269	7335	5324	.447	.383	-	-	-	-

※ 不戦勝5試合と不戦敗1試合は試合数に含まれていません。

個人打撃・守備成績（通算）

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
【初代】																					
荒井	.294	14	46	34	9	10	0	1	0	12	3	2	3	9	7	.353	.413				
岩崎	.310	22	79	58	20	18	1	0	0	19	15	5	3	18	5	.328	.456				
大竹	.000	2	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.250				
真殿	.309	26	95	81	22	25	0	1	3	36	21	3	3	11	7	.444	.379				
山本	.152	19	48	33	8	5	0	0	0	5	9	3	4	11	4	.152	.333				
* 有園	.000	1	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000				
* 岩本	.000	1	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	.000	.500				
* 西崎	.500	1	4	4	1	2	1	0	0	3	0	0	0	0	1	.750	.500				
【2代】																					
猪股	.241	32	106	83	26	20	3	0	3	32	26	9	5	17	4	.386	.352				
笠井	.259	34	112	81	28	21	1	1	0	24	16	5	4	27	6	.296	.429				
佐藤	.275	27	70	51	15	14	1	1	2	23	12	6	3	16	7	.451	.429				
清水(学)	.308	7	16	13	3	4	0	0	1	7	6	1	2	1	1	.538	.313				
【3代】																					
岡田	.133	37	113	90	16	12	1	0	0	13	8	2	6	17	12	.144	.257				
小澤	.276	69	219	174	46	48	2	3	1	59	28	25	8	37	18	.339	.388				
加藤	.223	62	153	121	17	27	4	1	2	39	20	11	7	24	15	.322	.336				
木下	.269	48	153	119	33	32	2	0	0	34	21	8	6	28	10	.286	.392				
桐谷	.302	43	135	106	27	32	2	0	0	34	29	6	7	22	9	.321	.400				
清水(均)	.318	69	238	192	68	61	5	8	13	121	56	13	9	37	14	.630	.412				
中本	.130	42	117	92	24	12	0	0	0	12	12	8	4	21	9	.130	.282				
不破	.229	26	40	35	9	8	1	0	0	9	4	3	0	5	1	.257	.325				
本多	.249	70	218	173	34	43	3	3	0	52	40	4	14	31	14	.301	.339				
* 藤井	.167	2	7	6	1	1	0	0	0	1	2	0	1	0	0	.167	.143				
【4代】																					
秋山	.302	67	203	172	35	52	5	2	4	73	31	17	5	26	10	.424	.384				
雨宮	.219	35	91	73	11	16	0	1	0	18	9	6	5	13	8	.247	.319				
井上	.250	71	216	164	34	41	1	0	0	42	19	17	13	39	11	.256	.370				
上野	.143	33	51	42	5	6	0	0	0	6	1	5	4	5	14	.143	.216				
奥山	.224	64	190	152	32	34	3	0	4	49	16	10	6	32	18	.322	.347				
野呂	.191	43	79	68	9	13	1	0	0	14	9	4	3	8	7	.206	.266				
* 戸塚	.000	2	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.250				
【5代】																					
石岡	.295	86	283	217	60	64	4	4	2	82	20	21	14	52	23	.378	.410				
瀬谷	.280	97	273	236	52	66	3	7	8	107	44	17	15	22	18	.453	.322				
田中	.194	50	115	93	7	18	0	2	0	22	6	3	12	10	10	.237	.243				
本田	.298	69	189	151	24	45	5	3	2	62	38	11	12	26	14	.411	.376				
【6代】																					
阿久津	.316	85	282	225	48	71	7	1	4	92	37	15	29	28	26	.409	.351				
小野	.219	68	194	160	23	35	7	1	2	50	27	4	13	21	16	.313	.289				
上川	.442	47	150	104	37	46	1	0	0	47	19	22	16	30	5	.452	.507				
原	.269	78	220	175	32	47	1	2	2	58	25	14	18	27	10	.331	.336				
兵頭	.269	43	79	67	11	18	1	0	0	19	11	6	6	6	9	.284	.304				
吉山	.253	52	122	95	17	24	1	0	0	25	8	7	11	16	7	.263	.328				
* 菅本	.500	2	2	2	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	.500	.500				
* 鈴木	.000	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000				
* 永良	-	2	1	0	1	0	0	0	0	-	0	1	0	1	0	-	-				
【7代】																					
今村	.281	68	225	185	42	52	4	1	5	73	36	6	12	28	16	.395	.356				
國崎	.334	146	448	347	95	116	12	3	1	137	56	26	29	71	24	.395	.418				
* 小泉	.000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000				
【8代】																					
宇田	.303	132	427	340	78	103	9	8	5	143	67	26	35	52	16	.421	.363				
佐藤	.231	57	117	91	19	21	1	1	2	30	14	4	16	10	11	.330	.265				
滝川	.339	152	513	404	106	137	10	12	8	195	75	47	36	73	27	.483	.409				
田中	.103	37	44	39	3	4	0	0	0	4	3	1	1	4	3	.103	.182				
千葉	.300	96	248	203	46	61	5	3	4	84	35	15	14	31	18	.414	.371				
樋口	.302	86	310	248	66	75	6	3	9	114	49	16	15	47	19	.460	.394				
湊	.156	53	95	77	14	12	1	0	0	13	6	7	0	18	10	.169	.316				
* 築沢	.167	4	7	6	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	.167	.286				
* 中村	.296	19	60	54	6	16	2	1	2	26	8	4	2	4	5	.481	.333				

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
【9代】																					
石井	.378	40	45	37	8	14	0	0	1	17	4	1	3	5	6	.459	.422				
石上	.000	5	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	.000	.000				
市丸	.379	186	631	470	137	178	6	1	2	192	47	77	67	94	41	.409	.431				
金藤	.275	95	109	80	17	22	1	0	1	26	14	7	11	18	6	.325	.367				
高尾	.258	128	348	271	66	70	1	0	2	77	30	41	26	51	32	.284	.348				
古川	.284	71	91	74	19	21	1	1	2	30	20	8	3	14	10	.405	.385				
山下	.353	143	490	399	89	141	12	12	7	198	90	36	35	56	16	.496	.402				
山元	.284	76	146	116	27	33	0	0	3	42	11	16	15	15	13	.362	.329				
【10代】																					
池田	.111	31	27	18	4	2	0	0	0	2	3	0	1	8	5	.111	.370				
池永	.133	22	18	15	4	2	0	0	0	2	0	2	0	3	1	.133	.278				
上原	.348	137	477	400	104	139	13	6	8	188	94	73	23	54	16	.470	.405				
岡田	.277	91	198	159	30	44	4	3	0	54	29	15	12	27	14	.340	.359				
加柴	.356	174	537	455	94	162	14	3	9	209	102	35	30	51	25	.459	.397				
川瀬	.266	111	343	256	63	68	1	3	1	78	34	24	23	64	17	.305	.385				
直木	.349	42	110	43	11	15	0	0	0	15	7	2	3	4	4	.349	.380				
中島	.247	97	198	170	34	42	4	2	1	53	26	20	13	15	28	.312	.288				
山本	.297	71	138	111	23	33	2	1	0	37	18	6	5	22	9	.333	.399				
【11代】																					
久保田	.083	29	15	12	1	1	0	0	0	1	1	2	1	2	4	.083	.200				
佐々木	.284	146	365	303	50	86	2	3	2	100	46	23	6	56	28	.330	.389				
高橋(則)	.244	61	103	82	19	20	0	0	0	20	9	4	5	16	9	.244	.350				
中野	.063	32	41	32	2	2	0	0	0	2	1	1	2	7	4	.063	.220				
【12代】																					
江島	.234	143	392	325	67	76	0	2	1	83	30	47	19	48	40	.255	.316				
大江	.346	158	531	457	109	158	13	8	12	223	99	56	19	55	20	.488	.401				
黒田	.304	130	406	319	89	97	8	2	1	112	33	45	15	72	52	.351	.416				
寺田	.216	75	139	111	20	24	1	0	3	34	20	8	1	27	16	.306	.367				
平本	.307	136	430	355	66	109	8	5	5	142	67	22	33	42	28	.400	.351				
眞榮城	.284	76	115	102	17	29	0	0	1	32	11	17	3	10	14	.314	.339				
* 斎藤	.175	35	98	80	14	14	0	3	0	20	14	7	0	18	9	.250	.327				
【13代】																					
浦部	.212	91	228	170	34	36	2	0	0	38	23	11	16	42	15	.224	.342				
高橋(康)	.319	171	607	480	125	153	12	21	13	246	100	80	32	96	45	.513	.410				
吉田	.156	115	241	180	29	28	1	1	0	31	19	9	20	41	29	.172	.286				
* 佐瀬	.000	5	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	.000	.200				
【14代】																					
伊藤	.250	72	168	128	35	32	2	1	0	36	7	21	14	26	10	.281	.345				
河西	.185	60	111	92	15	17	0	1	0	19	13	8	5	14	15	.207	.279				
日下	.265	117	399	291	67	77	8	5	3	104	38	43	32	76	22	.357	.383				
佐藤	.208	74	142	120	17	25	2	1	0	29	12	26	3	15	17	.242	.290				
竹内	.289	116	360	280	82	81	7	2	3	101	28	58	15	66	40	.361	.407				
土屋	.349	68	95	86	18	30	2	2	4	48	23	11	2	8	12	.558	.396				
* 清水	.000	4	5	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	.000	.200				
* 花嶋	.000	5	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	.000	.500				
【15代】																					
小笠原	.272	61	182	151	31	41	6	1	3	58	38	20	11	20	18	.384	.335				
奥山	.207	42	103	82	14	17	1	1	1	23	12	14	6	14	8	.280	.304				
齊田	.120	20	28	25	6	3	1	0	0	4	1	3	0	3	3	.160	.214				
乃一	.273	47	164	139	19	38	1	1	0	41	19	11	3	22	11	.295	.366				
山本	.250	63	50	40	23	10	0	0	0	10	0	27	3	7	7	.250	.340				
* 稲田	.500	4	4	4	1	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	.500	.500				
* 辻	.348	10	27	23	2	8	2	0	0	10	1	3	2	2	6	.435	.370				
* 宮川	.250	6	8	8	0	2	0	0	0	2	1	0	0	0	2	.250	.250				
* 三宅	.000	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.500				
【16代】																					
市川	.176	29	26	17	4	3	0	0	0	3	0	3	2	7	3	.176	.385				
坂江	.255	46	116	94	21	24	5	1	1	34	8	10	6	16	4	.362	.345				
提島	.294	16	17	17	4	5	0	0	0	5	2	0	0	0	1	.294	.294				
十倉	.308	36	57	52	9	16	0	1	0	18	13	6	0	5	5	.346	.368				
長澤	.186	77	226	177	32	33	1	2	0	38	14	23	16	33	16	.215	.292				
西河	.291	112	345	289	59	84	1	13	6	129	54	18	13	38	41	.446	.359				
松島	.198	36	93	81	8	16	1	2	1	24	11	2	1	11	16	.296	.290				

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
* 馬場	.200	34	87	70	11	14	2	0	1	19	7	6	5	11	7	.271	.291				
* 本間	.333	4	3	3	2	1	0	0	0	1	1	1	0	0	1	.333	.333				
* 水谷	.250	8	8	8	1	2	0	0	0	2	2	1	0	0	2	.250	.250				

【18代】

【19代】

【20代】

【21代】

【22代】

【23代】

【24代】

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
上野	.222	36	11	9	14	2	0	0	1	5	5	6	0	2	0	.556	.364	4	2	0	1.000
内山	.280	94	275	225	59	63	0	0	1	66	22	16	17	33	20	.293	.349	135	201	24	.933
斎藤	.311	82	262	222	60	69	12	8	8	121	55	17	6	34	20	.545	.393	112	40	6	.962
西谷	.265	158	444	378	84	100	7	12	4	143	43	28	25	41	44	.378	.318	351	225	31	.949
波崎	.169	97	231	195	30	33	1	1	3	45	20	22	14	22	29	.231	.238	111	6	8	.936
牧内	.165	87	148	121	29	20	3	0	1	26	4	26	13	14	24	.215	.230	51	5	2	.966
* 佐藤	.429	4	7	7	1	3	0	0	0	3	0	0	0	0	2	.429	.429	4	6	1	.909
* 増渕	.163	70	168	129	27	21	1	3	2	34	10	13	10	29	27	.264	.298	112	100	26	.891
【25代】																					
朝日	.355	147	482	400	117	142	14	15	28	270	138	42	15	67	35	.675	.434	305	136	23	.950
生駒	.267	42	51	45	12	12	4	0	0	16	7	3	0	6	7	.356	.353	16	25	5	.891
小塩	.369	97	309	255	77	94	6	11	9	149	47	26	12	42	27	.584	.440	134	33	4	.977
根本	.286	93	248	224	47	64	4	6	5	95	40	21	3	21	29	.424	.343	360	17	9	.977
堀田	.203	92	72	59	17	12	0	0	0	12	5	4	2	11	13	.203	.319	86	12	6	.942
* 菅沼	-	2	0	0	0	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	-	-	0	2	0	1.000
* 高田	.405	33	49	37	14	15	1	1	2	24	9	3	1	11	5	.649	.531	12	0	1	.923
【26代】																					
橋本	.283	148	265	226	46	64	9	6	2	91	39	13	17	25	20	.403	.332	29	196	16	.934
山木	.320	142	465	378	115	121	8	19	22	233	105	29	24	63	38	.616	.396	381	169	45	.924
* 池田	.000	4	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	.000	.250	0	0	0	-
* 嶋崎	.000	4	7	3	2	0	0	0	0	0	1	2	1	3	1	.000	.429	1	1	0	1.000
【27代】																					
角	.346	192	553	465	151	161	16	8	6	211	60	74	34	54	50	.454	.389	506	79	36	.942
高橋	.256	79	156	121	25	31	1	1	0	34	13	9	14	21	17	.281	.333	66	78	17	.894
坪沼	.237	110	229	190	44	45	3	3	2	60	29	14	16	24	19	.316	.300	107	28	24	.849
戸田	.253	68	100	87	23	22	1	3	2	35	13	7	3	10	9	.402	.320	51	6	8	.877
中原	.188	79	166	128	23	24	2	3	1	35	15	6	4	34	37	.273	.349	69	3	4	.947
古川	.429	15	15	14	5	6	1	0	0	7	2	0	0	1	2	.500	.467	3	5	1	.889
* 小田	.000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	.000	.000	0	0	0	-
* 神田	.167	5	7	6	2	1	0	1	0	3	0	1	1	0	1	.500	.143	7	4	5	.688
* 木原	-	2	0	0	1	0	0	0	0	-	0	1	0	0	0	-	-	0	0	0	-
* 杉原	.333	8	15	9	4	3	0	0	0	3	1	0	0	6	2	.333	.600	11	1	2	.857
* 寺川	.000	4	4	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	.000	.250	0	0	0	-
* 矢野	.125	5	9	8	1	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	.125	.222	13	3	3	.842
【28代】																					
眞貝	.274	80	135	113	23	31	3	2	3	47	25	6	6	16	25	.416	.348	22	2	0	1.000
土肥	.278	172	516	385	118	107	16	7	6	155	70	20	23	108	40	.403	.417	801	135	14	.985
水上	.209	155	287	215	60	45	3	2	1	55	12	18	30	42	48	.256	.303	112	75	25	.882
森高	.395	130	364	299	95	118	11	17	16	211	82	32	20	45	40	.706	.448	27	61	8	.917
森本	.297	149	391	293	95	87	2	0	4	101	32	42	41	56	57	.345	.367	135	58	24	.889
山科(瞬)	.362	90	150	116	28	42	2	4	4	64	31	9	6	28	24	.552	.467	13	25	3	.927
吉永	.287	146	320	258	58	74	8	6	11	127	52	21	15	46	43	.492	.376	237	82	20	.941
* 田淵	.000	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	.000	.000	0	0	0	-
* 橋爪	-	1	0	0	1	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-
【29代】																					
五十嵐	.315	124	323	260	59	82	7	9	5	122	42	23	16	47	43	.469	.399	438	28	20	.959
早川	.451	212	690	556	205	251	45	18	70	542	248	56	20	114	42	.975	.529	229	423	58	.918
平澤	.071	22	19	14	1	1	0	0	0	1	2	0	3	2	1	.071	.158	2	0	0	1.000
藤川	.300	56	51	40	11	12	1	2	0	17	2	9	1	10	9	.425	.431	18	2	3	.870
山科(秀)	.240	46	37	25	10	6	1	0	0	7	2	3	2	10	6	.280	.432	7	0	1	.875
* 下垣	.222	6	10	9	2	2	1	0	0	3	1	2	0	1	1	.333	.300	0	1	3	.250
【30代】																					
池内	.304	71	106	92	18	28	4	3	2	44	25	6	4	10	16	.478	.358	11	14	4	.862
井上	.287	117	229	195	52	56	6	7	11	109	54	5	6	28	24	.559	.367	50	65	5	.958
今井	.314	161	536	436	125	137	23	9	45	313	139	26	11	89	57	.718	.422	571	124	28	.961
梅木	.333	40	10	6	13	2	0	1	0	4	2	9	2	2	2	.667	.400	0	0	0	-
荏原	.308	75	117	91	36	28	6	2	1	41	22	9	8	18	13	.451	.393	27	37	6	.914
斉藤	.196	90	77	56	12	11	1	0	0	12	5	5	8	13	7	.214	.312	108	7	7	.943
清宮	.195	49	55	41	9	8	0	0	1	11	5	3	1	13	11	.268	.382	17	28	9	.833
福田	.255	114	262	200	72	51	4	4	5	78	39	32	13	49	27	.390	.382	84	79	10	.942
松永	.287	64	145	115	37	33	1	2	7	59	23	16	2	28	25	.513	.421	40	12	5	.912
* 藤原	.267	19	40	30	8	8	0	1	0	10	5	1	2	8	5	.333	.400	54	4	4	.935
【31代】																					
来栖	.386	69	227	176	60	68	7	5	3	94	40	17	11	40	18	.534	.476	67	57	6	.954

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
黒澤	.292	45	32	24	11	7	1	1	0	10	0	0	2	6	5	.417	.406	8	2	2	.833
下沖	.344	180	603	468	156	161	25	9	16	252	112	58	35	100	54	.538	.433	279	297	30	.950
高木	.300	140	278	223	57	67	11	9	9	123	62	10	10	45	26	.552	.403	32	141	3	.983
森	.191	69	91	68	17	13	3	2	1	23	14	3	1	22	13	.338	.385	35	2	3	.925
山田	.339	134	372	322	81	109	10	11	16	189	68	35	8	42	41	.587	.406	657	34	22	.969
【32代】																					
渥美	.358	148	456	394	125	141	25	12	14	232	71	46	13	49	34	.589	.417	179	6	6	.969
安部	.000	22	6	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	.000	.167	1	1	0	1.000
梅沢	.280	81	89	75	25	21	3	1	0	26	14	12	3	11	14	.347	.360	36	83	10	.922
小林	.280	34	28	25	9	7	0	1	0	9	4	1	0	3	5	.360	.357	1	2	1	.750
藤倉	.222	17	10	9	3	2	1	0	0	3	2	0	0	1	2	.333	.300	1	0	0	1.000
藤田	.182	37	23	22	2	4	0	1	0	6	3	6	1	0	4	.273	.174	34	5	1	.975
* 城戸	.214	26	18	14	3	3	0	0	0	3	1	2	3	1	3	.214	.222	11	8	3	.864
【33代】																					
浅野	.364	128	349	283	86	103	18	19	12	195	79	20	7	59	46	.689	.464	120	149	15	.947
小澤	.268	88	69	56	25	15	3	2	0	22	14	9	1	12	7	.393	.391	28	31	3	.952
河口	.203	91	174	148	29	30	6	2	4	52	26	4	6	20	43	.351	.287	107	2	1	.991
田辺	.261	193	395	307	79	80	8	6	9	127	45	29	16	72	44	.414	.385	304	157	20	.958
土田	.321	214	559	486	131	156	31	6	33	298	130	22	11	62	59	.613	.390	717	25	10	.987
中山	.386	146	467	383	138	148	24	19	28	294	127	33	9	75	39	.768	.478	154	150	32	.905
毎田	.457	107	350	269	124	123	12	6	34	249	106	37	1	80	37	.926	.580	96	90	15	.925
本池	.288	52	99	80	20	23	4	2	2	37	23	1	5	14	21	.463	.374	13	22	2	.946
* 山口	.000	4	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	-
【34代】																					
加藤	.186	69	67	59	12	11	4	1	0	17	4	2	1	7	11	.288	.269	26	58	6	.933
川島	.310	148	458	378	101	117	12	7	23	212	74	30	6	74	50	.561	.417	179	11	4	.979
宮下	.288	120	115	80	28	23	0	0	1	26	3	28	16	19	15	.325	.365	20	43	10	.863
【35代】																					
卜部	.228	63	124	101	25	23	2	2	0	29	9	7	4	19	21	.287	.339	62	64	7	.947
草谷	.271	164	334	284	55	77	6	8	2	105	45	20	11	39	40	.370	.347	750	65	10	.988
土屋	.125	21	21	16	2	2	0	0	0	2	2	0	2	3	6	.125	.238	8	3	1	.917
寺田	.444	26	12	9	3	4	0	0	0	4	3	3	1	2	4	.444	.500	1	0	0	1.000
藤井(祐)	.421	160	517	406	159	171	22	24	29	328	131	28	8	103	45	.808	.530	85	90	16	.916
【36代】																					
伊藤	.193	72	102	88	13	17	0	3	2	29	8	7	3	11	20	.330	.275	18	2	4	.833
柿沼	.334	163	447	392	86	131	19	14	7	199	94	29	4	51	50	.508	.407	397	19	12	.972
木村	.083	22	14	12	0	1	0	0	0	1	0	1	1	1	3	.083	.143	0	0	0	-
後藤	.326	164	490	436	129	142	18	17	7	215	80	44	7	47	73	.493	.386	95	181	21	.929
深澤	.229	189	198	170	41	39	4	5	0	53	22	17	4	24	30	.312	.318	129	12	9	.940
藤井(岳)	.226	58	65	62	7	14	1	1	1	20	8	2	0	3	21	.323	.262	0	11	1	.917
* 中出	.143	10	8	7	2	1	0	0	0	1	0	0	0	1	4	.143	.250	0	0	0	-
【37代】																					
# 勝山	.320	191	632	547	146	175	16	18	9	254	120	64	8	77	83	.464	.399	871	66	10	.989
小島	.147	130	169	143	27	21	0	4	0	29	16	10	7	19	25	.203	.237	83	101	15	.925
島崎	.373	193	655	541	160	202	10	5	1	225	51	85	50	64	76	.416	.406	227	276	28	.947
# 関根	.380	314	1028	864	246	328	47	36	52	603	285	45	19	145	88	.698	.460	1004	282	33	.975
【38代】																					
# 石崎	.200	201	456	390	62	78	17	2	8	123	58	7	8	58	98	.315	.298	28	102	4	.970
瓜兼	.365	198	668	589	162	215	21	23	8	306	124	80	6	73	91	.520	.431	225	10	17	.933
宮下	.255	147	280	251	40	64	9	10	6	111	44	4	4	25	52	.442	.318	62	2	0	1.000
森	.354	130	299	254	69	90	4	11	2	122	48	29	5	40	33	.480	.435	383	107	9	.982
* 三科	-	1	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-
【39代】																					
# 青柳	.312	183	536	420	138	131	12	13	3	178	65	44	27	89	69	.424	.410	207	6	9	.959
# 大江	.345	182	485	417	111	144	27	10	7	212	82	31	12	56	44	.508	.412	73	162	13	.948
# 児玉	.414	215	717	587	210	243	35	30	42	464	189	56	10	120	61	.790	.506	326	350	58	.921
* 金井	.167	14	7	6	0	1	1	0	0	2	1	0	0	1	5	.333	.286	3	2	0	1.000
* 吉池	.240	18	27	25	5	6	0	1	1	11	4	0	2	0	3	.440	.222	4	0	0	1.000
【40代】																					
# 朝平	.291	161	349	265	91	77	9	6	2	104	44	47	15	69	37	.392	.418	112	159	26	.912
# 尾形	.366	123	312	276	67	101	17	9	11	169	67	20	2	34	31	.612	.433	85	9	10	.904
# 小山	.321	162	474	393	98	126	24	8	15	211	105	15	11	70	35	.537	.414	253	33	18	.941

選手名	打率	試合	打席	打数	得点	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打	打点	盗塁	犠打	四死球	三振	長打率	出塁率	刺殺	捕殺	失策	守備率
# 山形	.172	99	77	58	31	10	0	2	1	17	13	6	4	15	19	.293	.325	37	2	5	.886
* 小松	.000	12	6	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	.000	.333	29	1	0	1.000
* 永峰	.111	8	12	9	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3	4	.111	.333	0	0	0	-
【41代】																					
# 安齋	.327	60	63	49	25	16	0	1	0	18	5	6	2	12	11	.367	.444	3	8	0	1.000
# 塩谷	.266	90	222	188	42	50	11	3	7	88	38	3	3	31	39	.468	.365	526	39	12	.979
# 城川	.305	73	151	131	41	40	2	2	5	61	21	7	0	20	40	.466	.397	30	0	14	.682
# 菅原	.279	55	78	68	13	19	5	2	0	28	10	0	2	8	14	.412	.346	145	38	9	.953
# 鈴木	.146	58	112	96	14	14	0	0	0	14	15	7	1	15	23	.146	.259	20	5	2	.926
* 藤井	.500	6	4	4	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0	1	.500	.500	2	0	0	1.000
* 吉田	.000	12	6	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	.000	.500	8	18	3	.897
【42代】																					
# 真沢	.000	8	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	.000	.250	0	0	0	-
# 田澤	.000	11	1	1	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	.000	.000	4	2	5	.545
# 西村	.220	25	73	59	16	13	2	0	2	21	8	2	1	13	21	.356	.356	33	10	6	.878
- 網仲	.000	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	.000	.000	0	0	0	-
- 西多	.500	2	2	2	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	.500	.500	0	0	0	-

ランキング ～ Ranking ～

試合部門

勝率

順位	チーム名	勝率	勝	敗	分
1	学習院大学	.926	25	2	1
2	都留文科大学	.792	19	5	1
3	茨城大学	.792	19	5	1
4	埼玉大学	.760	38	12	2
5	文教大学	.757	81	26	2
6	松戸K's	.731	19	7	1
7	千葉大学	.693	95	42	4
8	中央大学	.571	20	15	1
9	高崎経済大学	.550	33	27	1
10	東京大学	.541	40	34	4
11	筑波大学	.537	44	38	2
12	日鐵溶接工業	.517	15	14	0
13	関東学園大学	.491	27	28	4
14	城西大学	.439	25	32	4
15	東海大学	.390	16	25	2
16	国際武道大学	.305	25	57	0
17	早稲田大学	.210	17	64	4
18	レッドスパローズ	.138	4	25	0
19	国土館大学	.103	3	26	0
20	丸善石油化学	.053	2	36	0
21	日本体育大学	.036	1	27	0

試合数

順位	チーム名	記録
1	千葉大学	141
2	文教大学	109
3	早稲田大学	85
4	筑波大学	84
5	国際武道大学	82
6	東京大学	78
7	高崎経済大学	61
8	城西大学	61
9	関東学園大学	59
10	埼玉大学	52
11	東海大学	43
12	丸善石油化学	38
13	中央大学	36
14	日鐵溶接工業	30
15	レッドスパローズ	29
16	国土館大学	29
17	日本体育大学	28
18	学習院大学	28
19	松戸K's	27
20	都留文科大学 茨城大学	25

勝利

順位	チーム名	記録
1	千葉大学	95
2	文教大学	81
3	筑波大学	44
4	東京大学	40
5	埼玉大学	38
6	高崎経済大学	33
7	関東学園大学	27
8	学習院大学 国際武道大学 城西大学	25
11	中央大学	20
12	茨城大学 都留文科大学 松戸K's 明治大学	19
16	柏台オールスターズ 早稲田大学	17
18	東海大学	16
19	日鐵溶接工業	15
20	日本大学 立教大学	13

総得点

順位	チーム名	記録
1	千葉大学	1056
2	文教大学	914
3	筑波大学	482
4	東京大学	460
5	埼玉大学	379
6	高崎経済大学	365
7	関東学園大学	328
8	早稲田大学	323
9	国際武道大学	318
10	城西大学	244
	中央大学	
12	学習院大学	206
13	茨城大学 柏台オールスターズ	205
15	明治大学	200
16	都留文科大学	193
17	松戸K's	178
18	東海大学	169
19	山梨学院大学	148
20	東京学芸大学	146

平均得点

順位	チーム名	記録
1	文教大学	8.39
2	茨城大学	8.20
3	都留文科大学	7.72
4	千葉大学	7.49
5	学習院大学	7.36
6	埼玉大学	7.29
7	中央大学	6.78
8	松戸K's	6.59
9	高崎経済大学	5.98
10	東京大学	5.90
11	筑波大学	5.74
12	関東学園大学	5.56
13	日鐵溶接工業	4.77
14	城西大学	4.00
15	東海大学	3.93
16	国際武道大学	3.88
17	早稲田大学	3.80
18	丸善石油化学	2.50
19	国土館大学	2.28
20	レッドスパローズ	2.17

敗北

順位	チーム名	記録
1	早稲田大学	64
2	国際武道大学	57
3	千葉大学	42
4	筑波大学	38
5	丸善石油化学	36
6	東京大学	34
7	城西大学	32
8	関東学園大学	28
9	高崎経済大学	27
10	日本体育大学	27
11	国土館大学 文教大学	26
13	東海大学 レッドスパローズ	25
15	中央大学	15
16	日鐵溶接工業	14
17	埼玉大学	12
18	立命館大学	11
19	関西大学 環太平洋大学 東京学芸大学 チッソ石油 丸善石油化学 USC浦安	10

総失点

順位	チーム名	記録
1	千葉大学	636
2	国際武道大学	574
3	早稲田大学	568
4	文教大学	509
5	筑波大学	374
6	東京大学	345
7	関東学園大学	340
8	高崎経済大学	335
9	城西大学	283
10	東海大学	250
11	丸善石油化学	367
12	中央大学	237
13	日本体育大学	228
14	埼玉大学	205
15	レッドスパローズ	203
16	国土館大学	173
17	日鐵溶接工業	151
18	丸善石油化学	118
19	松戸K's	112
20	関西大学	105

平均失点

順位	チーム名	記録
1	丸善石油化学	9.66
2	日本体育大学	8.14
3	国際武道大学 レッドスパローズ	7.00
5	早稲田大学	6.68
6	中央大学	6.58
7	国土館大学	5.97
8	東海大学	5.81
9	関東学園大学	5.76
10	高崎経済大学	5.49
11	日鐵溶接工業	5.03
12	文教大学	4.67
13	城西大学	4.64
14	千葉大学	4.51
15	筑波大学	4.45
16	東京大学	4.42
17	松戸K's	4.15
18	都留文科大学	4.04
19	埼玉大学	3.94
20	茨城大学	2.64

*1 丸善石油化学は、丸善石油とコスモ石油を同一チームとしてカウントしています。
*2 勝率、平均得点、平均失点は、試合数の多い上位21チームを集計対象としています。

投手部門

勝利

順位	代	選手名	記録
1	38	# 石崎 一輝	98
2	19	村上 忠興	87
3	31	高木 優	63
4	39	# 大江 雄登	58
5	26	橋本 淳	57
6	9	金藤 厳士	54
7	23	白石 将寛	49
8	30	井上 剛	44
9	33	浅野 由嗣	41
10	11	佐々木 義高	39
11	35	藤井 祐介	36
12	6	小野 透	29
13	3	清水 均	22
14	28	森高 紘平	19
15	8	佐藤 史明	18
16	20	中島 利充	17
17	10	上原 和男	15
18	13	高橋 康文	14
19	12	平本 慎吾	13
	15	小笠原 崇裕	
	28	山科 瞬	
	40	# 小山 純平	

防御率

順位	代	選手名	記録
1	19	村上 忠興	2.30
2	3	清水 均	2.49
3	9	金藤 厳士	2.83
4	10	上原 和男	3.32
5	11	佐々木 義高	3.347
6	6	小野 透	3.354
7	28	森高 紘平	3.36
8	30	井上 剛	3.41
9	38	# 石崎 一輝	3.50
10	23	白石 将寛	3.81
11	8	佐藤 史明	4.07
12	35	藤井 祐介	4.27
13	26	橋本 淳	4.32
14	39	# 大江 雄登	4.61
15	31	高木 優	4.62
16	13	高橋 康文	4.85
17	15	小笠原 崇裕	4.93
18	20	中島 利充	5.48
19	33	浅野 由嗣	5.61
20	34	加藤 金男	6.32

勝率

順位	代	選手名	記録
1	30	井上 剛	.721
2	39	# 大江 雄登	.674
3	9	金藤 厳士	.667
4	38	# 石崎 一輝	.653
5	19	村上 忠興	.640
6	11	佐々木 義高	.619
7	3	清水 均	.611
8	31	高木 優	.583
9	33	浅野 由嗣	.569
10	35	藤井 祐介	.545
11	26	橋本 淳	.518
12	8	佐藤 史明	.500
13	28	森高 紘平	.475
14	10	上原 和男	.469
15	6	小野 透	.468
16	15	小笠原 崇裕	.464
17	20	中島 利充	.436
18	23	白石 将寛	.434
19	13	高橋 康文	.389
20	34	加藤 金男	.367

登板

順位	代	選手名	記録
1	38	# 石崎 一輝	149
2	19	村上 忠興	142
3	26	橋本 淳	132
4	23	白石 将寛	127
5	39	# 大江 雄登	123
6	31	高木 優	122
7	9	金藤 厳士	88
8	33	浅野 由嗣	83
9	30	井上 剛	81
10	35	藤井 祐介	76
11	28	森高 紘平	71
12	6	小野 透	65
13	11	佐々木 義高	64
14	34	加藤 金男	53
15	20	中島 利充	50
16	8	佐藤 史明	45
17	40	# 小山 純平	41
18	3	清水 均	40
19	13	高橋 康文	39
20	10	上原 和男	36

完投

順位	代	選手名	記録
1	19	村上 忠興	132
2	38	# 石崎 一輝	109
3	23	白石 将寛	107
4	26	橋本 淳	84
5	31	高木 優	79
6	9	金藤 厳士	67
7	6	小野 透	62
8	35	藤井 祐介	60
9	39	# 大江 雄登	58
10	11	佐々木 義高	53
11	30	井上 剛	45
12	33	浅野 由嗣	41
13	3	清水 均	34
14	8	佐藤 史明	31
15	10	上原 和男	30
	13	高橋 康文	
	28	森高 紘平	
18	20	中島 利充	29
19	34	加藤 金男	25
20	15	小笠原 崇裕	23

投球回

順位	代	選手名	記録
1	19	村上 忠興	911
2	38	# 石崎 一輝	871
3	23	白石 将寛	759 2/3
4	26	橋本 淳	644 1/3
5	31	高木 優	620 1/3
6	9	金藤 厳士	539
7	39	# 大江 雄登	534 1/3
8	6	小野 透	415 1/3
9	11	佐々木 義高	397 1/3
10	33	浅野 由嗣	391 2/3
11	35	藤井 祐介	379
12	30	井上 剛	365
13	28	森高 紘平	271
14	8	佐藤 史明	259 2/3
15	3	清水 均	255 2/3
16	13	高橋 康文	244
17	20	中島 利充	239
18	10	上原 和男	223 1/3
19	34	加藤 金男	211 2/3
20	15	小笠原 崇裕	176

奪三振

順位	代	選手名	記録
1	38	# 石崎 一輝	1021
2	19	村上 忠興	898
3	31	高木 優	488
4	23	白石 将寛	408
5	26	橋本 淳	402
6	35	藤井 祐介	351
7	39	# 大江 雄登	321
8	30	井上 剛	291
9	9	金藤 厳士	267
10	33	浅野 由嗣	234
11	28	森高 紘平	218
12	6	小野 透	158
13	34	加藤 金男	121
14	40	# 小山 純平	109
15	20	中島 利充	95
16	28	山科 瞬	90
17	8	佐藤 史明	81
	11	佐々木 義高	
19	24	斎藤 拓司	66
20	10	上原 和男	63

被安打

順位	代	選手名	記録
1	23	白石 将寛	881
2	26	橋本 淳	765
3	31	高木 優	759
4	38	# 石崎 一輝	712
5	19	村上 忠興	639
6	39	# 大江 雄登	585
7	33	浅野 由嗣	540
8	9	金藤 厳士	514
9	11	佐々木 義高	438
10	35	藤井 祐介	412
11	6	小野 透	376
12	30	井上 剛	370
13	20	中島 利充	341
14	34	加藤 金男	309
15	13	高橋 康文	291
16	8	佐藤 史明	268
17	28	森高 紘平	255
18	3	清水 均	250
19	10	上原 和男	245
20	15	小笠原 崇裕	194

与四死球

順位	代	選手名	記録
1	38	# 石崎 一輝	485
2	26	橋本 淳	443
3	23	白石 将寛	330
4	19	村上 忠興	316
5	39	# 大江 雄登	302
6	31	高木 優	288
7	35	藤井 祐介	279
8	28	森高 紘平	278
9	6	小野 透	277
10	8	佐藤 史明	197
11	33	浅野 由嗣	179
12	9	金藤 厳士	177
13	13	高橋 康文	163
14	30	井上 剛	160
15	15	小笠原 崇裕	149
16	11	佐々木 義高	134
17	34	加藤 金男	128
18	24	斎藤 拓司	122
19	14	伊藤 智章	113
20	10	上原 和男	111

※ 防御率、勝率の規定投球回は157です。

打撃部門

打率

順位	代	選手名	記録
1	33	毎田 定弘	.457
2	29	早川 修平	.451
3	19	村上 忠興	.423
4	35	藤井 祐介	.421
5	39	# 児玉 佳輝	.414
6	28	森高 紘平	.395
7	17	細見 育男	.391
8	33	中山 翔	.386
9	37	# 関根 洋佑	.380
10	9	市丸 克司	.379

本塁打

順位	代	選手名	記録
1	29	早川 修平	70
2	37	# 関根 洋佑	52
3	30	今井 佑貴	45
4	39	# 児玉 佳輝	42
5	33	毎田 定弘	34
6	33	土田 健人	33
7	35	藤井 祐介	29
8	25	朝日 智幸	28
	33	中山 翔	
10	22	小寺 康彦	26

打点

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	285
2	29	早川 修平	248
3	39	# 児玉 佳輝	189
4	22	小寺 康彦	147
5	30	今井 佑貴	139
6	25	朝日 智幸	138
7	35	藤井 祐介	131
8	33	土田 健人	130
9	33	中山 翔	127
10	23	白石 将寛	126

試合

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	314
2	22	小寺 康彦	225
3	39	# 児玉 佳輝	215
4	33	土田 健人	214
5	29	早川 修平	212
6	38	# 石崎 一輝	201
7	38	瓜兼 雄太	198
8	33	田辺 晃大	193
	37	島崎 貴志	
10	27	角 直樹	192

打席

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	1028
2	22	小寺 康彦	755
3	39	# 児玉 佳輝	717
4	29	早川 修平	690
5	38	瓜兼 雄太	668
6	37	島崎 貴志	655
7	37	# 勝山 雄喜	632
8	9	市丸 克司	631
9	13	高橋 康文	607
10	31	下沖 航	603

打数

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	864
2	38	瓜兼 雄太	589
3	39	# 児玉 佳輝	587
4	22	小寺 康彦	584
5	29	早川 修平	556
6	37	# 勝山 雄喜	547
7	37	島崎 貴志	541
8	33	土田 健人	486
9	13	高橋 康文	480
10	9	市丸 克司	470

安打

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	328
2	29	早川 修平	251
3	39	# 児玉 佳輝	243
4	38	瓜兼 雄太	215
5	22	小寺 康彦	212
6	37	島崎 貴志	202
7	9	市丸 克司	178
8	19	村上 忠興	175
	37	# 勝山 雄喜	
10	35	藤井 祐介	171

二塁打

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	47
2	29	早川 修平	45
3	39	# 児玉 佳輝	35
4	33	土田 健人	31
5	19	村上 忠興	29
6	39	# 大江 雄登	27
7	22	小寺 康彦	25
	31	下沖 航	
	32	渥美 泰樹	
10	33	中山 翔	24
	40	# 小山 純平	

三塁打

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	36
2	39	# 児玉 佳輝	30
3	23	白石 将寛	26
4	35	藤井 祐介	24
5	38	瓜兼 雄太	23
6	13	高橋 康文	21
7	19	村上 忠興	20
8	26	山木 亮輔	19
	33	浅野 由嗣	
	33	中山 翔	

得点

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	246
2	39	# 児玉 佳輝	210
3	29	早川 修平	205
4	22	小寺 康彦	201
5	38	瓜兼 雄太	162
6	37	島崎 貴志	160
7	35	藤井 祐介	159
8	31	下沖 航	156
9	27	角 直樹	151
10	37	# 勝山 雄喜	146

塁打

順位	代	選手名	記録
1	37	# 関根 洋佑	603
2	29	早川 修平	542
3	39	# 児玉 佳輝	464
4	22	小寺 康彦	349
5	35	藤井 祐介	328
6	30	今井 佑貴	313
7	38	瓜兼 雄太	306
8	33	土田 健人	298
9	23	白石 将寛	294
	33	中山 翔	

盗塁

順位	代	選手名	記録
1	22	小寺 康彦	92
2	37	島崎 貴志	85
3	13	高橋 康文	80
	38	瓜兼 雄太	
5	27	角 直樹	74
6	10	上原 和男	73
7	37	# 勝山 雄喜	64
8	20	小寺 智之	59
9	14	竹内 一博	58
	31	下沖 航	

犠打

順位	代	選手名	記録
1	9	市丸 克司	67
2	37	島崎 貴志	50
3	28	森本 真史	41
4	8	滝川 治	36
5	8	宇田 賢司	35
	9	山下 英彦	
	31	下沖 航	
8	27	角 直樹	34
9	12	平本 慎吾	33
	21	小林 俊介	

四死球

順位	代	選手名	記録
1	22	小寺 康彦	152
2	37	# 関根 洋佑	145
3	39	# 児玉 佳輝	120
4	29	早川 修平	114
5	28	土肥 強	108
6	35	藤井 祐介	103
7	31	下沖 航	100
8	13	高橋 康文	96
9	9	市丸 克司	94
10	21	小林 俊介	93

三振

順位	代	選手名	記録
1	38	# 石崎 一輝	98
2	38	瓜兼 雄太	91
3	37	# 関根 洋佑	88
4	37	# 勝山 雄喜	83
5	37	島崎 貴志	76
6	36	後藤 康宏	73
7	39	# 青柳 拓弥	69
8	39	# 児玉 佳輝	61
9	33	土田 健人	59
10	28	森本 真史	57
	30	今井 佑貴	

長打率

順位	代	選手名	記録
1	29	早川 修平	.975
2	33	毎田 定弘	.926
3	35	藤井 祐介	.808
4	39	# 児玉 佳輝	.790
5	33	中山 翔	.768
6	30	今井 佑貴	.718
7	28	森高 紘平	.706
8	19	村上 忠興	.6980
9	37	# 関根 洋佑	.6979
10	33	浅野 由嗣	.689

出塁率

順位	代	選手名	記録
1	33	毎田 定弘	.580
2	35	藤井 祐介	.530
3	29	早川 修平	.529
4	39	# 児玉 佳輝	.506
5	22	小寺 康彦	.482
6	33	中山 翔	.478
7	19	村上 忠興	.471
8	33	浅野 由嗣	.464
9	37	# 関根 洋佑	.460
10	28	森高 紘平	.448

※ 打率、長打率、出塁率の規定打席は256です。

データ分析

～東京理科大学ソフトボール部40年の軌跡～



【1.背景と目的】

30 周年を迎えた 2007 年以降もこれまでと変わらず、インカレへの切符を掴むことは決して容易なものではなかったが、2016 年・2017 年には 2 年連続インカレ出場、秋季リーグ 2 年連続優勝、更には年間を通して過去最高勝率(0.729)更新という偉業を成し遂げた。現役メンバー全員の頑張り・高いマインド、柳田監督の熱烈指導があったことは勿論のことだが、この輝かしい記録をさらに進化させるにはどうしたらいいか、何に取り組むべきか。今回はそれを探っていく。

【2.分析方法】

近年メジャーリーグなどで使われている、セイバーメトリクスを用いて当部のインカレ出場時、不出場時で OPS や WHIP、得失点差から見た勝率に焦点を当て比較し、今後どの水準まで選手が能力を高めれば良いかを明確化するべくデータ化し、今後の指標に今回のデータを用いてインカレ出場に繋げていただきたい。

- * セイバーメトリクス:野球においてデータを統計学見地から客観的に分析し、選手の評価や戦略を考える分析方法

勝利＝得点＞失点 であることで前提に下記の内容で分析を進める。

＜得点＞

普段私達がよく目にする打率に比べ、“OPS (On-base plus slugging)”という指標の方が得点との相関が高いとプロ野球界では言われている。これは実際に理科大ソフトボール部でも言えるのか。また、相関が高かった場合はインカレ出場時、不出場時で比較する。

＜失点＞

次に、得点を取るだけではソフトボールは勝つことはできない。得点＞失点の関係性が大事になってくる。OPS は出塁率と長打率を足し合わせた指標だ。つまり、相手チームを出塁させなければ、必然的に得点との相関が高い OPS を下げることになるので、失点の危険性が減る。よって、ピッチャーが1イニング当たり何人を出塁させたか(何人走者を出したか)を示す指標の WHIP というものをインカレ出場時、不出場時で比較する。

＜勝率＞

最後に、ピタゴラス勝率というものを使い、当部の実際の得失点差によって導き出される勝利の期待値を求め、現状がどのようになっているか分析する。

【3.分析】

3-1 OPS (On-base Plus Slugging)

OPS とは出塁率と長打率を足し合わせた値で打者を評価する指標の一つである。

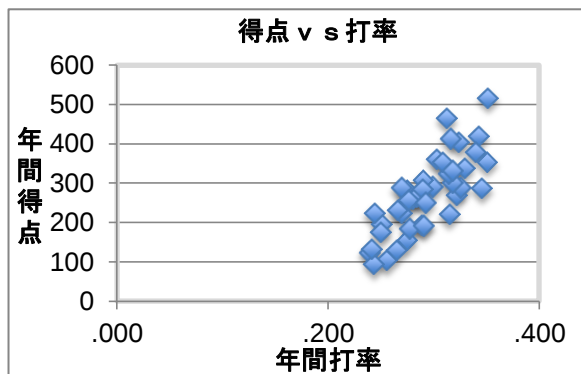
算出方法は

$$\text{OPS} = \text{出塁率} + \text{長打率}$$

従来の打率、本塁打数、打点だけでは測ることができなかった打者の能力を評価することができる。

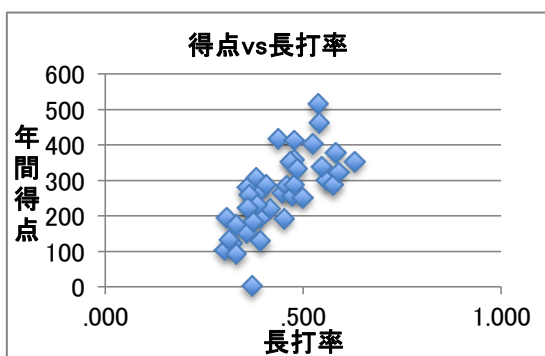
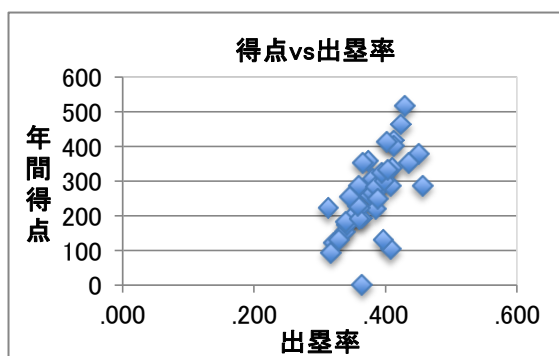
また、出塁率や長打率で見た場合よりも、OPS として見た場合の方が得点との相関が高い指標であることがわかる。簡略化すると、アウトにならない確率(出塁率)とランナーの進めやすさ(長打率)の長所を互いに集めた指標だ。

それでは、実際に東京理科大学ソフトボール部 40 年分のデータを駆使し実際に得点と各項目の相関関係を調べ、実際に OPS が得点と強い相関関係があるのか。その場合インカレ出場時、不出場時でどのような差があるのか探っていく。



左図は当部の年間打率と年間得点の相関関係を表した図だ。相関係数は **0.789**。かなり強い相関関係が見られる(相関係数が1に近ければ近いほど関係性が強い)。プロ野球の相関係数は 0.472 であり、このことからヒットを打つということはソフトボールの競技において、プロ野球以上に価値のあるものと分かる。

次に出塁率、長打率と得点のそれぞれの相関関係を見てみよう。



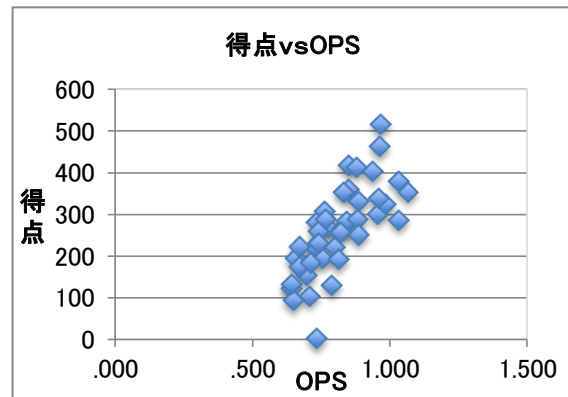
上から順に出塁率、長打率の相関関係のグラフになっている。

相関係数は出塁率 0.669、長打率 0.638 となっており、打率より得点との関係性は低いと言える。しかしプロ野球では出塁率 0.599、長打率 0.537 となっており出塁率 > 長打率という関係性は変わってはいないが、長打率に関してはプロ野球以上に得点との相関が高いと言える。

それでは最後に、OPS の相関関係を見てみよう。

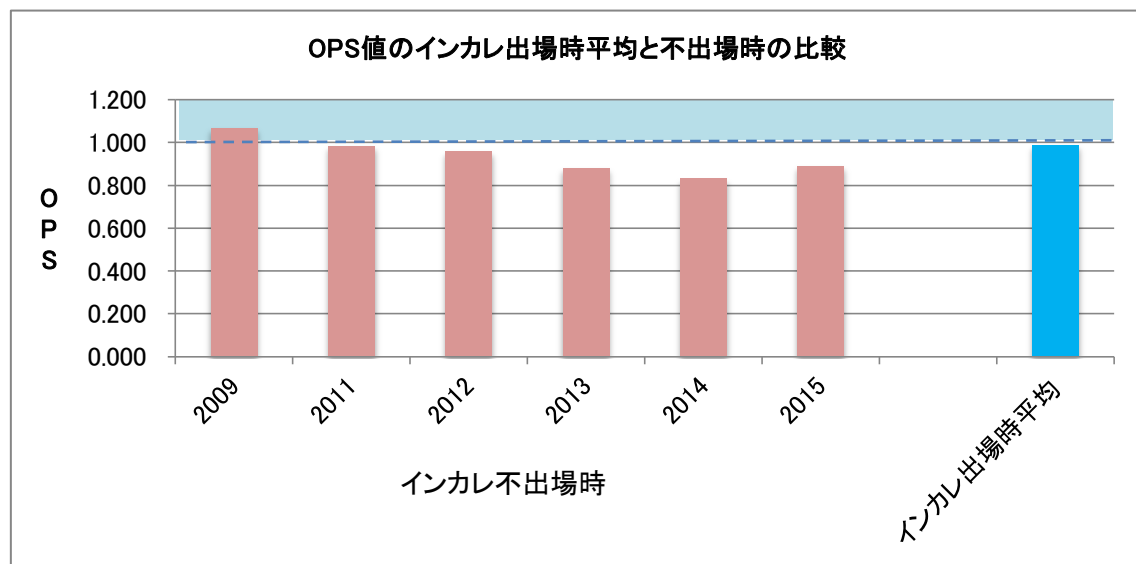
先程の項目以上に相関関係があることが見られる。

実際に数値で見ても相関係数 **0.870** と、打率・出塁率・長打率のデータとは比べものにならないほど強い相関関係となっている。因みに、プロ野球の OPS と得点の相関係数は 0.629 であり、いかにソフトボールにおいて OPS が得点に結びつく重要な指標であるかわかった。



では、OPS がインカレに出場するために本当に大事な指標であるかを調べていく。

ここ10年間のインカレ出場時の平均値と不出場時の年を比較する。



このグラフから、インカレ出場時は OPS は高いことがわかる。前述した通り OPS が高ければ高いほど得点が入りやすくなる。このことから、インカレへ出場するには出塁率と長打率と高めることが大事であるとわかる。

では次に守備を代表する投手について分析していこう。

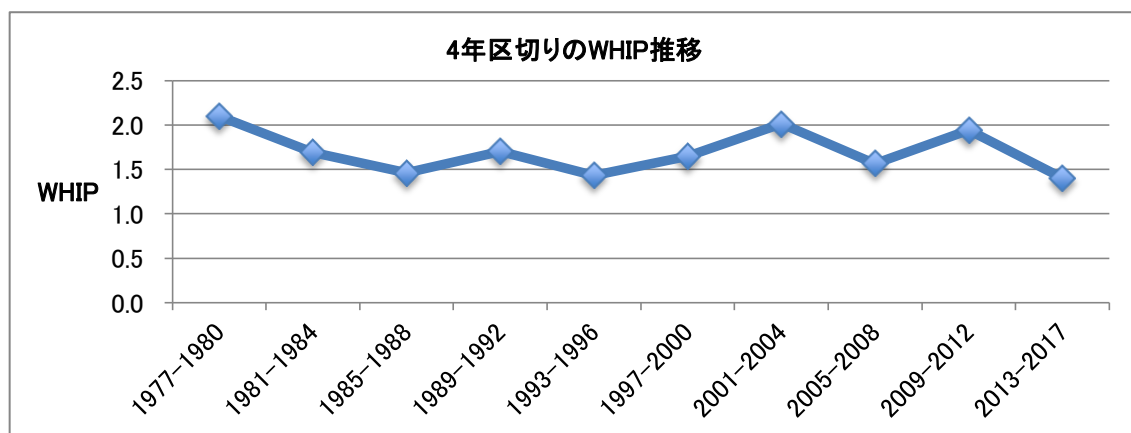
3-2 WHIP (Walks plus Hits per Inning Pitched)

WHIP とは、1イニングあたりでピッチャー自身の責任で何人の走者を出したかを表す数値。

算出方法は **(被安打 + 与四球) ÷ 投球回数 = WHIP**

この数値が小さければ小さいほどランナーを背負う可能性が少ないと言える。今回用いているセイバーメトリクスにおいて3-1でも説明したが、ランナーの出塁 = 得点率 UP という考え方なので、出塁を許さないということは得点をさせない。つまり、WHIP 値が低ければ、出塁させない安定感のある優秀な投手であると言える。

それでは WHIP の40年間の推移と、インカレ出場、不出場時で比較してみよう。



一時期値は高かったものの近年は著しく低下しており、投手力の向上がわかる。

素晴らしい	～1.0
非常に良い	1.1
平均以上	1.2
平均	1.3
平均以下	1.4
悪い	1.5
非常に悪い	1.6～

WHIP 数値の良し悪しの目安として左表が用いられている。

例として、**2015年パ・リーグ WHIP ランキング 1位 大谷翔平選手**の成績を
見てみる。

被安打100、与四球46、160.2/3イニング

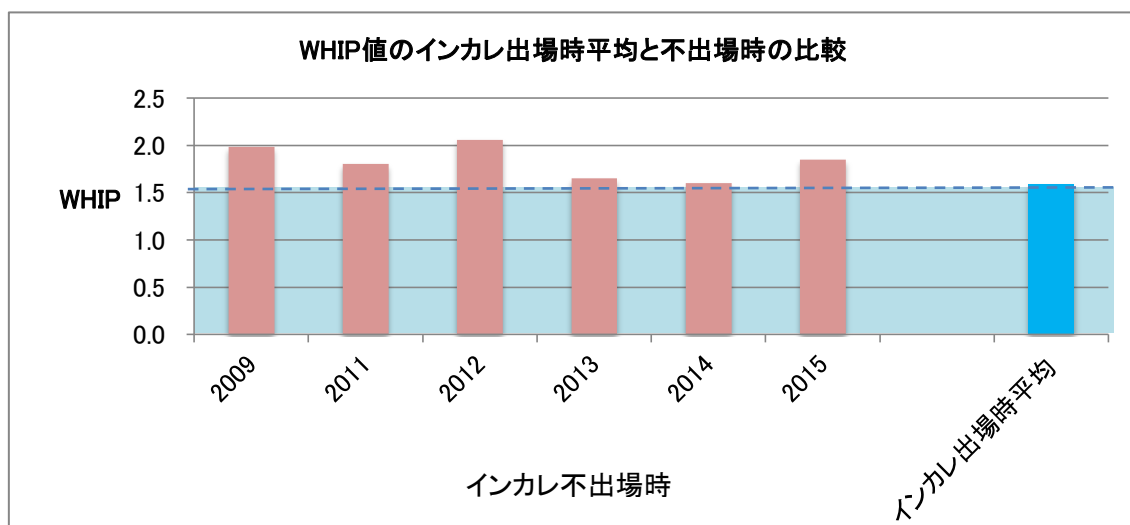
$(100 + 46) \div 160.2/3 = 0.91$ **非常に優秀な投手の成績だ。**

ここで、丸山克俊先生の WHIP を例として計算する。

被安打40、与四球4、38.1/3イニング $(40 + 4) \div 38.1/3 = 1.15$ **非常に良い投手の成績だ。**

つまり、大谷翔平選手は1イニング平均で1人も走者を出さないという値になっており、驚きの数値である。丸山先生は1イニング平均1.15人走者を出すという結果になっているが、平均で走者1.15人と考えるとこれも素晴らしい数字だ。

次にここ10年間の WHIP のインカレ出場時の平均値と不出場時の平均を比較してみる。



やはり、インカレへ出場している年は総合的に見ても投手が安定していると言える。3-1で OPS の値が高かった 2009 年にインカレへ出場できなかった要因もこの表でわかった。やはり**インカレへ出場するには如何に走者を出さないかという、投手を中心とした守備の安定感が大事になっていることがわかる。**

そして、丸山先生の WHIP を下回ることができたその時は日本一になれているのではないだろうか。

3-3 ピタゴラス勝率

3-1、3-2では OPS、WHIP という指標がインカレ出場と結びついているか明らかにしてきた。

インカレへ行くには勝負強さ、監督の采配が大事なのではないか？という疑問のために、別の切り口として、ピタゴラス勝率というものを使って勝率の期待値を計っていく。

ピタゴラス勝率の算出方法は

$$(\text{総得点の2乗}) \div (\text{総得点2乗} + \text{総失点の2乗}) = \text{ピタゴラス勝率}$$

である。ピタゴラス勝率は得点と失点から計算される勝率(期待値)である。

実際の勝率がピタゴラス勝率(期待値)を上回ったチーム(勝率>ピタゴラス勝率)は、監督の采配が秀でていて、勝負強さがあるなどの要因が推測される。逆に、下回る(勝率<ピタゴラス勝率)と実力を出し切れていなかったという考えになる。

実際に当部のピタゴラス勝率を算出して比較してみよう。まず、東京理科大学ソフトボール部の 40 年の公式戦の勝率平均は **0.478** である。ピタゴラス勝率は **0.457** である。なんと、**勝率>ピタゴラス勝率** となっている。期待値以上に勝利をしていることから、当部の勝負強さ、監督の采配の良さが分かる。

ここで、柳田監督が理科大ソフトボール部監督を引き継いでからの、各勝率に焦点を当てる。

年	インカレ出場	ピタゴラス勝率	勝率
2012		0.306	0.263
2013		0.765	0.632
2014		0.321	0.412
2015		0.484	0.381
2016	○	0.686	0.682
2017	○	0.720	0.625
平均		0.547	0.499

ほとんどの年で、ピタゴラス勝率>勝率という関係性になっている。残念ながら、理論上の期待値以上に勝ててないことがわかる。しかし、注目してもらいたいのはインカレ出場している 2016 年、2017 年も、ピタゴラス勝率>勝率という関係性になっている点だ。この点から、いかに公式戦の手に汗握るギリギリの試合を柳田監督は勝利へ牽引し、インカレへの切符を掴んできたかがわかる。また、勝利の期待値に、実際の勝率が達していないことから、今後の当部の伸び代が伺える。

【4.総括】

OPS と WHIP、ピタゴラス勝率という 3 つの項目で理科大ソフトボール部を分析した。

今回の分析でソフトボール(厳密には理科大ソフトボール部)での OPS という値は得点をするためには欠かせない指標であるがわかった。つまり、今後プレーや練習をする上で、OPS を伸ばす視点を持つべきであり、出塁率と長打率を上げることが大事である。**ポイントはいかに“ヒットを打つか”を考えるのではなく、いかに“出塁をするか”・“長打にするか”を考えるべき**という点である。ヒットを打つことは出塁を増やす一要因ではあるがすべてではない。選球眼を磨き上げ、四球をもぎ取る、相手の守備位置・ゲーム展開を読んでセーフティバントを決めることをもっと重要視すべきである。また、長打率を上げるには、打球の飛距離だけでなく、次の塁を狙う積極的な走塁意志、コーチャーズボックスに立つメンバーの判断力を高めることが重要となる。

守備面ではいかに出塁を許さないか。ソフトボールにとって四球を出すということは出塁率を上げる。相手チームの OPS を上げ、失点確率が高くなってしまう。このことから投手にはヒットを打たれること・四球を出してはならないことが求められる。一方で、WHIP が低い大投手になるには、強い信念での練習と時間が必要である。野手陣はこの期間を支え、チームの OPS を上げること、四球・完璧なヒット以外の出塁は許さない守備力を高めることが必要だ。

この分析結果から何に重点をおけばいいのか明らかにできた。しかし、これはあくまでも勝利要因の一部でしかない。他にもさまざまな視点・指標がある。ここから何を選択するかも含め、理科大ソフトボール部が日本一になるために、監督・選手全員が考えに考え抜いて、あるべきチームの姿を決め、それに向かって猛進することが求められる。

(40 代主将 小山純平、42 代 田澤佑介)

《参考 URL》

セイバー指標の代表格『OPS』について解説してみる。

<https://894ch.com/2017/sabermetrics/340>

WHIP とは？ピッチャーの成績を表す値

<http://best-performance.seesaa.net/article/433149018.html>

「ピタゴラス勝率」って何？ 指標で見る直近 5 年のパ・リーグ 6 球団の成績は

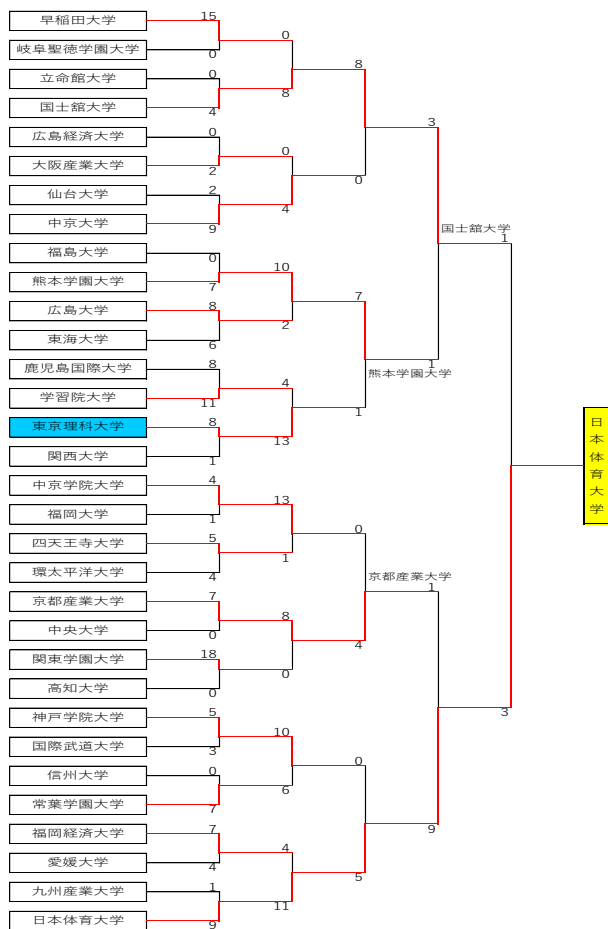
<https://full-count.jp/2017/01/22/post55714/>

インカレの歴史

The History of Intercollegiate Games



2008.8.27~31 第43回全日本大学選手権大会(宮城県東松島市)



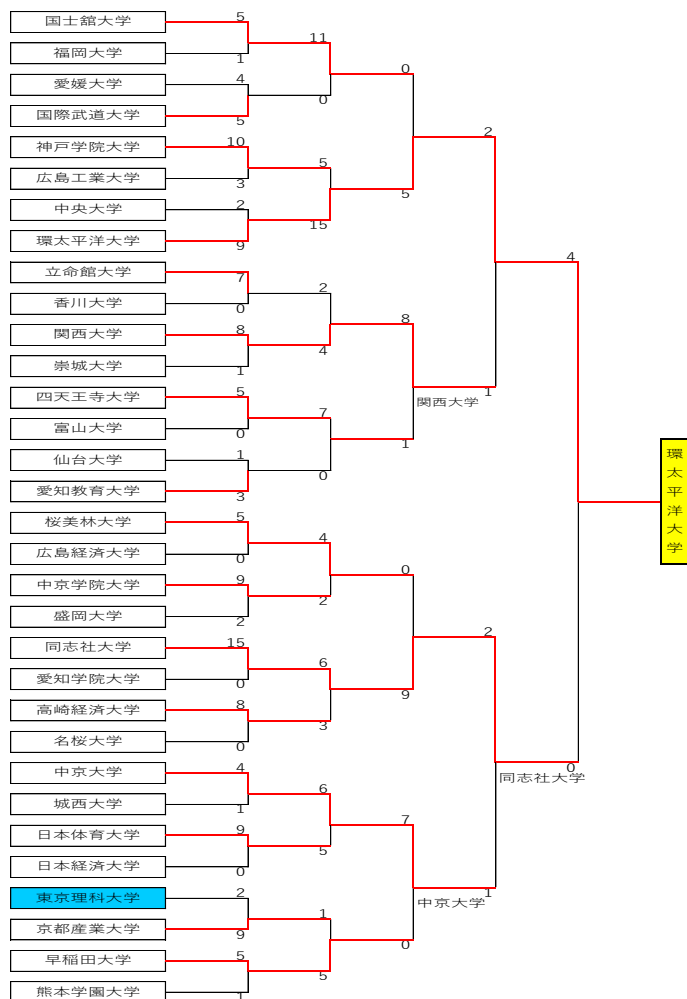
力投する第30代井上投手(左)



得点に沸く理科大応援団

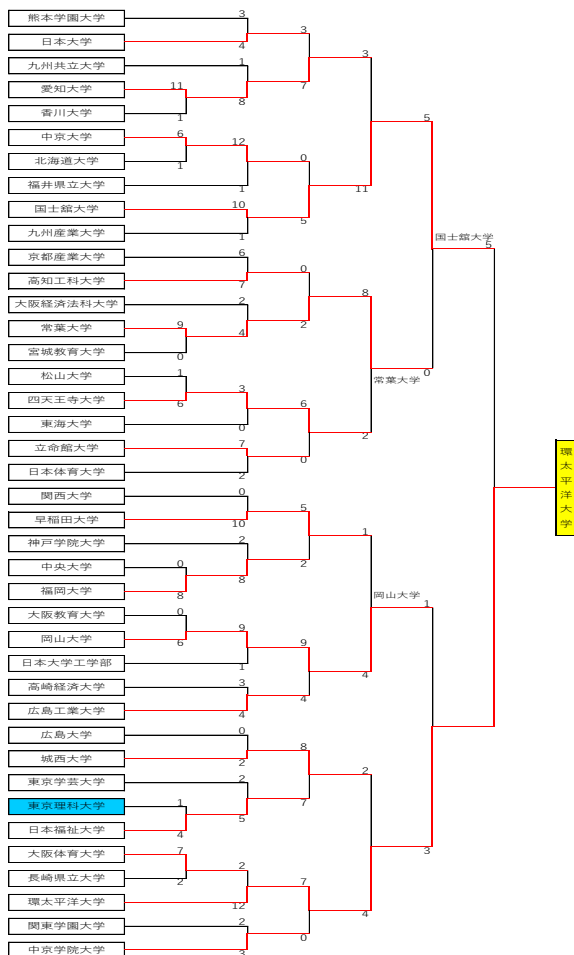


2010.9.9~12 第45回全日本大学選手権大会(富山県富山市)





2016.8.25~29 第51回全日本大学選手権大会(鹿児島県南九州市)



ピンチを切り抜けた理科大



**第38代 瓜兼主将(左)
森捕手(右)**



応援団の一コマ

インカレの歴史 (特別編) ~丸山監督最後の試合~ The Last Games of Mr.MARUYAMA as Field Manager



2011.8.12~14 第26回東日本大学選手権大会(新潟県長岡市)



逆点2ランを放った
第33代土田選手(左)



現役・OB全員での丸山監督胴上げ

コラム：現役部員の家族インタビュー②

～日頃より当部を支えて下さっている保護者の皆様に感謝を込めて～

第41代 塩谷家

① 理科大ソフトボール部の印象

選手が髪を染めたり、タバコを吸ったりすることなく、真面目にストイックに取り組んでいるように見えます。

また、試合観戦に行くと東京から遠く離れたところであってもOBの方々が応援に来られていたり、父兄に対する挨拶、試合での態度、相手チームへの敬意であったり、ソフトボールへ取り組む姿勢は、指導者である柳田先生の教えや延々と受け継がれた良い伝統だと感じます。

さらには、スポーツ推薦での入学・入部がない中で、勉強との両立は大変だと思うが、真摯に陰日向なく努力した成果がリーグ戦優勝やインカレ出場という結果に繋がっていると思います。



② 高校の部活と比べての違い

高校の部活動では指導者を中心に、選手がそのオーダーをこなしながらチームへの献身性が求められるが、I部リーグで活動する大学のチームは、練習時間の捻出や練習メニュー、自主的なトレーニング等、選手の主体性が中心であり、それぞれが自らの課題に向き合い、克服に向けて追い込んだ結果が高いチーム力に繋がっていると思います。簡潔に言えば大人のチームと子供のチームと言えるかもしれない。

③ 理科大ソフトボール部に入ってから成長

勉強と部活の両立で悩んでいたようだが、先輩方を見習うことで高いレベルを目指した生活パターンを築いているようです。

また、先輩、同級生、下級生と親密に付き合っているようで、特に先輩からはトレーニング方法や自主練だけでなく部活を離れた部分でも親しくしていただき、就職活動等の話を聞くなど親元を離れ心配していたことが杞憂であったと安堵しています。

高校までストイックに全国を目指すチームで活動していたこともあり、継続して全国レベルのチームで頑張ることが勉強のモチベーションにも繋がっているようです。



Road to Okayama

～2017年岡山インカレへの軌跡～



2016年鹿児島インカレに続いて、2年連続でインカレ出場
「日本一のロマンを求めて」
決して簡単ではなかった2017年岡山インカレへの道のり

確かに、理科大は他の大学よりも練習量は少ないかもしれない。
しかし、部員全員が日本一になるという強い思いがある。

激闘！！インカレ予選

2017年インカレ予選

インカレ予選は毎年5月の下旬に行われる関東学生選手権のことであり、上位4チームが本戦出場できる一発勝負のトーナメント制大会である。現在、関東地区からの本戦出場4枠をかけてⅠ部からⅢ部に所属している大学が総力をかけて激突する。

インカレ予選にはシード権が存在し、GWに開催されるⅠ部リーグ4位以上が条件である。このシード権を得ると、組合せ抽選において上位4大学は別のトーナメントブロックに入ることになり、インカレ出場を決めるまで対戦しない。インカレ予選を勝ち抜くためには、このシード権を取るかとらないかで大きく状況が変わってくる。理科大は2017年春季リーグ戦を3勝2敗と3位で終え、シード権を勝ち得た。しかし、油断は禁物である。2016年のインカレ予選では、Ⅲ部所属の日本大学生産工学部と対戦。その試合、理科大投手陣は不調。最終回まで打ち合いになり、負ける一歩手前のところまで追い込まれた。いくらシード権によってⅠ部5位以下としか当たらないとはいえ、何が起こるか分からないのがインカレ予選であると言える。

初戦：日本大学生物資源科学部

2017年インカレ予選組み合わせ抽選の結果、初戦が日本大学生物資源科学部に決まった。そして、同じトーナメントブロックにⅠ部のチームは入っていなかった。理科大にとって自分たちの実力をしっかり出せばインカレ出場権を得られる状況であった。しかし、去年の教訓を胸に、全員が1ミリの油断もない引き締まった状態で試合当日を迎えた。

理科大後攻で守備からのスタートとなった初回表、先発投手：大江が日大を三者凡退で試合の流れを早々に引き寄せる。初回裏の理科大の攻撃、先頭打者の勝山は「何とか先制点を、早い段階で取りたい」と考え、打席に入った。甘いボールを振り切った結果、先頭打者ホームラン。



とにかく明るい児玉主将、ホームラン直後の笑顔

引き寄せた流れをがっちりつかむべく、児玉もホームランを狙い、それを現実にする。初回裏、2本の柵越えホームラン他で一挙5点を先制した。集中と緊張、不安が入り混じったインカレ予選は最高の形でスタートできた。流れに乗った理科大は4回コールドで初戦をものにした。

2016年は守備からリズムを作ることが出来ず、攻撃でもボール球を打ち、チャンスをものにできず、なかなか流れを作ることが出来なかった。2017年は投手陣は丁寧にコーナーへ投げることで相手に思うような攻撃をさせず、打撃では守備からの流れにのる波状攻撃で一気に差を広げることが出来た。反省を活かしたゲーム展開であった。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
日大生物資源	0	0	0	0				0
東京理科大学	5	4	0	1×				10

バッテリー：大江、石崎ー塩谷
本塁打：勝山、児玉
二塁打：石崎、小山

インカレ出場決定戦：都留文科大学

初戦を突破した理科大はインカレ出場決定戦で、春季リーグ戦にてⅡ部昇格を決めて勢いづく都留文科大学と対戦することが決まった。

理科大後攻で始まった初回表の守備、先頭打者に四球を与え、チーム全体に緊張感と2016年の嫌な記憶がよみがえる。次打者を二塁ゴロに打たせ、4-6-3のダブルプレー。これで流れに乗るかと思われた。その気のゆるみが出てしまったのか、三番打者にホームランを浴び、1点を先制される。「やってしまった。このままでは負けるパターン」と先発投手：大江の鼓動は大きくなっていった。また、マネージャー渡辺も3年ぶりに入ったインカレ予選のベンチで、「やっぱり私は勝てないのかと考えていました」と当時の不安を話す。

2回裏の攻撃、石崎がヒット、尾形が四球を選び、チャンスを作る。そこで初戦先頭打者ホームランで勢いになる勝山がタイムリー三塁打を放ち、2点を返し逆転。

このまま理科大ペースかと思われた3回表、四球で出した走者をきっちりとバントで送られ、ピンチを迎える。ライト前ヒットを打たれ、再び試合を振り出しに戻される。都留文科大学も自分たちのソフトボールを丁寧に行い、流れを簡単に渡してくれない。一進一退の攻防が続く3回裏、先頭打者の児玉が二塁打を放つと、続く関根の2ランホームランで、再び突き放す。

4回表、都留文科大の攻撃、ここで理科大は投手を大江から石崎に変える。「もう少し粘りたかった」と大江には反省の色が出ていた。石崎はヒットを許すも危なげないピッチングで守備から流れをぐいぐい引き寄せる。

4回裏、ここで理科大の猛攻が始まる。

先頭打者の朝平が三塁線を抜けるランニングホームランを放つ。「まずは先頭打者として出ることを意識していた。結果的にランニングホームランを打てたのは良かった」と話す。その後、相手投手の不調を丁寧にものにする。四球をしっかりと選んで満塁にしたあと、押し出し、尾形のライト前ヒットで勢いは最高潮となる。朝平再びの三塁打、勝山大活躍の二塁打で一挙8得点！

インカレ決定戦を4回コールドで勝利し、2年連続のインカレ出場を決めた。サヨナラ打を放った勝山は「あそこで決められて本当に良かった」と大活躍の裏に感じていた“負けられない”という重圧からの解放の瞬間であった。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
都留文科大学	1	0	1	0				2
東京理科大学	0	2	2	8×				12

バッテリー：大江、石崎ー塩谷
本塁打：関根、朝平(ランニング)
三塁打：勝山、朝平
二塁打：児玉



インカレ出場を決め胸上げられる柳田監督

インカレ出場を決めて一段落したもの、理科大の戦いは終わらない。インカレに出場をしたことは過去に何回もあるが、インカレ予選である関東学生選手権で優勝したことはまだなかった。ここで優勝してやろうと選手全員がまた勢いづく。

関東学生選手権優勝へ

準決勝の相手は春季リーグ戦で1－2と惜敗した国際武道大学。インカレ予選で再度対決することとなった。春季リーグ戦では初回到1点先制したきりで援護が出来ず、最終回に逆転され負けた。「打撃陣がいかに勝負所で1本出せるかがこの試合のキーになる」と試合前ミーティングで再度気を引き締めて試合に臨んだ。

理科大先攻の初回表、青柳がレフト前ヒットで塁に出る。続く関根がバックスクリーンにホームランを放ち、幸先よく2点を先制できた。その裏の守備、二死から四球を与えるが、四番をショートライナーに抑える。

2回表、理科大の攻撃。二死二塁のチャンスを迎えるも後続が倒れ、流れをつかみきれない。その裏、武大の攻撃を三者凡退に抑え、守備からリズムを作りあげる。そして3回表、理科大の攻撃。インカレ予選からバットを変えて、当たりに当たっている関根がヒットで出塁。次打者の児玉がバックスクリーンにホームランを放ち、その差を4点に広げ、流れを一気につかむ。3回裏の守備、2本のヒットを許すも、得点をさせない。つかんだ流れを離さないよう全員が歯を食いしばる。



ホームラン後、監督・選手とハイタッチを交わす関根

そして迎えた5回表。先頭打者の児玉が四球を選んで出塁。続く城川、小山の連打で2点を加える。その後、塩谷が死球、朝平が四球で出塁しチャンスは止まらない。ワイルドピッチ他で2点を加え、この回一挙4点を加える。



最終回に登板した安齋

5回裏、コールドゲーム成立まで2点の猶予をもった状態で投手を安齋に交代。四球を出しながらも0点に抑えた。「いつかピッチャーが自分だけになった時、すべての試合を投げぬかなければならない。インカレ予選の緊張感の中投げられたことは良い経験になった」と安齋から来年以降のチームの柱になるのだという気持ちがあふれていた。5回コールドで春季リーグ戦のリベンジを果たした。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
東京理科大学	2	0	2	0	4			8
国際武道大学	0	0	0	0	0			0

バッテリー：大江、安齋－塩谷
本塁打：関根、児玉

決勝に進んだ理科大は、インカレ予選初優勝をかけ、強豪：城西大学と対決した。

城西大のエース宮原は大学男子ソフトボール屈指の好投手。高い身体能力を生かし、両足がピッチャーサークルから出るほど飛んで投げこむ球速120km/hを超えるドロップは凄まじい威力である。

4年生である宮原とはこれまでもリーグ戦等で何度も対戦しており、ホームランを放った選手もいる。今年で引退する宮原を打ち崩してインカレに行こうと意気込み、決勝戦に臨んだ。

理科大後攻の初回表、二死から三番打者に二塁打を浴び、ピンチを迎えるも後続を抑え、得点を許さない。その裏の攻撃、先頭打者の朝平、青柳、関根が三者凡退と大学男子ソフトボール界屈指の好投手宮原に完全に抑え込まれる。2回表、城西大の攻撃、先頭打者にソロホームランを浴び、1点を先制される。

その後も流れをつかめないまま迎えた4回表、テンポよく二死を取るが、七番打者にヒット、八番打者にも三塁打を浴び、追加点を許してしまい流れを城西大に持っていられる。

4回裏、理科大の攻撃、二死から三番の関根が二塁打を放ち、最大のチャンスで四番児玉を迎え、期待がかかる。しかし、惜しくもレフトフライに倒れ得点には至らない。

5回表、理科大は流れを変えようと投手を石崎から大江に交代したが、先頭打者に四球を与えてしまい、その後2ランホームランを浴びる。その差を4点に広げられ、城西大ベンチが湧きたつ。しかし、その裏の攻撃、先頭打者の五番石崎が二塁打でチャンスを作ると、八番の尾形がセンター前タイムリーヒットで1点を返し、理科大も意地を見せる。



二塁打を放ちに王立ちの石崎

しかし、反撃もここまで。尻上がりにコントロールが冴えわたる宮原を前に6・7回は3人ずつ打ち取られ、ゲームセット。悲願であるインカレ予選初優勝とはならなかったが、インカレの舞台で勝つために何をすべきかを再確認できた試合だった。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
城西大学	0	1	0	1	2	0	2	6
東京理科大学	0	0	0	0	1	0	0	1

バッテリー：石崎、大江ー塩谷
二塁打：関根、石崎

大会後、教員採用試験で忙しくなる大江は「今以上に空き時間を有効活用していかなければ、インカレでは活躍できない」と考え、時間の使い方を更に見直す必要性を感じたと話す。



試合後の集合写真

強豪との練習試合

高いレベルのソフトボールで自分たちがどこまで戦えるか、強豪との練習試合を通じて何が足りないかを見極めた。

早稲田大学戦

早稲田大学は2017年8月初旬に行われた東日本大学選手権で準優勝した強豪である。

4回裏に理科大先頭打者山形が出塁すると、続く勝山のタイムリーヒットで先制。流れを引き寄せたかに思えたが、次イニングで連続安打を浴び、すぐさま同点とされる。その後は投手石崎が粘り強い投球で得点を許さず7回まで終了した。急きょ、タイブレークの1イニングを追加し、理科大は投手を小山に変えてリズムを変えたが4点を取られる。攻撃ではあと一本が出ず敗北を喫した。



早稲田大学戦で先制のホームを踏む山形

第一試合

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	8	計
早稲田大学	0	0	0	0	1	0	0	4	5
東京理科大学	0	0	0	1	0	0	0	1	2

バッテリー：石崎、小山－塩谷
二塁打：児玉

試合後、二試合目の準備を行う早稲田大学の選手たちが全員でグラウンド整備を行っていた。これを見ていた柳田先生は後日、理科大で行った練習試合で下級生しか整備を行っていなかったことに対して指摘をした。選手たちは格の違いを改めて感じた出来事だった。

中京大学戦

同日、東海地区の春季リーグ戦で全勝優勝と力のある中京大学とも試合を行った。

試合は初回到勝山の先制ホームランで先手を取るが、前試合の疲れもあり、先発の石崎が中京打線に捕まる。2回には2点、4回には3点と得点を重ねられ、苦しい展開となる。終盤に2点返すも、5回から登板した小山も踏ん張れず、結局、6回コールド負けを喫した。

第二試合

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
中京大学	0	2	0	3	0	5		10
東京理科大学	1	0	0	0	2	0		3

バッテリー：石崎、小山－塩谷
二塁打：勝山
本塁打：勝山

ホンダエンジニアリング戦

日本代表が4人も所属する東日本リーグ所属ホンダエンジニアリングと練習試合の機会を貰い、大子遠征の最終日に茨城から栃木へ移動し試合を行った。

試合は一方的な展開となり惨敗。しかし、日本代表投手長井選手をはじめ、世界と戦うレベルのソフトボールを肌で感じ、理科大ソフト部の伸び代がまだまだあることを実感できた貴重な経験となった。



ホンダエンジニアリングとの練習試合

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
ホンダエンジニアリング	1	4	0	0	1	0	0	6
東京理科大学	0	0	0	0	0	0	0	0

バッテリー：大江、小山－塩谷
二塁打：朝平
三塁打：児玉

白熱の岡山インカレ

2017年の開催地は岡山県新見市。理科大は飛行機と現地チャーターバスで移動。万全のコンディションでインカレ本戦に臨んだ。

初戦：福岡大学（九州地区代表）

インカレの初戦の相手は福岡大学。体育会系の大学として有名であり、インカレ出場をかけた九州インカレで優勝し、3年連続42回目のインカレ出場を決めた強豪である。福岡大学のエース多久島は長崎選抜チームの一員として参加する力のある投手である。

理科大後攻の初回表、先発投手石崎の制球が定まらない。福岡大にエラーも絡んで走者をためられ、先制のタイムリー二塁打を許してしまう。2回表には二塁打・死球で一二塁のチャンスを作られ、2点タイムリー二塁打を打たれて追加点を許す。試合序盤ではライズを上手く打たれ3点を失った。3回に入る前、投手石崎と捕手塩谷の話し合いで投球の軸をライズから、ドロップとチェンジアップに変えようと決め、3回以降は塩谷が石崎をうまくリードし、福岡大の追撃をとめた。

失点を重ね、流れを完全に持っていかれたように見えたが、理科大も負けてはいない。2回裏、「1打席目は思い切り振りきる」と決めて打席に立った児玉が追撃のソロホームランを放つ。3回裏、一死一二塁のチャンスで再び児玉が3点ホームランを放ち、逆転に成功する。6回裏、一死二塁から青柳がライト前ヒットを放ち、二塁走者の児玉が本塁を狙うも、右翼手の好返球でタッチアウト。その後打者走者を捕手が二塁で刺し、ダブルプレー。追加点とはなかった。



福岡大学とのインカレ初戦

1点リードで迎えた最終回。先頭打者にヒットから一死二三塁と逆転のチャンスを作られる。エース石崎がここでギアを上げる。力のこもったピッチングで四番・五番を連続三振で抑え、ゲームセット。2016年には果たせなかった「インカレ勝利」を強豪の福岡大学からもぎ取ることが出来た。

この試合をエース石崎はこう振り返る。「児玉の2本のホームランはもちろん誰が見ても記憶に残ってるだろうけど、一塁ゴロを捕った勝山さんが印象的だった。一塁ゴロ初めて捕ってくれた。本当にびっくりした。あの日の勝山さんは足が動いてた。」これは緊張する大一番のインカレ本戦で選手が成長している証拠ではないだろうか。

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
福岡大学	1	2	0	0	0	0	0	3
東京理科大学	0	1	3	0	0	0	0	4

バッテリー：石崎ー塩谷
本塁打：児玉(2)

二回戦：城西大学（関東地区代表）

二回戦の相手は同じ関東地区代表の城西大学である。インカレ予選のリベンジを果たすべく臨んだ一戦であった。

初回、城西大学の二番打者にホームランを浴び先制点を許す。

3回裏、四球とヒットが重なって無死満塁のピンチを迎える。相手打者は四番。その初球、緩いフライとなり、誰もが打ち取ったと思った打球は一塁手の頭を超える不運なヒットとなり、その間に2点を追加される。

4回表、理科大は関根の三塁手強襲のヒットで出塁。その後、青柳がライト前ヒットを重ね、二死一二塁のチャンスを作るが、続かず得点には至らなかった。

5回裏、流れを変えたい理科大はここで投手を石崎から大江にスイッチした。大江の状態は万全ではなかったが、5・6回を三者凡退で抑え、守備から流れを手繰り寄せる。しかし、5回以降、ギアを上げた宮原を前にチャンスはおろか、ヒットも出せず、そのまま0-3で悔しい敗北を喫した。



城西大学との一戦に臨む理科大

チーム名	1	2	3	4	5	6	7	計
東京理科大学	0	0	0	0	0	0	0	0
城西大学	1	0	2	0	0	0	×	3

バッテリー: 石崎、大江-塩谷
二塁打: 大江

この試合で一番記憶に残ったプレーはなんといっても児玉のダイビングキャッチ。石崎もベンチで「児玉、成長したな。」と思ったそう。本人もびっくりのプレーだったようで、気づいたら自分が飛びついていて、左手に衝撃が走った。確認したらボールが入っていたと話す。



強烈ライナーをダイビングキャッチしチームを救った児玉

また、ヒットを打ってガッツポーズをするも怒られる場面もあった。怒られた本人に話を聞くと、「バットを短く持って打った執念のヒットだった。嬉しくてガッツポーズが出たが、ベンチに帰るとめっちゃくちゃ怒られた。なにがなんだかわからなかった」と話す。

彼の打った打球は右中間に飛び、ベンチにいるメンバーには二塁打を彷彿させた。インカレ本戦で宿敵の宮原投手からヒットを打った本人は一塁ベース上で喜びあふれるガッツポーズ。「今の打球では二塁に行けただろう!」というお叱りに戸惑いを隠せなかったようだ。

インカレに出る喜びからインカレで勝つ喜びへとマインドチェンジする必要がある。日本一のロマンを求めて、インカレに出続けることは欠かせられないと感じた一コマであった。

3年連続のインカレ出場へ

2018年インカレに向け、最上級生が抜けて新チームで臨んだ2017年秋リーグは優勝という最高のスタートを切った。しかし、投手頼みの試合が多く、守備・打撃共にインカレで勝つレベルに達していないと全員が感じる結果となった。2017年冬~2018年春にかけて心身を鍛え上げ、3年連続のインカレ出場を目指す。

40年間の歩み

(活動年表/OB・応援団名簿)

–105–

[illegible]

[illegible]

東京理科大学体育局ソフトボール部 OB・応援団名簿

OB

代	番号	氏 名	備考
初	002	荒井 芳幸	
初	003	岩崎 奨	
初	004	大竹 明	
初	005	真殿 宏	
初	006	山本 和男	
2	007	猪股 博英	
2	008	笠井 不出男	
2	009	佐藤 芳男	
2	011	清水 学	
3	012	岡田 隆信	
3	013	小澤 悦夫	
3	014	樋口 裕之	旧姓：加藤
3	015	木下 賢二	
3	016	桐谷 三郎	
3	017	清水 均	
3	018	中本 勝也	
3	019	不破 徹	ご逝去
3	020	本多 敦	
4	021	秋山 哲男	
4	022	雨宮 誠	
4	023	井上 正仁	
4	024	上野 俊明	
4	025	奥山 健司	
4	026	野呂 匡	
5	027	石岡 秀哲	
5	028	瀬谷 光俊	
5	029	田中 孝	
5	032	本田 清美	
6	033	阿久津 正廣	
6	034	小野 透	
6	035	上川 誠二	
6	036	原 雅保	
6	037	兵頭 利広	
6	038	吉山 耕一郎	
7	039	今村 勝孝	ご逝去
7	040	國崎 一彦	
8	041	宇田 賢司	
8	042	佐藤 史明	
8	043	滝川 治	
8	044	田中 稔	
8	045	千葉 宏	
8	046	樋口 豊	
8	047	湊 弘治	
8	M01	柴田 恵子	
9	048	石井 誠一	
9	049	石上 敏	
9	050	市丸 克司	
9	051	金藤 敏士	
9	052	高尾 浩司	
9	053	古川 智志	
9	054	山下 英彦	
9	055	山元 輝彦	
10	056	池田 秀男	
10	057	池永 靖	
10	058	上原 和男	
10	059	岡田 茂樹	
10	060	加柴 光章	
10	061	川瀬 洋一	
10	062	直木 庄司	
10	063	中島 博	
10	064	山本 士朗	
10	M02	三木 垂夫	旧姓：小口

代	番号	氏 名	備考
11	065	久保田 浩之	
11	066	佐々木 義高	
11	067	高橋 則和	
11	068	中野 恭成	
12	069	江島 秀剛	
12	070	大江 憲一	
12	071	黒田 健嗣	
12	072	寺田 佳樹	
12	073	平本 慎吾	
12	074	眞栄城 繁樹	
13	075	浦部 幹夫	
13	076	高橋 康文	
13	077	吉田 武史	
13	M03	高橋 久美子	旧姓：矢戸
14	078	伊藤 智章	
14	079	河西 利幸	
14	080	日下 栄也	
14	081	佐藤 米彦	
14	082	竹内 一博	
14	083	土屋 誠一	
15	084	小笠原 崇裕	
15	085	奥山 諭	
15	086	齊田 浩明	
15	087	乃一 太郎	
15	088	山本 庸介	
15	M04	吉田 直子	旧姓：加藤
16	089	市川 新也	
16	090	坂江 剛	
16	091	提島 正一	ご逝去
16	092	十倉 督	
16	093	長澤 弘毅	
16	094	西河 知也	
16	095	松島 淳	
17	096	秋葉 和彦	
17	097	石渡 誠一郎	
17	098	川畑 毅一	
17	099	對馬 健五	
17	100	細見 育男	
17	101	宮地 一徳	
17	102	吉田 直人	
17	M05	土屋 道子	
18	103	岩科 浩一	
18	104	神谷 展行	
18	105	川本 直也	
18	106	杉山 太郎	
18	107	関島 貴浩	
18	108	服部 彰浩	
18	109	森岡 章	
18	110	森田 史夫	
18	M06	永武 雅美	旧姓：木原
19	111	小川 健太郎	
19	112	小澤 一仁	
19	113	小山田 義利	
19	114	小寺 智裕	
19	115	小林 智哲	
19	116	近藤 周一	
19	117	芝 卓実	ご逝去
19	118	田原 康平	
19	119	村上 忠興	
19	120	山川 浩史	
19	M07	小倉 裕子	旧姓：嶋野
19	M08	谷口 弥鈴	
20	121	石井 一広	ご逝去
20	122	岡田 一宏	
20	123	小寺 智之	
20	124	篠原 剛史	
20	125	中島 利充	
20	126	西村 世大郎	
20	M09	坂本 奈緒	旧姓：上村
20	M10	立浪 育代	旧姓：釣谷

代	番号	氏名	備考
21	127	伊藤 誠悟	
21	128	鎌田 博史	
21	129	小林 俊介	
21	130	近藤 太郎	ご逝去
21	131	播田 寛	裕行
21	132	細田 孝之	
21	M11	西谷 有希	旧姓：渡邊
22	133	熊井 康之	
22	134	小寺 康彦	
22	135	武田 浩之	
22	136	山本 尚武	
22	M12	佐藤 まどか	旧姓：渡辺
23	137	白石 将寛	
23	138	西山 彰人	
23	139	馬場 博敬	
23	140	藤間 義人	
23	M13	浦池 恵美	旧姓：浅田
24	141	石浦 大輔	
24	142	上野 浩司	
24	143	内山 琢郎	
24	144	斎藤 拓司	
24	145	西谷 恵二	
24	146	波崎 良平	
24	147	牧内 洋一	
25	148	朝日 智幸	
25	149	生駒 学	
25	150	小塩 直紀	
25	151	根本 健司	
25	152	堀田 昌平	
25	M14	根本 真希子	旧姓：田中
26	153	橋本 淳	
26	154	山本 亮輔	
26	M15	高木 友字子	旧姓：中村
27	155	角 直樹	
27	156	高橋 雄治	
27	157	坪沼 悠	
27	158	戸田 剛史	
27	159	中原 崇之	
27	160	古川 裕章	
27	M16	笹内 綾	旧姓：中川原
28	161	眞貝 孟	
28	162	土肥 強	
28	163	水上 徹	
28	164	森高 純平	
28	165	森本 真史	
28	166	山科 瞬	
28	167	吉永 崇人	
29	168	五十嵐 政嗣	
29	169	早川 修平	
29	170	平澤 泰樹	
29	171	藤川 隆介	
29	172	山科 秀	
29	M17	鈴木 恭子	旧姓：多田
29	M18	山科 みづほ	旧姓：西田
29	M19	我妻 晴美	
30	173	池内 雅彦	
30	174	井上 剛	
30	175	今井 佑貴	
30	176	梅木 大輔	
30	177	荏原 翔太	
30	178	齋藤 重人	
30	179	清宮 悠磨	
30	180	福田 浩樹	
30	181	松永 裕輝	

代	番号	氏名	備考
31	182	来栖 昌和	
31	183	黒澤 太希	
31	184	下沖 航	
31	185	高木 優	
31	186	森 義博	
31	187	山田 裕介	
31	M20	中川 真規子	旧姓：岡本
32	188	渥美 泰樹	
32	189	安部 太一	
32	190	梅沢 正貴	
32	191	小林 正浩	
32	192	藤倉 裕斗	
32	193	藤田 直樹	
33	194	浅野 由嗣	
33	195	小澤 龍正	
33	196	河口 大輔	
33	197	田辺 晃大	
33	198	土田 健人	
33	199	中山 翔	
33	200	毎田 定弘	
33	201	本池 高大	
33	M21	友光 裕子	
34	202	加藤 金男	
34	203	川島 充裕	
34	204	宮下 翔太	
34	M22	荒巻 伶	
34	M23	林 咲嬉	旧姓：伊東
34	M24	木下 南海子	旧姓：佐内
35	205	卜部 孝文	
35	206	草谷 悠介	
35	207	土屋 翔太	
35	208	寺田 一弥	
35	209	藤井 祐介	
35	M25	近藤 恭子	
36	210	伊藤 宏紀	
36	211	柿沼 翔太	
36	212	木村 高也	
36	213	後藤 康宏	
36	214	深澤 奎太	
36	215	藤井 岳	
37	216	勝山 雄喜	★
37	217	小島 正旭	
37	218	島崎 真志	
37	219	関根 洋佑	★
37	M26	渡辺 舞	★
38	220	石崎 一輝	★
38	221	瓜兼 雄太	
38	222	宮下 佳也	
38	223	森 裕章	
39	224	青柳 拓弥	★
39	225	大江 雄登	★
39	226	児玉 佳輝	★
39	M27	大和 綾巳	
40	227	朝平 峻行	★
40	228	尾形 洸亮	★
40	229	小山 純平	★
40	230	山形 承聖	★

★：2017年度現役部員

応援団

代	番号	氏 名	備考
41		安齋 颯良	★
41		塩谷 陸	★
41		城川 樹生	★
41		菅原 侑	★
41		鈴木 謙介	★
42		真沢 優吾	★
42		田澤 佑介	★
42		西村 圭悟	★
42		宮地 美沙	★

★ : 2017年度現役部員

代	番号	氏名	備考
	C01	灘本 明代	旧姓：伊藤
	C02	阿部 雪	旧姓：木村
	C03	高田 登詩子	旧姓：辰野
	C04	植木 千秋	旧姓：平野
	C05	後藤 好見	旧姓：吉田
	C06	保福 直子	旧姓：尾崎
	C07	土田 幸子	
	C08	徳野 悦子	
	C09	田村 優子	旧姓：中村
	C10	入野 隆之	
	C11	鈴木 庸介	
	C12	佐藤 洋介	
	C13	下垣 勇介	
	C14	城戸 成彰	
	C15	中出 寛人	
	C16	網仲 幸男	



2017年岡山インカレ

東京理科大学体育局ソフトボール部 部則

(名 称)

第1条 この会を、東京理科大学体育局ソフトボール部（以下、当部）と称する。

(目 的)

第2条 当部は、東京理科大学（以下、本学）の建学の精神に基づき、本学学則並びに体育局規約を遵守し、ソフトボール競技を通して心身の鍛錬を図り、質実剛健、団結和協の精神を具備した一流の人物を育てることを目的とする。

(目 標)

第3条 当部は、前条の目的を達成するために、次の目標に向かって鋭意努力する。

- (1) 全日本大学ソフトボール選手権大会において優勝を目指すこと。
- (2) その他の大会において常に優勝を目指すこと。
- (3) 公式試合・練習試合を通して他チームとの親睦を深めること。
- (4) 機関誌『理窓ソフトボール年報』を刊行し、チームの伝統を知的に築き上げること。

(部 員)

第4条 当部は、本学の学生・大学院生をもって組織する。

2. 当部への入部に際しては、部長宛てに『入部届』を提出しなければならない。
3. 当部の退部に際しては、部長宛てに『退部願』を提出しなければならない。

(顧 問)

第5条 当部の顧問は、本学学生部長が認める専任教員とする。

2. 当部には、顧問の推薦により本学学生部長が認める学内指導員をおくことができる。

(幹部役員)

第6条 当部を円滑に運営するために次の幹部役員をおく。

- (1) 主 将：1名 (2) 部 長：1名 (3) 副 将：1～2名
- (4) 副部長：若干名 (5) 会 計：若干名 (6) 会計監査：2名
2. 主将は、練習・試合に関する総責任者とする。
3. 部長は、学内及び対外的な連絡・交渉に関する総責任者とする。
4. 副将は、主将を補佐する。
5. 副部長は、部長を補佐する。
6. 会計は、経理・財務の責任者とする。
7. 会計監査は、定期的に会計を監査する。
8. 幹部役員の任期は、大学2年次の9月1日から大学3年次の8月31日までの1年間とする。ただし、主将については、大学3年次の9月1日から大学4年次の8月31日までとする。
9. 幹部役員の選出については別に定める。ただし、会計については、原則として、女子マネージャーがその任に当たるものとする。

(コーチングスタッフ)

第7条 当部の目的並びに目標を達成するために次のコーチングスタッフをおく。

- (1) 監 督：1名 (2) ヘッドコーチ：1名 (3) チーフコーチ：若干名

- (4) コーチ：若干名
- 2. 当部には、顧問・監督・幹部役員が相談の上、総監督・総監督補佐・監督補佐、並びに学外指導員をおくことができる。
- 3. コーチングスタッフの任期は、毎年、9月1日から翌年8月31日までの1年間とする。
- 4. コーチングスタッフの選出については別に定める。

(会 議)

第8条 当部の運営を円滑に進めるために次の会議をおく。

- (1) 部会 (2) 幹部役員会議
- 2. 部会は、当部の最高議決機関とし、本学学部学生部員並びに選手登録をしている大学院生によって構成する。
- 3. 部会は、必要に応じて主将または部長が招集する。
- 4. 幹部役員会議は、部会に準ずる当部の議決機関とし、第6条に定める幹部役員によって構成する。
- 5. 幹部役員会議は、必要に応じて主将または部長が招集する。
- 6. 顧問並びにコーチングスタッフは、必要に応じて部会及び幹部会議に出席して意見を述べる事ができる。また、必要に応じてその会議への招集を要請することができる。
- 7. 会議の議事は、出席者の過半数の同意によって決定する。ただし、顧問並びに幹部役員が重要事項とみなし、部会の同意を得た場合には、出席者の3分の2以上の同意によって決定する。

(会 計)

第9条 当部の経費は、次の収入によって支出する。

- (1) 部費 (2) 補助金（助成金） (3) 寄付金 (4) その他
- 2. 部費等の徴収金額については別に定める。
- 3. 当部の会計年度は、毎年、1月1日から12月31日までとする。

(名誉顧問・名誉会員)

- 第10条 当部には、名誉顧問・名誉会員をおくことができる。
- 2. 名誉顧問・名誉会員は、幹部役員会の推薦により、部会において決定される。
- 3. 名誉顧問・名誉会員は、当部の運営について、必要に応じて相談に応じる。

(表 彰)

- 第11条 当部の発展に著しい功労のあった者については、幹部役員会並びに部会の議決を経て表彰することができる。

(事務局)

- 第12条 当部の事務局は、〒278-8510 千葉県野田市山崎 2641 東京理科大学体育局ソフトボール部内におくとともに、部長の自宅を関係各位との連絡先とする。

付 則

この部則は、昭和52年9月1日より施行する。

付 則

この部則の最終改正は、平成30年2月21日とする。

東京理科大学ソフトボール部OB会会則

第 1 章（名称）

第1条 本会は、東京理科大学ソフトボール部OB会と称する。

第 2 章（目的）

第2条 本会は、東京理科大学体育局ソフトボール部の維持発展に寄与するとともに、会員相互の親睦を図ることをその目的とする。

第 3 章（事業）

第3条 本会は、目的達成のため、次の事業を行う。
一、東京理科大学体育局ソフトボール部の活動に対する支援
二、現役・OB懇親会
三、現役・OB対抗戦
四、その他

第4条 本会は、会員に対し、年間次の通知をする。

- 一、会費納入依頼
- 二、総会開催案内
- 三、決算報告書
- 四、活動報告書
- 五、その他

第5条 本会は、次の事項に対し意を表する。

- 一、会員の慶弔
- 二、会員が公的機関又は団体から表彰されるなど名誉を得た場合
- 三、その他、会長が認めた場合

第 4 章（会員）

第6条 本会の会員は、本会則を遵守し、本会の目的達成に貢献するものとする。

第7条 本会は、次の会員をもって組織する。

- 一般会員 東京理科大学体育局ソフトボール部卒業生
- 特別会員 本会への入会を希望し、かつ会員の推薦により総会で認められた者
- 学生会員 東京理科大学体育局ソフトボール部の幹部を終了した大学生と大学院生

第8条 一般会員は、38年分の会費を納める義務を有する。
但し、マニージャ―として当部に在籍していた女性の一般会員については、会費を免除する。
また会長が特に認めた一般会員については、個別の事情を考慮し、会費を免除することができる。

第 5 章（役員、名誉役員）

第9条 本会に次の役員を置く。

- 会長：1名 副会長：若干名 顧問：若干名
- 幹事長：1名 常任幹事：若干名 幹事：各代から1～2名 監査：1名

第10条 会長・副会長・幹事長・常任幹事・幹事・監査は、一般会員及び特別会員の中から総会において選出する。
顧問は、会長が委嘱する。

第11条 会長は、本会を総理し、本会を代表する。
副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合は会長の職務を代行する。
顧問は、本会の運営について助言する。

第12条 幹事長は、本会の公務を統括する。
常任幹事は、本会の運営に関する常務を執行する。
幹事は、本会の運営に関する業務執行に従事する。
監査は、本会の活動及び会計を監査する。

第13条 役員の任期は1年とし、再任はこれを妨げない。
就任期間は4月1日より翌年3月31日までとする。

第14条 本会に次の名誉役員を置くことができる。
名誉顧問 若干名

第15条 名誉顧問は、会長が委嘱する。

第16条 名誉顧問は、会長の諮問に応じ、本会の運営について助言する。

第 6 章（事務局）

第17条 本会に事務局を置く。

第18条 事務局に次の構成員を置く。

- 事務局長 1名
- 事務局次長 1名
- 事務局員 若干名

第19条 事務局長・事務局次長は、幹事長が会長と協議して会員の中から指名する。
事務局員は、事務局長が幹事長と協議して、会員の中から指名する。

第20条 事務局長は、本会の運営に関する事務を遂行する。
事務局次長は、事務局長を補佐し、事務局長が不在の場合は事務局長の職務を代行する。

第21条 事務局長・事務局次長・事務局員の任期は1年とし、再任はこれを妨げない。
就任期間は4月1日より翌年3月31日までとする。

第 7 章（会議）

第22条 本会は、次の会議を置く。

- 一、総会
- 二、幹事会（常任幹事会）

第23条 総会は、本会最高の決議機関であり、本会の会員によって構成される。

第24条 総会にやむを得ず欠席する会員は、委任状を提出することができる。

第25条 総会は、会員の出席者と委任状の合計数が、会員の合計数の半数以上となった場合に成立する。
なお、会員が委任しない意思を表明しない場合は、委任状を提出したものとみなす。

第26条 総会の決議は、出席した会員の過半数の同意をもって、これを決する。

第27条 総会は、定例と臨時の2つとする。

第28条 定例総会は、年間1回とし、会長がこれを招集する。
臨時総会は、会長が必要と認めた場合、会長がこれを招集することができる。

第29条 総会の議長は、幹事長がこれにあたり、書記は、幹事長が指名する。

第30条 総会は、次の事項を承認または決議する。

- 一、会則の改正に関する事項
- 二、本会の運営に関する事項
- 三、決算報告に関する事項
- 四、役員選出に関する事項
- 五、その他、本会の目的を達成するための事項

第31条 幹事会は、役員及び事務局長・事務局次長・事務局員をもって構成される。

第32条 幹事会は、会長と協議の上で幹事長がこれを招集する。

第33条 幹事会は、次の項目について討議し、総会に上程する。

- 一、会則の改正
- 二、本会の活動方針及び経過・結果報告
- 三、予算及び決算
- 四、その他

第34条 幹事会には、会議の円滑化を図るために常任幹事会を置く。
常任幹事会は、会長・副会長・幹事長・常任幹事・監査・事務局長・事務局次長によって構成し、会長と協議の上で幹事長がこれを招集する。
なお、会長・幹事長の判断によって、その他の会員等を加えることができる。

第 8 章（会計）

第35条 本会の経費は、次の収入をもってこれに充てる。

- 一、会費
- 二、寄付金
- 三、雑収入

第36条 本会の会費は、年額5,000円とする。

第37条 本会の会計年度は、1月1日より12月31日とする。

第38条 本会の決算は、会計監査を受けなければならない。

第39条 経費に不足が生じた場合には、会長の承認を得て、臨時に会費を徴収することができる。

第 9 章（改正）

第40条 本会則は、総会において、出席した会員の3分の2以上の同意をもって改正することができる。

第 10 章（付則）

第41条 本会則は、平成3年9月1日より施行する。

【改定履歴】

- (1) 平成19年3月3日 全面改訂
- (2) 平成22年3月27日 改正
 - ・第13条 「就任期間は」以降を追加
 - ・第19条 「一般会員及び学生会員」を「会員」に変更
 - ・第21条 「就任期間は」以降を追加
 - ・第24条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
 - ・第25条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
 - ・第26条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
 - ・第40条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
- (3) 平成23年3月5日 改正
 - ・第25条 「委任状提出者」を「委任状を提出した欠席者」に変更
 - ・第26条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
 - ・第40条 「一般会員・特別会員」を「会員」に変更
- (4) 平成24年3月20日 改正
 - ・第8条 「また会長が」以降を追加
- (5) 平成26年3月8日 改正
 - ・第7条 「現役部員であり、かつ幹部を終了した者」を「幹部を終了した大学生と大学院生」に変更
 - ・第8条 「38年分の」を追加

The organizational chart of the Japan Association of University Students (JAUS) is structured as follows:

- 総会 (General Assembly)**
 - 名誉役員 (Honorary Officers)** (indicated by a dotted line box)
 - 名誉顧問 (Honorary Advisor)**
 - 幹事会 (Executive Committee)**
 - 役員 (Officers)**
 - 顧問 (Advisor)**
 - 監査 (Auditor)**
 - 会長 (President)**
 - 副会長 (Vice President)**
 - 幹事長 (Executive Director)**
 - 常任幹事 (企画主担当) (Regular Officer (Planning Main Charge))**
 - 常任幹事 (企画副担当) (Regular Officer (Planning Deputy Charge))**
 - 常任幹事 (財務主担当) (Regular Officer (Finance Main Charge))**
 - 常任幹事 (財務副担当) (Regular Officer (Finance Deputy Charge))**
 - 常任幹事 (総務主担当) (Regular Officer (General Affairs Main Charge))**
 - 常任幹事 (総務副担当) (Regular Officer (General Affairs Deputy Charge))**
 - 幹事 (Officers)**
 - 事務局 (Secretariat)**
 - 事務局長 (Secretariat Director)**
 - 事務局次長 (Deputy Secretariat Director)**
 - 事務局員 (Secretariat Staff)**
- 一般会員・特別会員・学生会員 (General Members, Special Members, Student Members)**

A legend indicates that a grey box represents a **…常任幹事会メンバー (…Regular Executive Committee Member)**.

- ・会長は、本会を総理し、本会を代表する。〔第5章 第11条〕
- ・副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある場合は会長の職務を代行する。〔第5章 第11条〕
- ・顧問は、本会の運営について助言する。〔第5章 第11条〕
- ・幹事長は、本会の公務を統括する。〔第5章 第12条〕
- ・常任幹事は、本会の運営に関する常務を執行する。〔第5章 第12条〕
- ・幹事は、本会の運営に関する業務執行に従事する。〔第5章 第12条〕
- ・監査は、本会の活動及び会計を監査する。〔第5章 第12条〕
- ・名誉顧問は、会長の諮問に応じ、本会の運営について助言する。〔第5章 第16条〕
- ・事務局長は、本会の運営に関する事務を遂行する。〔第6章 第20条〕
- ・事務局長次長は、事務局長を補佐し、事務局長が不在の場合は事務局長の職務を代行する。〔第6章 第20条〕

SPECIAL THANKS

東京理科大学学長	藤嶋 昭 先生
名誉顧問	尾立 晋祥 先生（東京理科大学名誉教授）
東京理科大学学生支援センター長（教授）	藤代 博記 先生
公立学校法人山陽小野田市立 山口東京理科大学理事長	池北 雅彦 先生
東京理科大学教授（理事）	兵庫 明 先生
東京理科大学教授（体育研究室代表）	清岡 智 先生
千葉県ソフトボール協会会長	扇原 賢二 様
千葉県ソフトボール協会理事長	井之上 哲夫 様
学内指導員	和泉 巧 様（東京理科大学神楽坂校舎財務部部長）
名誉会員	網仲 幸男 様（くすりの福太郎 薬剤師）
株式会社ハイングラフ専務取締役	佐藤 弘之 様（東京理科大学工業化学科・昭和57年卒）
ふるさと五兵衛ご夫妻	増尾 直文 様、信子 様
名誉顧問	丸山 克俊 先生（東京理科大学名誉教授）
顧問・監督	柳田 信也 先生（東京理科大学専任講師）
記念誌企画協力	小山家（第40代） 塩谷家（第41代）

東京理科大学体育局ソフトボール部 創部40周年記念実行委員会

名誉顧問	丸山 克俊 先生
顧問・監督	柳田 信也 先生
総責任者	千葉 宏（第8代）
相談役	笠井 不出男（第2代）、小澤 悦夫（第3代）、瀬谷 光俊（第5代）
アドバイザー	野呂 匡（第4代）、滝川 治（第8代）、高尾 浩司（第9代）、古川 智志（第9代）
推進責任者	竹内 一博（第14代）
実行委員長	森高 紘平（第28代）
財務責任者	大江 憲一（第12代）
総務責任者	浦部 幹夫（第13代）
現役責任者	（正）大江 雄登（第39代）、（副）朝平 峻行（第40代）

◆ 40周年記念式典・記念パーティー

実施責任者	小林 智哲（第19代）
実施副責任者	小寺 康彦（第22代）
企画立案/推進	宮下 翔太（第34代）、藤井 岳（第36代）、大和 綾巳（第39代）
企画推進補佐	竹内 一博（第14代）、浅野 由嗣（第33代）
企画委員	尾形 洸亮（第40代）、小山 純平（第40代）、安齋 颯良（第41代）
司会進行	宮下 翔太（第34代）、大和 綾巳（第39代）
写真	下垣 勇介（第29代）、林 咲嬉（第34代）
会場	品川プリンスホテル メインタワー



◆ 40 周年記念式典・記念パーティー

編集責任者	森高 紘平 (第 28 代)
編集副責任者	日下 栄也 (第 14 代)
編集長	渡辺 舞 (第 37 代)
副編集長	中山 翔 (第 33 代)
編集委員	朝平 峻行 (第 40 代)、菅原 侑 (第 41 代)
構成／編集統括	滝川 治 (第 8 代)、高尾 浩司 (第 9 代)、古川 智志 (第 9 代)
印刷	株式会社ハイングラフ

40 周年記念誌コンテンツ担当者一覧				
コンテンツ	現役責任者	OB 担当	分担	協力
表紙	渡辺舞 (37) 大江雄登 (39)	森高紘平 (28)	題字・デザイン	株式会社ハイングラフ
発刊にあたって	—	森高紘平 (28)	編集	
目次	—	森高紘平 (28)	編集	
祝辞・挨拶	—	千葉宏 (8)	—	丸山克俊先生、古川智志 (9)、森高紘平 (28)
「創部 40 周年記念式典・記念パーティー」	—	森高紘平 (28)	編集	写真提供：下垣勇介 (29)、林咲嬉 (34)
スナップ	—	高尾浩司 (9)	編集支援	
激動の 10 年間	丸山監督から柳田監督への バトンタッチ	—	浅野由嗣 (33)	丸山克俊先生、柳田信也先生、林咲嬉 (34)
	柳田スタイルへの変化	朝平峻行 (40)	—	情報収集・編集 勝山雄喜 (37)、関根洋佑 (37)、宮地美沙 (42)
	取り巻く環境の変化ルール編	菅原侑 (41)	—	情報収集・編集 山形承聖 (40)
	取り巻く環境の変化 グラウンド・生活・大学編	菅原侑 (41)	—	情報収集・編集 城川樹生 (41)、真沢優吾 (42)
	各代紹介 (30 代～42 代)	渡辺舞 (37)	—	情報収集・編集 井上剛 (30)、森義博 (31)、藤田直樹 (32)、 浅野由嗣 (33)、林咲嬉 (34)、近藤恭子 (35)、 藤井岳 (36)、島崎貴志 (37)、石崎一輝 (38)、 青柳拓弥 (39)、児玉佳輝 (39)、 山形承聖 (40)、塩谷陸 (41)、西村圭悟 (42)
	ユニフォーム・部旗変遷	大江雄登 (39)	滝川治 (8)	編集・精査 勝山雄喜 (37)、尾形洗亮 (40)、城川樹生 (41)
	OB が追いかける日本一	—	森高紘平 (28)	編集・精査 吉永崇人 (28)、浅野由嗣 (33)、宮下翔太 (34)
40 年間 の戦績 (全記録)	40 年間の記録	大江雄登 (39)	古川智志 (9)	編集・精査 小林智哲 (19)、青柳拓弥 (39)、安齋颯良 (41)
	データ分析：インカレで勝つために	小山純平 (40)	—	編集・分析 田澤佑介 (42)
	インカレの歴史	—	宮下翔太 (34)	編集・精査
コラム：現役部員の家族インタビュー		朝平峻行 (40)	—	情報収集・編集 関根洋佑 (37)、小山純平 (40)、塩谷陸 (42)
Road to Okayama 2017 年岡山インカレへの軌跡		尾形洗亮 (40)	—	情報収集・編集 石崎一輝 (38)
40 年間の歩み (活動年表)		—	滝川治 (8)	精査 —
OB・応援団名簿		—	浦部幹夫 (13)	編集・精査 小林智哲 (19)
東京理科大学体育局ソフトボール部 部則		菅原侑 (41)	—	精査
東京理科大学ソフトボール部 O B 会 会則・組織図		—	森高紘平 (28)	精査
SPECIAL THANKS/スタッフ		渡辺舞 (37)	森高紘平 (28)	編集・精査
編集後記		渡辺舞 (37)	森高紘平 (28)	編集 大江雄登 (39)、朝平峻行 (40)、菅原侑 (41)

【40 周年記念企画 特設サイト】

本記念誌の原稿 (PDF ファイル) と、記念式典・記念パーティーの様子を撮影した写真・動画、上映ムービーをご覧ください。

右の QR コード、URL からアクセスしてください。



<http://www.tussoftballclub.com/40th/>

編集後記

40周年企画である記念式典・記念パーティー、記念誌の統一コンセプトは“バトンタッチ”です。特に記念誌では、30周年記念以降、理科大ソフトボール部に起こった最大の変化である、丸山監督のご勇退・柳田監督の就任を特集として取り上げました。丸山監督慰労会・柳田監督激励会、丸山先生最終講義・記念パーティー、丸山監督引退試合についてはしっかりと形に残すべく、出来るだけ多くの写真を盛り込みました。

どのような組織におきましても、世代交代は大きな課題のひとつです。東京理科大学ソフトボール部はその節目を乗り越え、新たなスタートを切っております。次はOB会の番です。40周年記念企画に携わった若手OBが先輩・同期・後輩を巻き込み、「熱意と誠意は人心を動かし協力を生む」、「良いことに上限はない」、この言葉を胸に50周年という大きな節目に向けて、現役支援体制をより一層充実させていきたいと考えております。

この記念誌作りにかかわっていただいた先生方、OB・OG諸氏、現役部員、応援団の皆様、そして多大なご協力をいただいた株式会社ハイグラフィック様、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

40周年記念誌編集責任者 森高 紘平
(東京理科大学ソフトボール部OB会常任幹事)

◆先生方をはじめOB・OGの皆様、記念誌編集にご協力いただき、本当にありがとうございました。編集長という大役をいただいたこと、とても幸せに思います。

本誌制作にあたり、東京理科大学ソフトボール部の強い“繋がり”を改めて実感しました。先輩方の連携の強さ、現役部員の協力が、ソフトボールという一つの共通点でたくさんの人が繋がり、守り続けられたチームの証であると感じました。40年の歴史の中で、私が直接かかわったのは6年間で、しかし、この先50年、100年と続くチームに本誌を残せること、そしてこのような居場所があることを嬉しく思います。

編集長
渡辺 舞
(第37代)



◆理科大ソフトボール部の40周年記念誌が完成することが出来たことを記念誌編集に携わったものとして大変嬉しく思っております。

この10年間は丸山先生から柳田先生への移り変わりの期間となりました。理科大ソフトボール部においても伝統を引き継ぎ、より良いものを新たに生み出すとても大事な期間だったのだらうと私は感じています。

これからは、さらに新たな技術やより細かい分析、戦術をしていき、日本一を目指して頑張っていくと欲しいと思います。この40周年という節目に現役責任者として記念誌制作に携われたことを誇りに思います。

現役責任者(正)
大江 雄登
(第39代)



◆40周年という節目の年に、記念誌編集に携わる機会をいただいたことを大変感謝しております。

これから東京理科大学が日本一を獲るために、分析力が鍵となってきます。記念誌のコンテンツを作っていく中で、40年分の歴史がきれいに記録として残っていることに、素直に感動しました。

先輩方から脈々と受け継がれてきた記録は、かけがえのない贈り物です。現役部員だけで戦っているわけではない。「100年かかって日本一」の意味が少しでも分かった気がしました。そして私自身も紡がれてきた40周年の一部となれたことを誇りに思います。

現役責任者(副)
朝平 峻行
(第40代)



◆この記念誌制作に関わったことで、過去の成績や環境を調べることが多々ありました。制作にあたって、中身の濃い40年間を知ることができ、入部してまだ2年も経ちませんが、40周年という歴史を作り上げてきた先輩方の素晴らしさを感じる事ができました。

また、OB会の支えがあり、現役部員が連携することで歴史と伝統が作られていくのだと、記念誌を残す立場になり、実感できました。50周年という大事な節目を迎えるためにも、人とのつながり、感謝を大事にしていこうと思いました。

編集委員
菅原 侑
(第41代)



**日本一のロマンを求めて
～100 年かかっても日本一を 夢の継承～
東京理科大学体育局ソフトボール部 創部 40 周年記念誌**

発 行 日	2018 年 3 月 26 日
発 行 所	東京理科大学ソフトボール部 O B 会 〒278-0022 千葉県野田市山崎 2641
編集責任者	森高 紘平
印 刷 所	株式会社ハイングラフィック 〒950-2022 新潟県新潟市小針 1-11-8

